

注3

大学番号：私203

[平成29年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

認可

京都ノートルダム女子大学 現代人間学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人ノートルダム女学院
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 大学改革推進室

職名・氏名 ダイカクカイカクスイシヤツ イシカワ ヒトシ
大学改革推進室 石川 均

電話番号 075-706-1701

（夜間）

F A X 075-706-3707

e-mail kaiso@notredame.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

現代人間学部

<福祉生活デザイン学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	19
4. 既設大学等の状況	20
5. 教員組織の状況	22
6. 附帯事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	40

<心理学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	43
2. 授業科目の概要	47
3. 施設・設備の整備状況、経費	58
4. 既設大学等の状況	59
5. 教員組織の状況	61
6. 附帯事項等に対する履行状況等	74
7. その他全般的事項	76

<こども教育学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	79
2. 授業科目の概要	83
3. 施設・設備の整備状況、経費	96
4. 既設大学等の状況	97
5. 教員組織の状況	99
6. 附帯事項等に対する履行状況等	113
7. その他全般的事項	114

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人ノートルダム女学院

(2) 大学名

京都ノートルダム女子大学

(3) 大学の位置

〒606-0847

京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ワダ タマキ) 和田 環 (平成20年11月)		
学長	(セリタ ケンタロウ) 芹田 健太郎 (平成25年4月)	(サナダ マサコ) 眞田 雅子 (平成29年4月)	前任者は平成29年3月31日任期満了、平成29年4月に後任者が就任したため(29)
学部長	(ナカムラ クミ) 中村 久美 (平成29年4月)	(カトウ サチコ) 加藤 佐千子 (平成29年4月)	予定者は副学長に就任、平成29年4月に新たに就任したため(29)
学科主任	未定	(ウシダ ヨシミ) 牛田 好美 (平成29年4月)	平成29年3月に決定したため(29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
現代人間学部 福祉生活デザイン学科 学士(福祉生活デザイン)	家政関係 社会学・社会 福祉学関係	4年	70人	— 年次人	280人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	70 (-) [-]	(-) [-]	70 (-) [-]	(-) [-]	70 (-) [-]	(-) [-]	0.61倍	一倍	一部入試 において 学内2学科 併願制を 導入 (元)
志願者数	() []	() []	() []	() []	68 (-) [1]	(-) [-]	76 (-) [3]	(-) [-]	160 (-) [4]	(-) [-]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	66 (-) [1]	(-) [-]	75 (-) [3]	(-) [-]	150 (-) [4]	(-) [-]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	62 (-) [1]	(-) [-]	71 (-) [2]	(-) [-]	142 (-) [4]	(-) [-]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	37 (-) [-]	(-) [-]	42 (-) [-]	(-) [-]	51 (-) [1]	(-) [-]			
入学定員超過率 B/A					0.52		0.60		0.72				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	37 (-)	[-] (-)	42 (-)	[-] (-)	51 (-)	[1] (-)	[-] (-)	
2年次			[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	34 (-)	[-] (-)	40 (-)	[-] (-)	[-] (-)	
3年次					[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	32 (-)	[-] (-)	[-] (-)	
4年次							[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	
計	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	37 [-] (-)	- [-] (-)	76 [-] (-)	- [-] (-)	123 [1] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
平成28年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	37 人	3 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	3 人	0	学生個人の心身に関する事情1名, 進路変更(就職)1名, 除籍1名
平成30年度	76 人	4 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	2 人	0 人	進路変更(他大学)1名, 除籍1名
			平成30年度	2 人	0 人	学生個人の心身に関する事情1名, 進路変更(就職)1名)
令和元年度	123 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
合 計		7 人		7 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の数値を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の数値については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \text{ } \% \quad \text{[図表: 0%の割合を示す長方形]} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \text{ } \% \quad \text{[図表: 0%の割合を示す長方形]} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{37} = \text{ } \% \quad \text{[図表: 8.10%の割合を示す長方形]} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{76} = \text{ } \% \quad \text{[図表: 5.26%の割合を示す長方形]} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{123} = \text{ } \% \quad \text{[図表: 0%の割合を示す長方形]} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<現代人間学部 福祉生活デザイン学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	日本文学	1前		2								兼1
	外国文学	1後		2								兼1
	日本近現代史	1前		2								兼1
	日本の宗教	1後		2								兼1
	東アジア近現代史	1前		2								兼1
	ヨーロッパ近現代史	1後		2								兼1
	歴史の中の女性	1後		2								兼1
	身近な心理学	1前		2								兼1
	文化人類学	1後		2								兼1
	暮らしの法律学	1前		2								兼1
	憲法と人権	1後		2								兼1
	暮らしの経済学	1後		2								兼1
	国際関係論入門	1前		2								兼1
	社会学概論	1後		2								兼1
	ジェンダー論	1前		2								兼1
	ボランティア概論	1前		2								兼1
	子育てとワークライフバランス	2前		1								兼1
	こどもと子育ての生活環境学	2前		1			4					
	海外研修(生活と社会)	1-2-3-4年		1			1	1				
	身近な自然科学	1前		2								兼1
	暮らしの統計学	1後		2								兼1
	地球と宇宙の科学	1前		2								兼1
	情報科学入門	1後		2								兼1
	環境学概論	1後		2								兼1
	身近な医学	1-2前		2								兼2
	生命倫理	1後		2								兼1
	こどもと自然	1通		2								兼4
小計(27科目)	-											
基礎科目	英語基礎Ⅰ	1前	1									兼5
	英語総合Ⅰ	1前	1									兼6
	英語基礎Ⅱ	1後	1									兼5
	英語総合Ⅱ	1後	1									兼6
	日常の英会話	2前・後		1								兼3
	旅行の英会話	2後		1								兼2
	留学の英会話	2後		1								兼2
	おもてなしの英会話	2前		1								兼2
	やさしいビジネス英会話	2前		1								兼1
	歌って覚える英語表現	2後		1								兼1
	英語リスニング初級	2前		1								兼1
	英語リスニング中級	2後		1								兼1
	読むための英語	2前		1								兼1
	実用英語基礎	2後		1								兼1
	身近な英文法	2前		1								兼1
	アカデミック英語	3前		1								兼1
	ドイツ語	1前		2								兼1
	フランス語	1後		2								兼1
	スペイン語	1前		2								兼1
	アラビア語	1後		2								兼1
中国語Ⅰ	1前・後		2								兼3	
中国語Ⅱ	1後		2								兼1	
中国語Ⅲ	2前		2								兼1	
コリア語Ⅰ	1前・後		2								兼1	
コリア語Ⅱ	1後		2								兼1	
コリア語Ⅲ	2前		2								兼1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	日本文学	1前		2								兼1
	外国文学	1後		2								兼1
	日本近現代史	1前		2								兼1
	日本の宗教	1後		2								兼1
	東アジア近現代史	1前		2								兼1
	ヨーロッパ近現代史	1後		2								兼1
	歴史の中の女性	1後		2								兼1
	身近な心理学	1前		2								兼1
	文化人類学	1後		2								兼1
	暮らしの法律学	1前		2								兼1
	憲法と人権	1後		2								兼1
	暮らしの経済学	1後		2								兼1
	国際関係論入門	1前		2								兼1
	社会学概論	1後		2								兼1
	ジェンダー論	1前		2								兼1
	ボランティア概論	1前		2								兼1
	子育てとワークライフバランス	2前		1								兼1
	こどもと子育ての生活環境学	2前		1			4					
	海外研修(生活と社会)	1-2-3-4年		1			1	1				
	身近な自然科学	1前		2								兼1
	暮らしの統計学	1後		2								兼1
	地球と宇宙の科学	1前		2								兼1
	情報科学入門	1後		2								兼1
	環境学概論	1後		2								兼1
	身近な医学	1-2前		2								兼2
	生命倫理	1後		2								兼1
	こどもと自然	1通		2								兼4
小計(27科目)	-											
基礎科目	英語基礎Ⅰ	1前	1									兼7
	英語総合Ⅰ	1前	1									兼8
	英語基礎Ⅱ	1後	1									兼7
	英語総合Ⅱ	1後	1									兼8
	日常の英会話	2前・後		1								兼3
	旅行の英会話	2後		1								兼2
	留学の英会話	2後		1								兼1
	おもてなしの英会話	2前		1								兼3
	やさしいビジネス英会話	2前		1								兼1
	歌って覚える英語表現	2後		1								兼1
	英語リスニング初級	2前		1								兼1
	英語リスニング中級	2後		1								兼1
	読むための英語	2前		1								兼1
	実用英語基礎	2後		1								兼2
	身近な英文法	2前		1								兼2
	アカデミック英語	3前		1								兼1
	英語実践(4技能)Ⅰ	1-2-3-4年		1								兼4
	英語実践(4技能)Ⅱ	1-2-3-4年		1								兼4
	ドイツ語	1前		2								兼1
	フランス語	1後		2								兼1
スペイン語	1前		2								兼1	
アラビア語	1後		2								兼1	
中国語Ⅰ	1前・後		2								兼4	
中国語Ⅱ	1後		2								兼1	
中国語Ⅲ	2前		2								兼1	
コリア語Ⅰ	1前・後		2								兼1	
コリア語Ⅱ	1後		2								兼1	
コリア語Ⅲ	2前		2								兼1	

共通教育科目	基礎科目	海外研修(語学) I	1・2・3・4休	2							兼1	
		海外研修(語学) II a	1・2・3休	2								兼1
		海外研修(語学) II b	1・2・3・4休	2								兼1
		日本語講読 I	1前	1								兼1
		日本語講読 II	1後	1								兼1
		日本語表現 I	1前	1								兼1
		日本語表現 II	1後	1								兼1
		日本語特講 I	2前	1								兼1
		日本語特講 II	2後	1								兼1
		文章表現法	1前・後	2								兼1
		情報演習 I	1前・後	1								兼1
		情報演習 II	2前・後	1								兼1
		情報処理	2前・後	2								兼3
		体育講義	1後	1								兼1
		健康スポーツ演習	1前・後	2								兼3
体育実技	1前	1								兼1		
小計(42科目)		-										
共通教育科目	基礎科目	キリスト教入門	1前・後	2								兼1
		キリスト教音楽入門	1前・後	1								兼1
		聖書と文化	2前	2								兼1
		キリスト教と日本文化	2後	2								兼2
		キリスト教思想	2前	2								兼1
		キリスト教美術	2後	2								兼1
		キリスト教音楽	2後	2								兼1
		ノートルダム学	1前	2								兼1
		女性とライフキャリア	1前・後	2			1					
		ホスピタリティ入門	1前・後	2								兼1
		ホスピタリティ京都	2・3前	2								兼2
		キャリア形成	3前・後	2								兼1
		キャリア形成ゼミ	2通	2								兼1
		インターンシップ	2・3・4通	2								兼1
		海外インターンシップ	2・3・4休	2								兼1
小計(15科目)		-										
学部共通科目	基礎科目	現代社会とこども	1前	1								兼2
		現代社会と女性・家族	1前	1			1					兼1
		現代社会と高齢者	1前	1		1						兼1
		現代社会と病者・障がい者	1前	1		1	1					兼2
		病児の発達と支援	1休	2								兼10
		情報科学	3前	2								兼1
小計(6科目)		-										
専門教育科目	基礎科目	福祉生活デザイン基礎演習 I	1前	2		7	2	3				
		福祉生活デザイン基礎演習 II	1後	2		7	2	3				
		福祉生活デザイン基礎演習 III	2前	1		7	2	3				
		福祉生活デザイン基礎演習 IV	2後	1		7	2	3				
	小計(4科目)		-									
	基礎科目	福祉生活デザイン概論	1前	2		7	2	3				
		衣生活概論	1前	2		1						
		食生活概論	1後	2		1						
		住居学概論	1前	2		1						
		現代社会と家庭経営	1後	2				1				
現代社会と福祉 I		1前	2									
小計(6科目)		-										
展開科目	基礎科目	衣生活材料学	2前	2				1				
		アパレルデザイン	2後	2		1						
		衣生活情報論	3後	2		1						
		服飾心理学	2後	2		1						
		繊維材料学	2後	2				1				
		染色加工学	3前	2				1				
		アパレル造形学(実習を含む)	2前	2		1						

共通教育科目	基礎科目	海外研修(語学) I	1・2・3・4休	2								兼1
		海外研修(語学) II a	1・2・3休	2								兼2
		海外研修(語学) II b	1・2・3・4休	2								兼2
		日本語講読 I	1前	1								兼1
		日本語講読 II	1後	1								兼1
		日本語表現 I	1前	1								兼1
		日本語表現 II	1後	1								兼1
		日本語特講 I	2前	1								兼1
		日本語特講 II	2後	1								兼1
		文章表現法	1前・後	2								兼1
		情報演習 I	1前・後	1								兼1
		情報演習 II	2前・後	1								兼1
		情報処理	2前・後	2								兼3
		体育講義	1後	1								兼1
		健康スポーツ演習	1前・後	2								兼3
体育実技	1前	1								兼2		
小計(44科目)		-										
共通教育科目	基礎科目	キリスト教入門	1前・後	2								兼1
		キリスト教音楽入門	1前・後	1								兼1
		聖書と文化	2前	2								兼1
		キリスト教と日本文化	2後	2								兼2
		キリスト教思想	2前	2								兼1
		キリスト教美術	2後	2								兼1
		キリスト教音楽	2後	2								兼1
		ノートルダム学	1前	2								兼1
		女性とライフキャリア	1前・後	2					1			
		ホスピタリティ入門	1前・後	2								兼1
		ホスピタリティ京都	2・3前	2								兼2
		キャリア形成	3前・後	2								兼1
		キャリア形成ゼミ	2通	2								兼1
		インターンシップ	2・3・4通	2								兼1
		海外インターンシップ	2・3・4休	2								兼1
小計(15科目)		-										
学部共通科目	基礎科目	現代社会とこども	1前	1								兼2
		現代社会と女性・家族	1前	1				1				兼1
		現代社会と高齢者	1前	1		1						兼1
		現代社会と病者・障がい者	1前	1		1	1					兼2
		病児の発達と支援	1休	2								兼10
		情報科学	3後	2								兼1
小計(6科目)		-										
専門教育科目	基礎科目	福祉生活デザイン基礎演習 I	1前	2				6	2	3		
		福祉生活デザイン基礎演習 II	1後	2				6	2	3		
		福祉生活デザイン基礎演習 III	2前	1					6	2	3	
		福祉生活デザイン基礎演習 IV	2後	1					6	2	3	
	小計(4科目)		-									
	基礎科目	福祉生活デザイン概論	1前	2				7	2	3		
		衣生活概論	1前	2				1				
		食生活概論	1後	2				1				
		住居学概論	1前	2				1				
		現代社会と家庭経営	1後	2						1		
現代社会と福祉 I		1前	2						1			
小計(6科目)		-										
展開科目	基礎科目	衣生活材料学	2前	2						1		
		アパレルデザイン	2後	2		1						
		衣生活情報論	3後	2		1						
		服飾心理学	2後	2		1						
		繊維材料学	2後	2				1				1
		染色加工学	3前	2				1				1
		アパレル造形学(実習を含む)	2前	2		1				1		

専門教育科目	関連科目	食品安全性学	2後	2					兼1	食品安全性学	2後	2								兼1	
		食品流通論	2後	2						兼1	食品流通論	2後	2								兼1
		フードスペシャリスト論	2前	2						兼1	フードスペシャリスト論	2前	2								兼1
		住計画演習 I	3前	2						兼1	住計画演習 I	3前	2								兼1
		住計画演習 II	3後	2						兼1	住計画演習 II	3後	2								兼1
		建築構造力学	3前	2						兼1	建築構造力学	3前	2								兼1
		建築施工	3後	2						兼1	建築施工	3後	2								兼1
		デザイン論 I	3前	2						兼1	デザイン論 I	3前	2								兼1
		デザイン論 II	3後	2						兼1	デザイン論 II	3後	2								兼1
		色彩学	3前	2						兼1	色彩学	3前	2								兼1
		ビジネスの基礎	2前	2						兼1	ビジネスの基礎 I	2前	2								兼1
											ビジネスの基礎 II	2後	2								兼1
		マーケティング論	3前	2						兼1	マーケティング論	3前	2								兼1
											ソーシャルマーケティング論	3後	2								兼1
		女性起業論	4前	2						兼1	女性起業論	4前	2								兼1
		保健医療サービスの公的扶助論	2後	2	1						保健医療サービスの公的扶助論	2後	2		1						
											福祉行財政と福祉計画	3前	2			1					
		福祉行財政と福祉計画	3後	2							福祉行財政と福祉計画	3後	2			1		1			
		社会福祉運営論	3後	2							社会福祉運営論	3後	2				1				
		就労支援	3前	1							就労支援	3前	1				1				1
		権利擁護と成年後見制度	3前	2						兼1	権利擁護と成年後見制度	3前	2								兼1
		更生保護制度	3前	1						兼1	更生保護制度	3前	1								兼1
		社会福祉調査法	2前	2						兼1	社会福祉調査法	2前	2								兼1
		精神医学 I	2・3前	2						兼1	精神疾患とその治療 I	2前	2								兼1
		精神医学 II	2・3後	2						兼1	精神疾患とその治療 II	2後	2								兼1
		精神科リハビリテーション学 I	3前	2						兼1	精神科リハビリテーション学 I	3前	2								兼1
		精神科リハビリテーション学 II	3後	2						兼1	精神科リハビリテーション学 II	3後	2								兼1
		精神保健福祉論 I	2前	2	1						精神保健福祉論 I	2前	2			1					
		精神保健福祉論 II	2後	2	1						精神保健福祉論 II	2後	2				1				
		精神保健福祉論 III	4前	2	1						精神保健福祉論 III	4前	2				1				
精神保健福祉相談援助の基盤 (基礎)	1後	2	1						精神保健福祉相談援助の基盤 (基礎)	1後	2				1						
精神保健福祉相談援助の基盤 (専門)	2前	2	1						精神保健福祉相談援助の基盤 (専門)	2前	2				1						
精神保健福祉援助技術各論 I	3後	2						兼1	精神保健福祉援助技術各論 I	3後	2								兼1		
精神保健福祉援助技術各論 II	4前	2						兼1	精神保健福祉援助技術各論 II	4前	2								兼1		
リハビリテーション論	2後	2						兼1	リハビリテーション論	2後	2								兼1		
ターミナルケア論	3前	2	1						ターミナルケア論	3前	2			1							
ソーシャルワーク論 I	1後	2	1						ソーシャルワーク論 I	1後	2				1						
ソーシャルワーク論 II	2前	2	1						ソーシャルワーク論 II	2前	2				1						
ソーシャルワーク論 III	2後	2	1						ソーシャルワーク論 III	2後	2				1						
ソーシャルワーク論 IV	3前	2	1						ソーシャルワーク論 IV	3前	2				1						
ソーシャルワーク論 V	3後	2	1						ソーシャルワーク論 V	3後	2				1						
ソーシャルワーク論 VI	4前	2	1						ソーシャルワーク論 VI	4前	2				1						
ソーシャルワーク演習 I	2通	2	1						ソーシャルワーク演習 I	2通	2				1						
ソーシャルワーク演習 II	3通	2		1					ソーシャルワーク演習 II	3通	2						1				
ソーシャルワーク演習 III	4前	1		1					ソーシャルワーク演習 III	4前	1					1					
医療ソーシャルワーク演習 I	3前	1	1						医療ソーシャルワーク演習 I	3前	1			1							
医療ソーシャルワーク演習 II	3後	1	1						医療ソーシャルワーク演習 II	3後	1			1							
ソーシャルワーク実習指導 I	2後	2	1	1					ソーシャルワーク実習指導 I	2後	2			1	1				1		

専門教育科目	関連科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前	1	1	1															
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3通	2	3	1	1														
		ソーシャルワーク現場実習	3休	6	3	1	1														
		精神保健福祉援助演習(基礎)	3前	1		1						兼1									
		精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ	3後	1		1						兼1									
		精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	4前	1		1						兼1									
		精神保健福祉援助実習指導	3後	3		1						兼1									
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	3休	2		1						兼1									
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	3休	2		1						兼1									
		精神保健福祉援助実習Ⅲ	3休	3		1						兼1									
社会福祉特講Ⅰ	4通	2		1																	
社会福祉特講Ⅱ	4通	2		1																	
小計(58科目)	-																				
専門演習・卒業研究	福祉生活デザイン特論	3通	4		7	2	3														
	卒業研究	4通	8		7	2	3														
	小計(2科目)	-																			
教職に関する科目	教師論	2前			2						兼1										
	教育学	1後			2						兼1										
	発達と学習の教育心理	2前			2						兼1										
	教育社会学	2後			2						兼1										
	中等教育課程論	2・3前			2						兼1										
	道徳の指導法(中等)	2・3前			2						兼1										
	特別活動の指導法(中等)	2・3前			2						兼1										
	教育の方法及び技術	3後			2						兼1										
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3休			2						兼1										
	教育相談の理論及び方法	2・3後			2						兼1										
	中等教育実習事前事後指導	4通			1	1					兼1										
	中等教育実習Ⅰ	4通			2	1					兼1										
	中等教育実習Ⅱ	4通			2	1					兼1										
	教職実践演習(中・高)	4後			2	1					兼1										
	介護等体験	2・3通			1		1				兼1										
小計(15科目)	-																				
合計(231科目)	-																				
卒業要件及び履修方法																					
<p>(1) 共通教育科目 必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることができる。</p> <p>(2) 学部共通科目 選択科目の現代社会と子ども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。</p> <p>(3) 専門教育科目 必修科目として基幹科目6単位、基礎科目10単位及び専門演習・卒業研究12単位の計28単位を修得し、展開科目及び関連科目の中から56単位以上を修得する。</p> <p>(4) 学際教育科目 他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。</p> <p>(5) (1)～(4)全体で124単位以上修得する。</p>																					

専門教育科目	関連科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前	1		1	1														
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3通	2		2	1	1													
		ソーシャルワーク現場実習	3休	6		2	1	1													
		医療ソーシャルワーク現場実習	3通	6		2															
		精神保健福祉援助演習(基礎)	3前	1		1						兼1									
		精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ	3後	1		1						兼1									
		精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	4前	1		1						兼1									
		精神保健福祉援助実習指導	3後	3		1						兼1									
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	3休	2		1						兼1									
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	3休	2		1						兼1									
精神保健福祉援助実習Ⅲ	3休	3		1						兼1											
社会福祉特講Ⅰ	4通	2		1																	
社会福祉特講Ⅱ	4通	2		1																	
小計(61科目)	-																				
専門演習・卒業研究	福祉生活デザイン特論	3通	4				6	2	3												
	卒業研究	4通	8				6	2	3												
	小計(2科目)	-																			
教職に関する科目	教師論	2前			2						兼1										
	教育原論	1後			2						兼1										
	発達と学習の教育心理	2前			2						兼1										
	教育社会学	2後			2						兼1										
	中等教育課程論	2・3前			2						兼1										
	道徳の指導法(中等)	2・3前			2						兼1										
	特別活動の指導法(中等)	2・3前			2						兼1										
	教育の方法及び技術	3後			2						兼1										
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3休			2						兼1									兼2	
	教育相談の理論及び方法	2・3後			2						兼1										
	中等教育実習事前事後指導	4通			1	1					兼1										
	中等教育実習Ⅰ	4通			2	1					兼1										
	中等教育実習Ⅱ	4通			2	1					兼1										
	教職実践演習(中・高)	4後			2	1					兼1										
	介護等体験	2・3通			1						兼1										
小計(15科目)	-																				
合計(236科目)	-																				
卒業要件及び履修方法																					
<p>(1) 共通教育科目 必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることができる。</p> <p>(2) 学部共通科目 選択科目の現代社会と子ども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。</p> <p>(3) 専門教育科目 必修科目として基幹科目6単位、基礎科目12単位及び専門演習・卒業研究12単位の計30単位を修得し、展開科目及び関連科目の中から54単位以上を修得する。</p> <p>(4) 学際教育科目 他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。</p> <p>(5) (1)～(4)全体で124単位以上修得する。</p>																					

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	日本文学	1前	2								兼1
	外国文学	1後	2								兼1
	日本近現代史	1前	2								兼1
	日本の宗教	1後	2								兼1
	東アジア近現代史	1前	2								兼1
	ヨーロッパ近現代史	1後	2								兼1
	歴史の中の女性	1後	2								兼1
	身近な心理学	1前	2								兼1
	文化人類学	1後	2								兼1
	暮らしの法律学	1前	2								兼1
	憲法と人権	1後	2								兼1
	暮らしの経済学	1後	2								兼1
	国際関係論入門	1前	2								兼1
	社会学概論	1前	2								兼1
	ジェンダー論	1後	2								兼1
	ボランティア概論	1前	2								兼1
	子育てとワークライフバランス	2前	1								兼1
	こどもと子育ての生活環境学	2前	1			4					
	海外研修(生活と社会)	1・2・3・4年	1			1	1				
	身近な自然科学	1前	2								兼1
	暮らしの統計学	1後	2								兼1
	地球と宇宙の科学	1前	2								兼1
	情報科学入門	1後	2								兼1
	環境学概論	1後	2								兼1
	身近な医学	1・2前	2								兼2
	生命倫理	1後	2								兼1
	こどもと自然	1通	2								兼4
小計(27科目)	-										
共通教育科目	英語基礎 I	1前	1								兼5
	英語総合 I	1前	1								兼7
	英語基礎 II	1後	1								兼5
	英語総合 II	1後	1								兼7
	日常の英会話	2前・後	1								兼3
	旅行の英会話	2後	1								兼2
	留学の英会話	2後	1								兼2
	おもてなしの英会話	2前	1								兼2
	やさしいビジネス英会話	2前	1								兼1
	歌って覚える英語表現	2後	1								兼1
	英語リスニング初級	2前	1								兼1
	英語リスニング中級	2後	1								兼1
	読むための英語	2前	1								兼1
	実用英語基礎	2後	1								兼2
	身近な英文法	2前	1								兼1
	アカデミック英語	3前	1								兼1
	ドイツ語	1前	2								兼1
	フランス語	1後	2								兼1
	スペイン語	1前	2								兼1
	アラビア語	1後	2								兼1
	中国語 I	1前・後	2								兼4
	中国語 II	1後	2								兼1
	中国語 III	2前	2								兼1
	韓国語 I	1前・後	2								兼1
	韓国語 II	1後	2								兼1
	韓国語 III	2前	2								兼1
	海外研修(語学) I	1・2・3・4年	2								兼1
海外研修(語学) II a	1・2・3・4年	2								兼1	
海外研修(語学) II b	1・2・3・4年	2								兼1	
日本語講読 I	1前	1								兼1	
日本語講読 II	1後	1								兼1	
日本語表現 I	1前	1								兼1	
日本語表現 II	1後	1								兼1	
日本語特講 I	2前	1								兼1	
日本語特講 II	2後	1								兼1	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	日本文学	1前	2								兼1
	外国文学	1後	2								兼1
	日本近現代史	1前	2								兼1
	日本の宗教	1後	2								兼1
	東アジア近現代史	1前	2								兼1
	ヨーロッパ近現代史	1後	2								兼1
	歴史の中の女性	1後	2								兼1
	身近な心理学	1前	2								兼1
	文化人類学	1後	2								兼1
	暮らしの法律学	1前	2								兼1
	憲法と人権	1後	2								兼1
	暮らしの経済学	1後	2								兼1
	国際関係論入門	1前	2								兼1
	社会学概論	1前	2								兼1
	ジェンダー論	1後	2								兼1
	ボランティア概論	1前	2								兼1
	子育てとワークライフバランス	2前	1								兼1
	こどもと子育ての生活環境学	2前	1			4					
	海外研修(生活と社会)	1・2・3・4年	1			1	1				
	身近な自然科学	1前	2								兼1
	暮らしの統計学	1後	2								兼1
	地球と宇宙の科学	1前	2								兼1
	情報科学入門	1後	2								兼1
	環境学概論	1後	2								兼1
	身近な医学	1・2前	2								兼2
	生命倫理	1後	2								兼1
	こどもと自然	1通	2								兼4
小計(27科目)	-										
共通教育科目	英語基礎 I	1前	1								兼6
	英語総合 I	1前	1								兼7
	英語基礎 II	1後	1								兼6
	英語総合 II	1後	1								兼7
	日常の英会話	2前・後	1								兼3
	旅行の英会話	2後	1								兼2
	留学の英会話	2後	1								兼2
	おもてなしの英会話	2前	1								兼2
	やさしいビジネス英会話	2前	1								兼1
	歌って覚える英語表現	2後	1								兼1
	英語リスニング初級	2前	1								兼1
	英語リスニング中級	2後	1								兼1
	読むための英語	2前	1								兼1
	実用英語基礎	2後	1								兼2
	身近な英文法	2前	1								兼2
	アカデミック英語	3前	1								兼1
	ドイツ語	1前	2								兼1
	フランス語	1後	2								兼1
	スペイン語	1前	2								兼1
	アラビア語	1後	2								兼1
	中国語 I	1前・後	2								兼4
	中国語 II	1後	2								兼1
	中国語 III	2前	2								兼1
	韓国語 I	1前・後	2								兼1
	韓国語 II	1後	2								兼1
	韓国語 III	2前	2								兼1
	海外研修(語学) I	1・2・3・4年	2								兼1
海外研修(語学) II a	1・2・3・4年	2								兼2	
海外研修(語学) II b	1・2・3・4年	2								兼2	
日本語講読 I	1前	1								兼1	
日本語講読 II	1後	1								兼1	
日本語表現 I	1前	1								兼1	
日本語表現 II	1後	1								兼1	
日本語特講 I	2前	1								兼1	
日本語特講 II	2後	1								兼1	

共通教育科目	基礎科目	文章表現法	1前・後	2														兼1	
		情報演習Ⅰ	1前・後	1															兼1
		情報演習Ⅱ	2前・後	1															兼1
		情報処理	2前・後	2															兼3
		体育講義	1後	1															兼1
		健康スポーツ演習	1前・後	2															兼3
		体育実技	1前	1															兼1
	小計(42科目)	—																	
	基礎科目	キリスト教入門	1前・後	2															兼1
		キリスト教音楽入門	1前・後	1															兼1
		聖書と文化	2前	2															兼1
		キリスト教と日本文化	2後	2															兼2
		キリスト教思想	2前	2															兼1
		キリスト教美術	2後	2															兼1
		キリスト教音楽	2後	2															兼1
ノートルダム学		1前	2															兼1	
女性とライフキャリア		1前・後	2				1												
ホスピタリティ入門		1前・後	2															兼1	
ホスピタリティ京都		2・3前	2															兼2	
キャリア形成		3前・後	2															兼1	
キャリア形成ゼミ		2通	2															兼1	
インターンシップ	2・3・4通	2															兼1		
海外インターンシップ	2・3・4休	2															兼1		
小計(15科目)	—																		
学部共通科目	現代社会とこども	1前	1															兼2	
	現代社会と女性・家族	1前	1			1							1					兼1	
	現代社会と高齢者	1前	1			1							1					兼1	
	現代社会と病者・障がい者	1前	1			1	1						1	1				兼2	
	病児の発達と支援	1休	2															兼10	
	情報科学	3前	2															兼1	
小計(6科目)	—																		
基礎科目	福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ	1前	2			7	2	3											
	福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ	1後	2			7	2	3											
	福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ	2前	1			7	2	3											
	福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ	2後	1			7	2	3											
	小計(4科目)	—																	
	福祉生活デザイン概論	1前	2			7	2	3											
	衣生活概論	1前	2			1													
	食生活概論	1後	2			1													
	住居学概論	1前	2			1													
	現代社会と家庭経営	1後	2					1											
現代社会と福祉Ⅰ	1前	2			1														
小計(6科目)	—																		
展開科目	衣生活材料学	2前	2					1											
	アパレルデザイン	2後	2			1													
	衣生活情報論	3後	2			1													
	服飾心理学	2後	2			1													
	繊維材料学	2後	2					1											
	染色加工学	3前	2					1											
	アパレル造形学(実習を含む)	2前	2			1													
	アパレルデザイン演習Ⅰ	2後	1			1													
	アパレルデザイン演習Ⅱ	3前	1			1													
	衣生活実験Ⅰ	3前	1					1											
	衣生活実験Ⅱ	3後	1					1											
	食品学	2前	2			1													
	食品加工学(実験を含む)	2後	3			1													

共通教育科目	基礎科目	文章表現法	1前・後	2															兼1	
		情報演習Ⅰ	1前・後	1																兼1
		情報演習Ⅱ	2前・後	1																兼1
		情報処理	2前・後	2																兼3
		体育講義	1後	1																兼1
		健康スポーツ演習	1前・後	2																兼3
		体育実技	1前	1																兼2
	小計(44科目)	—																		
	基礎科目	キリスト教入門	1前・後	2																兼1
		キリスト教音楽入門	1前・後	1																兼1
		聖書と文化	2前	2																兼1
		キリスト教と日本文化	2後	2																兼2
		キリスト教思想	2前	2																兼1
		キリスト教美術	2後	2																兼1
		キリスト教音楽	2後	2																兼1
ノートルダム学		1前	2																兼1	
女性とライフキャリア		1前・後	2												1					
ホスピタリティ入門		1前・後	2																兼1	
ホスピタリティ京都		2・3前	2																兼2	
キャリア形成		3前・後	2																兼1	
キャリア形成ゼミ		2通	2																兼1	
インターンシップ	2・3・4通	2																兼1		
海外インターンシップ	2・3・4休	2																兼1		
小計(15科目)	—																			
学部共通科目	現代社会とこども	1前	1																兼2	
	現代社会と女性・家族	1前	1												1				兼1	
	現代社会と高齢者	1前	1			1									1				兼1	
	現代社会と病者・障がい者	1前	1			1	1								1	1			兼2	
	病児の発達と支援	1休	2																兼10	
	情報科学	3前	2																兼1	
小計(6科目)	—																			
基礎科目	福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ	1前	2									6	2	3						
	福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ	1後	2									6	2	3						
	福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ	2前	1									6	2	3						
	福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ	2後	1									6	2	3						
	小計(4科目)	—																		
	福祉生活デザイン概論	1前	2									7	2	3						
	衣生活概論	1前	2									1								
	食生活概論	1後	2									1								
	住居学概論	1前	2									1								
	現代社会と家庭経営	1後	2												1					
現代社会と福祉Ⅰ	1前	2									1									
小計(6科目)	—																			
展開科目	衣生活材料学	2前	2													1				
	アパレルデザイン	2後	2									1								
	衣生活情報論	3後	2									1								
	服飾心理学	2後	2									1								
	繊維材料学	2後	2									2							1	
	染色加工学	3前	2									2								1
	アパレル造形学(実習を含む)	2前	2									2								1
	アパレルデザイン演習Ⅰ	2後	1									1								1</

専門教育科目	関連科目	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	4前	1		1												兼1	
		精神保健福祉援助実習指導	3後	3		1													兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	3休	2		1													兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	3休	2		1													兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅲ	3休	3		1													兼1
		社会福祉特講Ⅰ	4通	2		1													
		社会福祉特講Ⅱ	4通	2		1													
		小計(60科目)	-																
専門演習・卒業研究	福祉生活デザイン特論	3通	4			7	2	3											
	卒業研究	4通	8			7	2	3											
	小計(2科目)	-																	
教職に関する科目	教師論	2前			2													兼1	
	教育原論	1後			2													兼1	
	発達と学習の教育心理	2前			2													兼1	
	教育社会学	2後			2													兼1	
	中等教育課程論	2・3前			2													兼1	
	道徳の指導法(中等)	2・3前			2													兼1	
	特別活動の指導法(中等)	2・3前			2													兼1	
	教育の方法及び技術	3後			2													兼1	
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3休			2													兼1	
	教育相談の理論及び方法	2・3後			2													兼1	
	中等教育実習事前事後指導	4通			1	1												兼1	
	中等教育実習Ⅰ	4通			2	1												兼1	
	中等教育実習Ⅱ	4通			2	1												兼1	
	教職実践演習(中・高)	4後			2	1												兼1	
	介護等体験	2・3通			1				1									兼1	
小計(15科目)	-																		
合計(231科目)		-																	
卒業要件及び履修方法																			
(1) 共通教育科目 必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることができる。 (2) 学部共通科目 選択科目の現代社会と子ども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。 (3) 専門教育科目 必修科目として基幹科目6単位、基礎科目12単位及び専門演習・卒業研究12単位の計30単位を修得し、展開科目及び関連科目の中から54単位以上を修得する。 (4) 学際教育科目 他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。 (5) (1)~(4)全体で124単位以上修得する。																			

専門教育科目	関連科目	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	4前	1		1													兼1
		精神保健福祉援助実習指導	3後	3		1													兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	3休	2		1													兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	3休	2		1													兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅲ	3休	3		1													兼1
		社会福祉特講Ⅰ	4通	2		1													
		社会福祉特講Ⅱ	4通	2		1													
		小計(61科目)	-																
専門演習・卒業研究	福祉生活デザイン特論	3通	4						6	2	3								
	卒業研究	4通	8						6	2	3								
	小計(2科目)	-																	
教職に関する科目	教師論	2前			2													兼1	
	教育原論	1後			2													兼1	
	発達と学習の教育心理	2前			2													兼1	
	教育社会学	2後			2													兼1	
	中等教育課程論	2・3前			2													兼1	
	道徳の指導法(中等)	2・3前			2													兼1	
	特別活動の指導法(中等)	2・3前			2													兼1	
	教育の方法及び技術	3後			2													兼1	
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3休			2													兼2	
	教育相談の理論及び方法	2・3後			2													兼1	
	中等教育実習事前事後指導	4通			1	1												兼1	
	中等教育実習Ⅰ	4通			2	1												兼1	
	中等教育実習Ⅱ	4通			2	1												兼1	
	教職実践演習(中・高)	4後			2	1												兼1	
	介護等体験	2・3通			1						1							兼1	
小計(15科目)	-																		
合計(234科目)		-																	
卒業要件及び履修方法																			
(1) 共通教育科目 必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることができる。 (2) 学部共通科目 選択科目の現代社会と子ども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。 (3) 専門教育科目 必修科目として基幹科目6単位、基礎科目12単位及び専門演習・卒業研究12単位の計30単位を修得し、展開科目及び関連科目の中から54単位以上を修得する。 (4) 学際教育科目 他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。 (5) (1)~(4)全体で124単位以上修得する。																			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」又は「届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。))を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために**未開講**となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

【共通教育科目】

- ・開講期変更により、「社会学概論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・開講期変更により、「ジェンダー論」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。

【専門教育科目】

- ・専任補充の審査結果により、「現代社会と福祉Ⅰ」の専任教員等を「教授0」から「教授1」に配置。
- ・専任補充の審査結果により、「現代社会と福祉Ⅱ」の専任教員等を「教授0」から「教授1」に配置。
- ・専任補充の審査結果により、「介護技術」の専任教員等を「教授0」から「教授1」に配置。
- ・専任補充の審査結果により、「レクリエーション論」の専任教員等を「教授0」から「教授1」に配置。
- ・留意事項の対応、教育課程の充実により、授業科目の名称を「ビジネスの基礎」から「ビジネスの基礎Ⅰ」に変更。
- ・留意事項の対応により、「ビジネスの基礎Ⅱ」の追加。
- ・留意事項の対応により、「ソーシャルマーケティング論」の追加。

【教職に関する科目】

- ・課程認定申請上の理由により、授業科目の名称を「教育学」から「教育原論」に変更。

【卒業要件及び履修方法】(3)専門教育科目

- ・必修科目(「福祉生活デザイン概論」)の増設により、基礎科目10単位を12単位、展開科目及び関連科目の中から56単位を54単位へ、それぞれ変更。

【平成30年度】

【専門教育科目】

- ・専任教員辞任により、「福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授7」から「教授6」に変更。
- ・専任教員辞任により、「福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授7」から「教授6」に変更。
- ・専任教員辞任により、「福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授7」から「教授6」に変更。
- ・専任教員辞任により、「福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授7」から「教授6」に変更。
- ・履修上の都合により、「衣生活実験Ⅰ」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。
- ・資格指定科目の科目名指定により、授業科目の名称を「医学一般」から「人体の構造と機能及び疾病」に変更。
- ・専任補充の審査結果により、「社会保障論Ⅰ」の専任教員等を「教授0」から「教授1」に配置。
- ・専任補充の審査結果により、「社会保障論Ⅱ」の専任教員等を「教授0」から「教授1」に配置。
- ・専任補充の審査結果により、「公的扶助論」の専任教員等を「教授0」から「教授1」に配置。
- ・専任補充の審査結果により、「社会福祉運営論」の専任教員等を「教授0」から「教授1」に配置。
- ・専任教員辞任により、「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」に変更。
- ・履修上の都合により、「精神医学Ⅰ」の配当年次を「2・3前」から「2前」に変更。
- ・履修上の都合により、「精神医学Ⅱ」の配当年次を「2・3後」から「2後」に変更。
- ・専任教員辞任により、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・専任教員辞任により、「ソーシャルワーク現場実習」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」に変更。
- ・留意事項の対応により、「医療ソーシャルワーク現場実習」を追加し、専任教員等の配置を「教授1」に配置。
- ・専任教員辞任により、「福祉生活デザイン特論」の専任教員等の配置を「教授7」から「教授6」に変更。
- ・専任教員辞任により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「教授7」から「教授6」に変更。

【令和元年度】

【共通教育科目】

- ・教育課程充実の理由により、「英語実践(4技能)Ⅰ」の追加。
- ・教育課程充実の理由により、「英語実践(4技能)Ⅱ」の追加。

【学部共通科目】

- ・履修上の都合により、「情報科学」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。

【専門教育科目】

- ・留意事項の対応により、「福祉行財政と福祉計画」の専任教員等を「教授0」から「教授1」、「准教授0」から「准教授1」に配置。
- ・留意事項の対応により、「就労支援」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師0」から「講師1」に配置。
- ・資格指定科目の科目名指定により、授業科目の名称を「精神医学Ⅰ」から「精神疾患とその治療Ⅰ」に変更。
- ・資格指定科目の科目名指定により、授業科目の名称を「精神医学Ⅱ」から「精神疾患とその治療Ⅱ」に変更。
- ・教育充実の理由により、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・専任教員辞任により、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・教育充実の理由により、「医療ソーシャルワーク現場実習」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
20 科目	196 科目	15 科目	231 科目	20 科目 [0]	201 科目 [5]	15 科目 [0]	236 科目 [5]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{231} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と運動場用地 1(300m,徒歩5分) 校舎敷地と運動場用地 2(3.5km,車で15分)			
	校 舎 敷 地	17,206 m ²	0 m ²	0 m ²	17,206 m ²				
	運 動 場 用 地	19,625 m ²	0 m ²	0 m ²	19,625 m ²				
	小 計	25,966 m ²	0 m ²	0 m ²	25,966 m ²				
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²				
	合 計	36,831 m ²	0 m ²	0 m ²	36,831 m ²				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	(30,169 m ²)	(12,670 m ²)	(0 m ²)	(30,169 m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	41 室	6 室	14 室	4 室 (補助職員 2 人)	3 室 (補助職員 2 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			平成29年4月 専任教員1名を新規 採用のため(29)			
	現代人間学部 福祉生活デザイン学科		16 15 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	大学全体での共用分を 含む図書40,000冊 [35,000冊]	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル					
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点			
	現代人間学部	128,000 [33,330] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	400 (340)	400 (400)	0 (0)		
計	128,000 [33,330] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	400 (340)	400 (400)	0 (0)			
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			大学全体	
	3,625 m ²		198		278,111				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	2,004 m ²		トラック 1面 テニスコート 4面 トレーニングルーム 1室						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	「図書購入費」「設備購入費」を最新額に変更 (29) 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費 (運用コスト含む)を含む。	
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	300千円	300千円	図書購入費	13,328千円 10,000千円	11,677千円 9,000千円		11,677千円 9,000千円
		共 同 研 究 費 等	3,200千円	3,200千円	設備購入費	19,000千円 15,223千円	5,000千円 1,500千円		5,000千円 1,500千円
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
	1,410千円	1,130千円	1,130千円	1,163千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経営補助金、雑収入、その他							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	京都ノートルダム女子大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
国際言語文化学部	4	130	3年次 5	530	-	0.90	-	昭和36	-	平成31年4月名称変更
英語英文学科	4	80	3年次 5	330	学士 (文学)	0.94	-	昭和36	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	平成29年度定員変更 (△30)
国際日本文化学科	4	50	-	200	学士 (人間文 化)	0.82	-	平成12	同上	平成29年度定員変更 (△10) 平成31年4月名称変更
生活福祉文化学部	4	-	-	-	-	-	-	平成19	-	
生活福祉文化学科	4	-	-	-	学士 (生活福祉 文化)	-	-	平成19	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	平成29年度学生募 集停止
心理学部	4	-	-	-	-	-	-	平成17	-	
心理学科	4	-	-	-	学士 (心理)	-	-	平成17	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	平成29年度学生募 集停止
現代心理専攻	4	-	-	-	学士 (心理)	-	-	平成17	同上	
学校心理専攻	4	-	-	-	学士 (心理)	-	-	平成17	同上	
臨床心理専攻	4	-	-	-	学士 (心理)	-	-	平成17	同上	
現代人間学部	4	240	-	960	-	0.68	-	平成29	-	
福祉生活デザイン学科	4	70	-	280	学士 (福祉生活 デザイン)	0.61	-	平成29	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	
心理学科	4	100	-	400	学士 (心理学)	0.68	-	平成29	同上	
こども教育学科	4	70	-	280	学士 (こども教 育)	0.76	-	平成29	同上	
大学全体	4	370	5	1490	-	0.76	-	-	-	
大学 の 名 称	京都ノートルダム女子大学大学院									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
(修士課程) 人間文化研究科	2	17	-	34	-	0.20	-	平成14	-	
応用英語専攻	2	8	-	16	修士 (応用英 語)	0.00	-	平成14	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	
生活福祉文化専攻	2	6	-	12	修士 (生活福祉 文化)	0.24	-	平成16	同上	
人間文化専攻	2	3	-	6	修士 (人間文 化)	0.16	-	平成17	同上	

(博士前期課程)											
心理学研究科	2	15	-	30	-	0.60	-	平成17	-		
発達・学校心理学専攻	2	5	-	10	修士 (心理)	0.20	-	平成17	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	平成30年度定員変 更(Δ3)	
臨床心理学専攻	2	10	-	20	修士 (心理)	1.00	-	平成17	同上	平成30年度定員変 更(3)	
大学院(修士・前期)全体	2	32	-	64	-	0.40	-	-	-		
(博士後期課程)											
心理学研究科	3	4	-	12	博士 (心理)	0.08	-	平成17	-		
心理学専攻	3	4	-	12	博士 (心理)	0.08	-	平成17	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地		
大学院(後期)全体	3	4	-	12	-	0.08	-	-	-		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

兼任	教授	須川 いずみ (61) ＜平成29年4月＞ 文学博士	兼任	教授	須川 いずみ (62) ＜平成29年4月＞ 文学博士														
		海外研修（語学）Ⅱa 海外研修（語学）Ⅱb			海外研修（語学）Ⅱa 海外研修（語学）Ⅱb														
兼任	教授	舘見 朗子 (53) ＜平成29年10月＞ Ph. D. in Literature(米)	兼任	教授	舘見 朗子 (54) ＜平成29年10月＞ Ph. D. in Literature(米)	兼任	教授	舘見 朗子 (55) ＜平成29年10月＞ Ph. D. in Literature(米)	兼任	教授	舘見 朗子 (56) ＜平成29年10月＞ Ph. D. in Literature(米)								
		外国文学 アラビア語			外国文学 アラビア語			外国文学 アラビア語			外国文学 アラビア語								
兼任	教授	高井 直美 (58) ＜平成29年4月＞ 文学修士	兼任	教授	高井 直美 (58) ＜平成29年4月＞ 文学修士	兼任	教授	高井 直美 (59) ＜平成29年4月＞ 文学修士	兼任	教授	高井 直美 (60) ＜平成29年4月＞ 文学修士								
		身近な心理学 こどもと自然 現代社会とこども※			身近な心理学 こどもと自然 現代社会とこども※			身近な心理学 こどもと自然 現代社会とこども※			こどもと自然 現代社会とこども※								
											兼任	教授	松島 るみ (44) ＜平成29年4月＞ 博士（学校教育学）						
													兼任	教授	松島 るみ (44) ＜平成29年4月＞ 博士（学校教育学）				
															兼任	教授	松島 るみ (44) ＜平成29年4月＞ 博士（学校教育学）		
																	兼任	教授	松島 るみ (44) ＜平成29年4月＞ 博士（学校教育学）
兼任	教授	萩原 暢子 (62) ＜平成29年4月＞ 医学博士	兼任	教授	萩原 暢子 (63) ＜平成29年4月＞ 医学博士	兼任	教授	萩原 暢子 (64) ＜平成29年4月＞ 医学博士	兼任	教授	萩原 暢子 (65) ＜平成29年4月＞ 医学博士	兼任	教授	萩原 暢子 (65) ＜平成29年4月＞ 医学博士					
		身近な医学※ 病児の発達と支援※ 保育学（実習および家庭看護含む） 医学一般			身近な医学※ 病児の発達と支援※ 保育学（実習および家庭看護含む） 医学一般			身近な医学※ 病児の発達と支援※ 保育学（実習および家庭看護含む） 医学一般			身近な医学※ 病児の発達と支援※ 保育学（実習および家庭看護含む） 医学一般			身近な医学※ 病児の発達と支援※ 保育学（実習および家庭看護含む） 医学一般					
兼任	教授	廣瀬 直哉 (50) ＜平成29年10月＞ 修士（教育学）	兼任	教授	廣瀬 直哉 (50) ＜平成29年10月＞ 修士（教育学）	兼任	教授	廣瀬 直哉 (50) ＜平成29年10月＞ 修士（教育学）	兼任	教授	廣瀬 直哉 (50) ＜平成29年10月＞ 修士（教育学）	兼任	教授	廣瀬 直哉 (50) ＜平成29年10月＞ 修士（教育学）					
		暮らしの統計学			暮らしの統計学			暮らしの統計学			暮らしの統計学			暮らしの統計学					
兼任	教授	向山 泰代 (54) ＜平成29年4月＞ 博士（人間科学）	兼任	教授	向山 泰代 (54) ＜平成29年4月＞ 博士（人間科学）	兼任	教授	向山 泰代 (55) ＜平成29年4月＞ 博士（人間科学）	兼任	教授	向山 泰代 (56) ＜平成29年4月＞ 博士（人間科学）	兼任	教授	向山 泰代 (56) ＜平成29年4月＞ 博士（人間科学）					
		現代社会と女性・家族※			現代社会と女性・家族※			現代社会と女性・家族※			現代社会と女性・家族※			現代社会と女性・家族※					
兼任	教授	吉田 智子 (54) ＜平成29年4月＞ 修士（社会学）	兼任	教授	吉田 智子 (55) ＜平成29年4月＞ 修士（社会学）	兼任	教授	吉田 智子 (56) ＜平成29年4月＞ 修士（社会学）	兼任	教授	吉田 智子 (57) ＜平成29年4月＞ 修士（社会学）	兼任	教授	吉田 智子 (57) ＜平成29年4月＞ 修士（社会学）					
		情報科学入門 情報演習Ⅰ 情報演習Ⅱ 情報処理			情報科学入門 情報演習Ⅰ 情報演習Ⅱ 情報処理			情報科学入門 情報演習Ⅰ 情報演習Ⅱ 情報処理			情報科学入門 情報演習Ⅰ 情報演習Ⅱ 情報処理			情報科学入門 情報演習Ⅰ 情報演習Ⅱ 情報処理					
兼任	准教授	石井 浩子 (46) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	兼任	准教授	石井 浩子 (47) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	兼任	准教授	石井 浩子 (48) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	兼任	准教授	石井 浩子 (49) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	兼任	教授	石井 浩子 (49) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）					
		病児の発達と支援※			病児の発達と支援※			病児の発達と支援※			病児の発達と支援※			病児の発達と支援※					
兼任	准教授	植田 恵理子 (55) ＜平成29年4月＞ 修士（児童教育学）	兼任	准教授	植田 恵理子 (56) ＜平成29年4月＞ 修士（児童教育学）	兼任	准教授	植田 恵理子 (57) ＜平成29年4月＞ 修士（児童教育学）	兼任	准教授	植田 恵理子 (58) ＜平成29年4月＞ 修士（児童教育学）	兼任	准教授	植田 恵理子 (58) ＜平成29年4月＞ 修士（児童教育学）					
		病児の発達と支援※			病児の発達と支援※			病児の発達と支援※			病児の発達と支援※			病児の発達と支援※					
兼任	准教授	江川 正一 (61) ＜平成29年4月＞ 教育学士	兼任	准教授	江川 正一 (62) ＜平成29年4月＞ 教育学士	兼任	准教授	江川 正一 (63) ＜平成29年4月＞ 教育学士	兼任	准教授	江川 正一 (64) ＜平成29年4月＞ 教育学士	兼任	准教授	江川 正一 (64) ＜平成29年4月＞ 教育学士					
		現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※			現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※			現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※			現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※			現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※					
兼任	准教授	太田 容次 (52) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	兼任	准教授	太田 容次 (53) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	兼任	准教授	太田 容次 (54) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	兼任	准教授	太田 容次 (55) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）	兼任	准教授	太田 容次 (55) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）					
		病児の発達と支援※ 介護等体験			病児の発達と支援※ 介護等体験			病児の発達と支援※ 介護等体験			病児の発達と支援※ 介護等体験			病児の発達と支援※ 介護等体験					
兼任	准教授	小川 博士 (35) ＜平成29年4月＞ 博士（学校教育学）	兼任	准教授	小川 博士 (35) ＜平成29年4月＞ 博士（学校教育学）	兼任	准教授	小川 博士 (36) ＜平成29年4月＞ 博士（学校教育学）	兼任	准教授	小川 博士 (37) ＜平成29年4月＞ 博士（学校教育学）	兼任	准教授	小川 博士 (37) ＜平成29年4月＞ 博士（学校教育学）					
		身近な自然科学 こどもと自然			身近な自然科学 こどもと自然			身近な自然科学 こどもと自然			身近な自然科学 こどもと自然			身近な自然科学 こどもと自然					
兼任	准教授	久野 将健 (51) ＜平成29年4月＞ 修士（学術学）	兼任	准教授	久野 将健 (51) ＜平成29年4月＞ 修士（学術学）	兼任	准教授	久野 将健 (52) ＜平成29年4月＞ 修士（学術学）	兼任	准教授	久野 将健 (53) ＜平成29年4月＞ 修士（学術学）	兼任	教授	久野 将健 (53) ＜平成29年4月＞ 修士（学術学）					
		キリスト教音楽入門 キリスト教音楽			キリスト教音楽入門 キリスト教音楽			キリスト教音楽入門 キリスト教音楽			キリスト教音楽入門 キリスト教音楽			キリスト教音楽入門 キリスト教音楽					
兼任	准教授	神月 紀輔 (51) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）	兼任	准教授	神月 紀輔 (52) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）	兼任	教授	神月 紀輔 (53) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）	兼任	教授	神月 紀輔 (54) ＜令和元年10月＞ 修士（教育学）	兼任	教授	神月 紀輔 (54) ＜令和元年10月＞ 修士（教育学）					
		情報科学			情報科学			情報科学			情報科学			情報科学					

		<p>鹿田 未央 (46) <平成29年4月> 修士(教育学)</p>		<p>鹿田 未央 (46) <平成29年4月> 修士(教育学)</p>		<p>鹿田 未央 (47) <平成29年4月> 修士(教育学)</p>		<p>鹿田 未央 (48) <平成29年4月> 修士(教育学)</p>
兼任	准教授	<p>こどもと自然 病児の発達と支援※ 精神保健福祉援助実習指導 精神保健福祉援助実習Ⅰ 精神保健福祉援助実習Ⅱ 精神保健福祉援助実習Ⅲ</p>	兼任	准教授	<p>こどもと自然 病児の発達と支援※ 精神保健福祉援助実習指導 精神保健福祉援助実習Ⅰ 精神保健福祉援助実習Ⅱ 精神保健福祉援助実習Ⅲ</p>	兼任	准教授	<p>こどもと自然 病児の発達と支援※ 精神保健福祉援助実習指導 精神保健福祉援助実習Ⅰ 精神保健福祉援助実習Ⅱ 精神保健福祉援助実習Ⅲ</p>
兼任	准教授	<p>東郷 多津 (53) <平成29年4月> 修士(教育学)</p>	兼任	准教授	<p>東郷 多津 (53) <平成29年4月> 修士(教育学)</p>	兼任	准教授	<p>東郷 多津 (54) <平成29年4月> 修士(教育学)</p>
		<p>英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ</p>			<p>英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ</p>			<p>英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ</p>
		<p>英語リスニング初級 英語リスニング中級 インターンシップ 教育の方法及び技術 教職実践演習(中・高)</p>			<p>英語リスニング初級 英語リスニング中級 インターンシップ 教育の方法及び技術 教職実践演習(中・高)</p>			<p>英語リスニング初級 英語リスニング中級 インターンシップ 教育の方法及び技術 教職実践演習(中・高)</p>
								<p>兼任 講師</p> <p>濱中 倫秀 (43) <平成31年4月> 学士(経済)</p> <p>インターンシップ キャリア形成</p>
兼任	准教授	<p>長沼 光彦 (53) <平成29年4月> 博士(文学)</p>	兼任	准教授	<p>長沼 光彦 (54) <平成29年4月> 博士(文学)</p>	兼任	教授	<p>長沼 光彦 (55) <平成29年4月> 博士(文学)</p>
		<p>日本文学 ホスピタリティ京都</p>			<p>日本文学 ホスピタリティ京都</p>			<p>ホスピタリティ京都</p>
								<p>兼任 講師</p> <p>吉澤 健吉 (70) <平成31年4月> 文学士</p> <p>ホスピタリティ京都</p>
								<p>兼任 講師</p> <p>武田 悠希 (33) <平成30年4月> 博士(文学)</p> <p>日本文学</p>
兼任	准教授	<p>畠山 寛 (44) <平成29年4月> 修士(教育学)</p>	兼任	准教授	<p>畠山 寛 (45) <平成29年4月> 修士(教育学)</p>	兼任	准教授	<p>畠山 寛 (46) <平成29年4月> 修士(教育学)</p>
		<p>病児の発達と支援※ 発達と学習の教育心理</p>			<p>病児の発達と支援※ 発達と学習の教育心理</p>			<p>病児の発達と支援※ 発達と学習の教育心理</p>
兼任	准教授	<p>平野 美保 (49) <平成30年4月> 博士(教育)</p>	兼任	准教授	<p>平野 美保 (50) <平成30年4月> 博士(教育)</p>			
		<p>キャリア形成 キャリア形成ゼミ</p>			<p>キャリア形成 キャリア形成ゼミ</p>			
								<p>兼任 講師</p> <p>荒尾 千尋 (61) <平成30年4月> 修士(政策科学)</p> <p>キャリア形成</p>
兼任	准教授	<p>藤本(下村)陽三 (62) <平成29年4月> 教育学士</p>	兼任	准教授	<p>藤本(下村)陽三 (63) <平成29年4月> 教育学士</p>	兼任	准教授	<p>藤本(下村)陽三 (64) <平成29年4月> 教育学士</p>
		<p>こどもと自然</p>			<p>こどもと自然</p>			<p>こどもと自然</p>
兼任	准教授	<p>吉田(小野澤)朋子 (45) <平成30年10月> 修士(文学)</p>	兼任	准教授	<p>吉田(小野澤)朋子 (45) <平成30年10月> 修士(文学)</p>	兼任	准教授	<p>吉田 朋子 (46) <平成30年10月> 修士(文学)</p>
		<p>キリスト教美術</p>			<p>キリスト教美術</p>			<p>キリスト教美術</p>
兼任	講師	<p>辻 敦子 (41) <平成29年10月> 修士(教育学)</p>	兼任	講師	<p>辻 敦子 (42) <平成29年10月> 修士(教育学)</p>	兼任	講師	<p>辻 敦子 (43) <平成29年10月> 修士(教育学)</p>
		<p>教師論 教育学 道徳の指導法(中等) 中等教育実習事前事後指導※ 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ 教職実践演習(中・高)</p>			<p>教師論 教育原論 道徳の指導法(中等) 中等教育実習事前事後指導※ 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ 教職実践演習(中・高)</p>			<p>教師論 教育原論 道徳の指導法(中等) 中等教育実習事前事後指導※ 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ 教職実践演習(中・高)</p>
兼任	講師	<p>中里 郁子 (52) <平成29年4月> Doctorate of Sacred Theology (パチカン)</p>	兼任	講師	<p>中里 郁子 (53) <平成29年4月> Doctorate of Sacred Theology (パチカン)</p>	兼任	准教授	<p>中里 郁子 (54) <平成29年4月> Doctorate of Sacred Theology (パチカン)</p>
		<p>キリスト教入門 聖書と文化</p>			<p>キリスト教入門 聖書と文化</p>			<p>キリスト教入門 聖書と文化</p>
兼任	講師	<p>York Weatherford (49) <平成30年4月> M. A. (TESOL)(米園)</p>	兼任	講師	<p>York Weatherford (50) <平成30年4月> M. A. (TESOL)(米園)</p>	兼任	講師	<p>York Weatherford (51) <平成30年4月> M. A. (TESOL)(米園)</p>
		<p>読むための英語 アカデミック英語</p>			<p>読むための英語 アカデミック英語</p>			<p>読むための英語 アカデミック英語</p>
兼任	助教	<p>住本 純 (34) <平成29年4月> 修士(体育学)</p>	兼任	助教	<p>住本 純 (34) <平成29年4月> 修士(体育学)</p>	兼任	講師	<p>住本 純 (35) <平成29年4月> 修士(体育学)</p>
		<p>体育講義 健康スポーツ演習</p>			<p>体育講義 健康スポーツ演習</p>			<p>体育講義 健康スポーツ演習</p>
兼任	講師	<p>青木 三陽 (40) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)</p>	兼任	講師	<p>青木 三陽 (41) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)</p>	兼任	講師	<p>青木 三陽 (42) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)</p>
		<p>ドイツ語</p>			<p>ドイツ語</p>			<p>ドイツ語</p>
兼任	講師	<p>池島 徳大 (65) <平成30年4月> 博士(学校教育学)</p>	兼任	講師	<p>池島 徳大 (65) <平成30年4月> 博士(学校教育学)</p>	兼任	講師	<p>池島 徳大 (66) <平成30年4月> 博士(学校教育学)</p>
		<p>生徒指導・進路指導の理論及び方法</p>			<p>生徒指導・進路指導の理論及び方法</p>			<p>生徒指導・進路指導の理論及び方法※</p>

兼任	講師	石川 真美 (56) ＜平成29年4月＞ 修士（人間・環境学）	兼任	講師	石川 真美 (57) ＜平成29年4月＞ 修士（人間・環境学）	兼任	講師	石川 真美 (58) ＜平成29年4月＞ 修士（人間・環境学）	兼任	講師	石川 真美 (59) ＜平成29年4月＞ 修士（人間・環境学）
		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ			英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ			英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ			英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ
兼任	講師	伊藤 薫 (29) ＜平成29年4月＞ 修士（人間・環境学）	兼任	講師	伊藤 薫 (29) ＜平成29年4月＞ 修士（人間・環境学）	兼任	講師	伊藤 薫 (29) ＜平成29年4月＞ 修士（人間・環境学）			
		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ			英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ			英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ			
兼任	講師	伊藤 泰子 (51) ＜平成30年4月＞ 文学士	兼任	講師	伊藤 泰子 (51) ＜平成30年4月＞ 文学士	兼任	講師	伊藤 泰子 (52) ＜平成30年4月＞ 文学士	兼任	講師	伊藤 泰子 (53) ＜平成30年4月＞ 文学士
		情報処理			情報処理			情報処理			情報処理
兼任	講師	稲垣 顕子 (63) ＜平成29年4月＞ 修士（言語文化学）	兼任	講師	稲垣 顕子 (63) ＜平成29年4月＞ 修士（言語文化学）	兼任	講師	稲垣 顕子 (64) ＜平成29年4月＞ 修士（言語文化学）	兼任	講師	稲垣 顕子 (65) ＜平成29年4月＞ 修士（言語文化学）
		日本語講読Ⅰ 日本語講読Ⅱ			日本語講読Ⅰ 日本語講読Ⅱ			日本語講読Ⅰ 日本語講読Ⅱ			日本語講読Ⅰ 日本語講読Ⅱ
兼任	講師	今井 里佳 (35) ＜平成30年4月＞ 修士（食物栄養学）	兼任	講師	今井 里佳 (36) ＜平成30年4月＞ 修士（食物栄養学）						
		フードスペシャリスト論			フードスペシャリスト論						
兼任	講師	伊村 大樹 (42) ＜平成29年4月＞ 修士（文学）	兼任	講師	伊村 大樹 (42) ＜平成29年4月＞ 修士（文学）	兼任	講師	伊村 大樹 (43) ＜平成29年4月＞ 修士（文学）	兼任	講師	伊村 大樹 (44) ＜平成29年4月＞ 修士（文学）
		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ			英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ			英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ 英用英語基礎 身近な英文法			英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ 英用英語基礎 身近な英文法
兼任	講師	岩田 真理子 (62) ＜平成29年4月＞ 高校卒	兼任	講師	岩田 真理子 (62) ＜平成29年4月＞ 高校卒	兼任	講師	岩田 真理子 (63) ＜平成29年4月＞ 高校卒	兼任	講師	岩田 真理子 (64) ＜平成29年4月＞ 高校卒
		ホスピタリティ入門			ホスピタリティ入門			ホスピタリティ入門			ホスピタリティ入門
兼任	講師	翁 和美 (47) ＜平成29年10月＞ 博士（文学）	兼任	講師	翁 和美 (47) ＜平成29年4月＞ 博士（文学）	兼任	講師	翁 和美 (48) ＜平成29年4月＞ 博士（文学）	兼任	講師	翁 和美 (48) ＜平成29年4月＞ 博士（文学）
		社会学概論			社会学概論			社会学概論			社会学概論
兼任	講師	王 嵐 (60) ＜平成29年4月＞ 文学修士	兼任	講師	王 嵐 (61) ＜平成29年4月＞ 文学修士	兼任	講師	王 嵐 (62) ＜平成29年4月＞ 文学修士	兼任	講師	王 嵐 (63) ＜平成29年4月＞ 文学修士
		中国語Ⅰ			中国語Ⅰ			中国語Ⅰ			中国語Ⅰ
兼任	講師	大畑 好司 (65) ＜平成31年4月＞ 法学士	兼任	講師	大畑 好司 (66) ＜平成31年4月＞ 法学士	兼任	講師	大畑 好司 (67) ＜平成31年4月＞ 法学士	兼任	講師	大畑 好司 (68) ＜平成31年4月＞ 法学士
		更生保護制度			更生保護制度			更生保護制度			更生保護制度
兼任	講師	越智 淳子 (47) ＜平成30年10月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	越智 淳子 (48) ＜平成30年10月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	越智 淳子 (49) ＜平成30年10月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	越智 淳子 (50) ＜平成30年10月＞ 修士（教育学）
		リハビリテーション論			リハビリテーション論			リハビリテーション論			リハビリテーション論
兼任	講師	小都 晶子 (41) ＜平成29年4月＞ 博士（学術）	兼任	講師	小都 晶子 (41) ＜平成29年4月＞ 博士（学術）						
		東アジア近現代史			東アジア近現代史						
兼任	講師	郭 南燕 (53) ＜平成30年10月＞ 博士（学術）	兼任	講師	郭 南燕 (54) ＜平成30年10月＞ 博士（学術）	兼任	講師	郭 南燕 (55) ＜平成30年10月＞ 博士（学術）	兼任	講師	郭 南燕 (56) ＜平成30年10月＞ 博士（学術）
		キリスト教と日本文化※			キリスト教と日本文化※			キリスト教と日本文化※			キリスト教と日本文化※
兼任	講師	梶山(十河)玉香 (50) ＜平成29年4月＞ 法学修士	兼任	講師	梶山(十河)玉香 (51) ＜平成29年4月＞ 法学修士	兼任	講師	梶山(十河)玉香 (52) ＜平成29年4月＞ 法学修士	兼任	講師	梶山(十河)玉香 (53) ＜平成29年4月＞ 法学修士
		暮らしの法律学			暮らしの法律学			暮らしの法律学			暮らしの法律学
兼任	講師	片山 裕 (67) ＜平成29年4月＞ 法学修士	兼任	講師	片山 裕 (67) ＜平成29年4月＞ 法学修士	兼任	講師	片山 裕 (68) ＜平成29年4月＞ 法学修士			
		国際関係論入門 ノートルダム学 海外インターンシップ			国際関係論入門 ノートルダム学 海外インターンシップ			国際関係論入門			
兼任	講師	金 美仙 (52) ＜平成29年4月＞ 修士（言語学）	兼任	講師	金 美仙 (52) ＜平成29年4月＞ 修士（言語学）	兼任	講師	金 美仙 (53) ＜平成29年4月＞ 修士（言語学）	兼任	講師	北澤 義之 (83) ＜平成31年4月＞ 国際学修士
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語Ⅲ			コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語Ⅲ			コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語Ⅲ			国際関係論入門
兼任	講師	岸 研一 (45) ＜平成31年4月＞ 学士（工学）	兼任	講師	岸 研一 (45) ＜平成31年4月＞ 学士（工学）	兼任	講師	岸 研一 (46) ＜平成31年4月＞ 学士（工学）	兼任	講師	岸 研一 (47) ＜平成31年4月＞ 学士（工学）
		住計画演習Ⅰ 住計画演習Ⅱ 建築施工			住計画演習Ⅰ 住計画演習Ⅱ 建築施工			住計画演習Ⅰ 住計画演習Ⅱ 建築施工			住計画演習Ⅰ 住計画演習Ⅱ 建築施工

兼任	講師	橋 健一 (51) <平成29年10月> 博士(学術)	兼任	講師	橋 健一 (52) <平成29年10月> 博士(学術)	兼任	講師	橋 健一 (53) <平成29年10月> 博士(学術)	兼任	講師	橋 健一 (54) <平成29年10月> 博士(学術)			
		文化人類学			文化人類学			文化人類学			文化人類学			
兼任	講師	田中 貴子 (61) <平成30年4月> 修士(外国語教育学)	兼任	講師	田中 貴子 (62) <平成30年4月> 修士(外国語教育学)	兼任	講師	田中 貴子 (63) <平成30年4月> 修士(外国語教育学)	兼任	講師	田中 貴子 (64) <平成30年4月> 修士(外国語教育学)			
		日本語特講 I			日本語特講 I			日本語特講 I			日本語特講 I			
兼任	講師	田中 敏彦 (63) <平成29年10月> 文学修士	兼任	講師	田中 敏彦 (64) <平成29年10月> 文学修士	兼任	講師	田中 敏彦 (65) <平成29年10月> 文学修士	兼任	講師	田中 敏彦 (66) <平成29年10月> 文学修士			
		フランス語			フランス語			フランス語			フランス語			
									兼任	講師	田中 祐子 (37) <平成31年4月> 博士(文学)			
											英語基礎 I 英語基礎 II			
兼任	講師	田中 美和子 (54) <平成29年4月> 博士(英語学)							兼任	講師	田中 美和子 (59) <平成31年4月> 博士(英語学)			
		英語総合 I 英語総合 II 実用英語基礎 身近な英文法									英語総合 I 英語総合 II			
			兼任	学長	眞田 雅子 (74) <平成29年4月> 言語学博士									
					英語総合 I 英語総合 II									
									兼任	講師	Daniel Pearce (31) <平成30年4月> 修士(人間・環境学)			
											Daniel Pearce (32) <平成30年4月> 修士(人間・環境学)			
								兼任	講師	英語総合 I 英語総合 II	兼任	講師	英語総合 I 英語総合 II 英語実践(4技能) I 英語実践(4技能) II 教って覚える英語表現 おもてなしの英会話	
			兼任	講師	眞田 和典 (58) <平成29年4月> 博士(言語文化学)									
					英語総合 I 英語総合 II									
									兼任	講師	松岡 真由子 (34) <平成30年4月> 修士(人間・環境学)	兼任	講師	松岡 真由子 (35) <平成30年4月> 修士(人間・環境学)
											英語総合 I 英語総合 II 実用英語基礎 身近な英文法			英語総合 I 英語総合 II 実用英語基礎 身近な英文法
兼任	講師	玉井 雅人 (46) <平成29年4月> 博士(理学)	兼任	講師	玉井 雅人 (47) <平成29年4月> 博士(理学)	兼任	講師	玉井 雅人 (48) <平成29年4月> 博士(理学)	兼任	講師	玉井 雅人 (49) <平成29年4月> 博士(理学)			
		地球と宇宙の科学			地球と宇宙の科学			地球と宇宙の科学			地球と宇宙の科学			
兼任	講師	大喜 直彦 (55) <平成29年4月> 博士(文学)	兼任	講師	大喜 直彦 (56) <平成29年4月> 博士(文学)									
		日本近現代史 日本の宗教			日本近現代史 日本の宗教									
								兼任	講師	小林 健太 (29) <平成30年4月> 修士(文学)	兼任	講師	小林 健太 (30) <平成30年4月> 修士(文学)	
											日本近現代史 日本の宗教	日本近現代史 日本の宗教		
兼任	講師	知名 純子 (42) <令和元年10月> 修士(社会学)	兼任	講師	知名 純子 (44) <令和元年10月> 修士(社会学)	兼任	講師	知名 純子 (45) <令和元年10月> 修士(社会学)	兼任	講師	知名 純子 (46) <令和元年10月> 修士(社会学)			
		精神保健福祉援助技術各論 I 精神保健福祉援助技術各論 II			精神保健福祉援助技術各論 I 精神保健福祉援助技術各論 II			精神保健福祉援助技術各論 I 精神保健福祉援助技術各論 II			精神保健福祉援助技術各論 I 精神保健福祉援助技術各論 II			
兼任	講師	寺西 みどり (63) <平成29年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	寺西 みどり (64) <平成29年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	寺西 みどり (65) <平成29年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	寺西 みどり (66) <平成29年4月> 修士(教育学)			
		歴史の中の女性 英語基礎 I 英語基礎 II			歴史の中の女性 英語基礎 I 英語基礎 II			歴史の中の女性 英語基礎 I 英語基礎 II			歴史の中の女性 英語基礎 I 英語基礎 II			
兼任	講師	鳥居本 幸代 (63) <平成30年10月> 家政学修士	兼任	講師	鳥居本 幸代 (64) <平成30年10月> 家政学修士	兼任	講師	鳥居本 幸代 (65) <平成30年10月> 家政学修士	兼任	講師	鳥居本 幸代 (66) <平成30年10月> 家政学修士			
		京都生活論			京都生活論			京都生活論			京都生活論			
兼任	講師	豊田 陽介 (38) <平成29年10月> 修士(社会学)	兼任	講師	豊田 陽介 (39) <平成29年10月> 修士(社会学)	兼任	講師	豊田 陽介 (40) <平成29年10月> 修士(社会学)	兼任	講師	豊田 陽介 (41) <平成29年10月> 修士(社会学)			
		環境学概論			環境学概論			環境学概論			環境学概論			
兼任	講師	土井 裕明 (52) <平成31年4月> 経済学士	兼任	講師	土井 裕明 (53) <平成31年4月> 経済学士	兼任	講師	土井 裕明 (54) <平成31年4月> 経済学士						
		権利擁護と成年後見制度			権利擁護と成年後見制度			権利擁護と成年後見制度						
									兼任	講師	高岡 克行 (46) <平成31年4月> 修士(経営学)			
											権利擁護と成年後見制度			

兼任	講師	ドイル 恵美 (46) <平成31年4月> Master of Engineering (タイ王国)	兼任	講師	ドイル 恵美 (46) <平成31年4月> Master of Engineering (タイ王国)	兼任	講師	ドイル 恵美 (47) <平成31年4月> Master of Engineering (タイ王国)	兼任	講師	ドイル 恵美 (48) <平成31年4月> Master of Engineering (タイ王国)
		建築構造力学			建築構造力学			建築構造力学			建築構造力学
兼任	講師	中村 央希 (32) <平成29年4月> 修士 (応用英語)	兼任	講師	岡崎 央希 (33) <平成29年4月> 修士 (応用英語)	兼任	講師	岡崎 央希 (34) <平成29年4月> 修士 (応用英語)	兼任	講師	岡崎 央希 (35) <平成29年4月> 修士 (応用英語)
		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ			英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ			英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ			英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ
兼任	講師	中村 亮太 (34) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)	兼任	講師	中村 亮太 (35) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)	兼任	講師	中村 亮太 (36) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)	兼任	講師	中村 亮太 (37) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)
		情報処理			情報処理			情報処理			情報処理
兼任	講師	中森 伸行 (67) <平成29年10月> 博士 (学術)	兼任	講師	中森 伸行 (68) <平成29年10月> 博士 (学術)						
		家庭電気・機械および情報処理			家庭電気・機械および情報処理						
						兼任	講師	藤 智郎 (61) <平成30年10月> 博士 (工学)	兼任	講師	藤 智郎 (62) <平成30年10月> 博士 (工学)
								家庭電気・機械および情報処理			家庭電気・機械および情報処理
兼任	講師	新村 佳史 (56) <平成30年4月> 教育学士	兼任	講師	新村 佳史 (56) <平成30年4月> 教育学士	兼任	講師	新村 佳史 (57) <平成30年4月> 教育学士	兼任	講師	新村 佳史 (58) <平成30年4月> 教育学士
		ビジネスの基礎 マーケティング論			ビジネスの基礎Ⅰ ビジネスの基礎Ⅱ マーケティング論 ソーシャルマーケティング論			ビジネスの基礎Ⅰ ビジネスの基礎Ⅱ マーケティング論 ソーシャルマーケティング論			ビジネスの基礎Ⅰ ビジネスの基礎Ⅱ マーケティング論 ソーシャルマーケティング論
兼任	講師	沼野 尚美 (59) <平成29年4月> M.A. in psychology (米国)									
		ボランティア概論				兼任	講師	志藤 修史 (53) <平成29年4月> 文学修士	兼任	講師	志藤 修史 (54) <平成29年4月> 文学修士
								ボランティア概論			ボランティア概論
兼任	講師	野村 照夫 (58) <平成29年4月> 博士 (学術)	兼任	講師	野村 照夫 (59) <平成29年4月> 博士 (学術)	兼任	講師	野村 照夫 (60) <平成29年4月> 博士 (学術)	兼任	講師	野村 照夫 (61) <平成29年4月> 博士 (学術)
		健康スポーツ演習			健康スポーツ演習			健康スポーツ演習 体育実技			健康スポーツ演習 体育実技
兼任	講師	野村 晴美 (57) <平成29年4月> 体育学士	兼任	講師	野村 晴美 (58) <平成29年4月> 体育学士	兼任	講師	野村 晴美 (59) <平成29年4月> 体育学士	兼任	講師	野村 晴美 (60) <平成29年4月> 体育学士
		健康スポーツ演習 体育実技			健康スポーツ演習 体育実技			健康スポーツ演習 体育実技			健康スポーツ演習 体育実技
兼任	講師	橋本 史人 (44) <平成31年4月> 修士 (人間科学)	兼任	講師	橋本 史人 (45) <平成31年4月> 修士 (人間科学)	兼任	講師	橋本 史人 (46) <平成31年4月> 修士 (人間科学)	兼任	講師	橋本 史人 (46) <平成31年4月> 修士 (人間科学)
		精神科リハビリテーション学Ⅰ 精神科リハビリテーション学Ⅱ			精神科リハビリテーション学Ⅰ 精神科リハビリテーション学Ⅱ			精神科リハビリテーション学Ⅰ 精神科リハビリテーション学Ⅱ			精神科リハビリテーション学Ⅰ 精神科リハビリテーション学Ⅱ
									兼任	講師	勇川 昌史 (37) <平成31年4月> 修士 (福祉社会学)
											精神科リハビリテーション学Ⅰ
兼任	講師	原 清治 (56) <平成30年10月> 博士 (学術)	兼任	講師	原 清治 (56) <平成30年10月> 博士 (学術)	兼任	講師	原 清治 (57) <平成30年10月> 博士 (学術)	兼任	講師	原 清治 (58) <平成30年10月> 博士 (学術)
		教育社会学			教育社会学			教育社会学			教育社会学
兼任	講師	日比 伊奈穂 (43) <平成30年10月> 修士 (言語文化学)	兼任	講師	日比 伊奈穂 (44) <平成30年10月> 修士 (言語文化学)	兼任	講師	日比 伊奈穂 (45) <平成30年10月> 修士 (言語文化学)	兼任	講師	日比 伊奈穂 (46) <平成30年10月> 修士 (言語文化学)
		日本語特講Ⅱ			日本語特講Ⅱ			日本語特講Ⅱ			日本語特講Ⅱ
兼任	講師	平尾 良治 (58) <平成30年4月> 文学修士	兼任	講師	平尾 良治 (59) <平成30年4月> 文学修士	兼任	講師	平尾 良治 (60) <平成30年4月> 文学修士	兼任	講師	平尾 良治 (61) <平成30年4月> 文学修士
		社会福祉調査法			社会福祉調査法			社会福祉調査法			社会福祉調査法
兼任	講師	福岡 祐貴 (26) <平成30年4月> 修士 (教育学)	兼任	講師	福岡 祐貴 (27) <平成30年4月> 修士 (教育学)						
		中等教育課程論			中等教育課程論						
兼任	講師	藤田 朋子 (55) <平成29年4月> 修士 (人間科学)	兼任	講師	藤田 朋子 (55) <平成29年10月> 修士 (人間科学)	兼任	講師	藤田 朋子 (56) <平成29年10月> 修士 (人間科学)	兼任	講師	藤田 朋子 (57) <平成29年10月> 修士 (人間科学)
		ジェンダー論			ジェンダー論			ジェンダー論			ジェンダー論
兼任	講師	藤本 幸治 (47) <平成29年4月> 修士 (文学)	兼任	講師	藤本 幸治 (47) <平成29年4月> 修士 (文学)	兼任	講師	藤本 幸治 (48) <平成29年4月> 修士 (文学)	兼任	講師	藤本 幸治 (49) <平成29年4月> 修士 (文学)
		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ			英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ			英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ			英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ
兼任	講師	松井 吉康 (54) <平成29年10月> 文学修士	兼任	講師	松井 吉康 (55) <平成29年10月> 文学修士	兼任	講師	松井 吉康 (56) <平成29年10月> 文学修士	兼任	講師	松井 吉康 (57) <平成29年10月> 文学修士
		生命倫理			生命倫理			生命倫理			生命倫理
兼任	講師	松田 修 (62) <平成30年4月> 教育学修士	兼任	講師	松田 修 (63) <平成30年4月> 教育学修士						
		特別活動の指導法 (中等)			特別活動の指導法 (中等)						

兼任	講師	John Breen (61) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国) キリスト教と日本文化※	兼任	講師	John Breen (61) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国) キリスト教と日本文化※	兼任	講師	John Breen (62) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国) キリスト教と日本文化※	兼任	講師	John Breen (63) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国) キリスト教と日本文化※
									兼任	講師	Rebecca Paterson (63) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国) 英語実務(4技能) I 英語実務(4技能) II 英語総合 I 英語総合 II
兼任	講師	John Breen (60) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国) キリスト教と日本文化※	兼任	講師	John Breen (61) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国) キリスト教と日本文化※	兼任	講師	John Breen (62) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国) キリスト教と日本文化※	兼任	講師	John Breen (63) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国) キリスト教と日本文化※
兼任	講師	VALVERDE IBANEZ María del Pilar (36) <平成29年4月> Ph. D. in spanish linguistics (スペイン) スペイン語									
			兼任	講師	安藤 幸治 (43) <平成29年4月> 博士(言語文化) スペイン語						
						兼任	講師	平山 幸乃 (29) <平成30年4月> 博士(言語文化) スペイン語	兼任	講師	平山 幸乃 (30) <平成30年4月> 博士(言語文化) スペイン語

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・平成29年4月 室田保夫 教授の就任。平成29年1月教員審査済
- ・伊藤 薫 兼任講師の辞退により、黒田一平 兼任講師の補充。
- ・科目開講期の変更により、翁 和美 兼任講師の就任時期の補充。
- ・教育体制充実のため、陶 盈 兼任講師の追加補充。
- ・坂本優一郎 兼任講師の辞退により、森本慶太 兼任講師の補充。
- ・教育体制充実のため、真田雅子 兼任講師の追加補充。
- ・田中美和子 兼任講師の辞退により、葛田和美 兼任講師の補充。
- ・中村央希 兼任講師の改姓により、岡崎央希 兼任講師に変更。
- ・沼野尚美 兼任講師の辞退により、志藤修史 兼任講師の補充。
- ・科目開講期の変更により、藤田朋子 兼任講師の就任時期の変更。
- ・松本ドロタ 兼任講師の辞退により、森ユキエ 兼任講師の補充。
- ・VALVERDE IBANEZ Maria Pilar 兼任講師の辞退により、安藤幸治 兼任講師の補充。

【平成30年度】

- ・平成30年3月 小池 桂 教授の辞任。
- ・平成30年4月 柴田周二 教授就任。平成30年1月教員審査済
- ・工藤哲夫 兼任教授の辞任により、渡邊春美 兼任教授の補充。
- ・須川いずみ 兼任教授の辞退により、東郷多津 兼任准教授、York Weatherford 兼任講師に変更。
- ・萩原暢子 兼任教授の辞退により、寺谷愉利子 兼任講師の補充。
- ・廣瀬直哉 兼任教授の辞退により、後藤伸彦 兼任講師に変更。
- ・オムニバス科目に変更により、河佐英俊 兼任准教授の補充。
- ・長沼光彦 兼任准教授の職名が、平成30年4月准教授から教授に変更。
- ・神月紀輔 兼任准教授の職名が、平成30年4月准教授から教授に変更。
- ・長沼光彦 兼任教授の辞退により、武田悠希 兼任講師の補充。
- ・平野美保 兼任准教授の辞退により、荒尾千春 兼任講師の補充。
- ・吉田(小野澤) 朋子 兼任准教授の改姓により、吉田朋子 兼任准教授に変更。
- ・中里郁子 兼任講師の職名が、平成30年4月講師から准教授に変更。
- ・住本 純 兼任助教の職名が、平成30年4月助教から講師に変更。
- ・今井里佳 兼任講師の辞任により、戸川律子 兼任講師の補充。
- ・小郡晶子 兼任講師の辞任により、根岸智代 兼任講師の補充。
- ・工藤春代 兼任講師の辞任により、鬼頭弥生 兼任講師の補充。
- ・小島秀信 兼任講師の辞任により、百木 漢 兼任講師の補充。
- ・真田雅子 兼任講師の辞任により、Daniel Pearce 兼任講師の補充。
- ・田中美和子 兼任講師、葛田和美 兼任講師の辞任により、松岡真由子 兼任講師の補充。
- ・大喜直彦 兼任講師の辞任により、小林健太 兼任講師の補充。
- ・中森伸行 兼任講師の辞任により、藪 哲郎 兼任講師の補充。
- ・福島祐貴 兼任講師の辞任により、渡邊春美 兼任教授の補充。
- ・松田 修 兼任講師の辞任により、松田忠喜 兼任講師の補充。
- ・Jacoba Akazawa 兼任講師の辞任により、Jacques Wilburn 兼任講師の補充。
- ・Jodie Campbell 兼任講師の辞退により、Katy Simpsonの 兼任講師の補充。
- ・安藤幸治 兼任講師の辞任により、平山幸乃 兼任講師の補充。

【令和元年度】

- ・高井直美 兼任教授の辞退により、松島るみ兼任教授に変更。
- ・石井浩子 兼任准教授の職名が、平成31年4月准教授から教授に変更。
- ・久野将健 兼任准教授の職名が、平成31年4月准教授から教授に変更。
- ・東郷多津 兼任准教授の辞退及び荒尾千春 兼任講師の辞任により、濱中倫秀 兼任講師の補充。
- ・長沼光彦 兼任教授の辞任により、吉澤健吉 兼任講師の補充。
- ・York Weatherford兼任講師の職名が、平成31年4月講師から准教授に変更。
- ・伊藤薫 兼任講師の辞任により、田中祐子 兼任講師の補充。
- ・片山裕 兼任講師の辞任により、北澤義之 兼任講師の補充。
- ・久保 圭 兼任教師の辞任により、田丸歩実 兼任講師の補充。
- ・森本慶太 兼任講師の辞任により、上山益己 兼任講師の補充。
- ・杉山 生 兼任講師の辞任により、小林慧子 兼任講師の補充。
- ・竹内正明 兼任講師の辞任により、西田正嗣 兼任講師の補充。
- ・教育充実(クラス増加)のため、田中美和子 兼任講師の補充。
- ・教育課程(科目増加)及び教育体制の見直し・充実のため、Rebecca Paterson 兼任講師の補充。
- ・土井裕明 兼任講師の辞任により、高岡克行 兼任講師の補充。
- ・橋本史人 兼任講師の辞退により、勇川昌史 兼任講師の補充。
- ・横山(須賀)真紀 兼任講師の辞任により、宮村教平 兼任講師の補充。
- ・Jodie Campbell 兼任講師の辞任及び教育体制の見直し・充実のため、Thomas Nishikawa 兼任講師の補充。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
11 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
9	2	3	0	14	10	2	3	0	15
(8)	(2)	(3)	(-)	(13)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(C)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
10	2	3	0	15	10	2	3	0	15
[1]	[-]	[-]	[-]	[1]	[1]	[-]	[-]	[-]	[1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、**

完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65または70 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、

および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている

教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{15}{14} = \boxed{107.14} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{15} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
		該当なし							
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
0 人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
1	教授	小池 桂	H30.3	必修	福祉生活デザイン概論	①	H30.3.31付けで一身上の都合のため辞任 (30)		
				必修	福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ	①			
				必修	福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ	①			
				必修	福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ	①			
				選択	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	①			
				選択	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	①			
				選択	ソーシャルワーク現場実習	①			
				必修	生活福祉デザイン特論	①			
必修	卒業研究	①							
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
1 人	必修	6	科目	必修	6	科目	必修	0	科目
	選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	9	科目	計	9	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
1 人	必修	6	科目	必修	6	科目	必修	0	科目
	選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	9	科目	計	9	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{14} = 7.14 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
0 人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員(教授)の辞任については、同氏の専門分野から社会福祉の歴史・原論系学科での教育研究の希望があり、本学部・学科の設置趣旨・目的とは隔たりがあった。同氏の専門分野での活躍を期待し、辞任はやむを得ないと考えた。
 なお、既に後任の教員を補充しており、辞任教員の担当(予定)科目は、後任教員が担当するほか、他の適任専任教員が担当し、学生への教育および履修等への影響はない。
 科目担当教員の交代については、シラバスで担当教員を修正しているほか、年度当初に学生に対し周知を図っている。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (平成28年8月)	<p>・社会福祉士と精神保健福祉士の両資格の取得は、修得単位数(157単位)や実習等から相当な過密スケジュールとなる。両資格を取得できる者の上限を設け、かつ、該当者については、コース選択時のみでなく、定期的に成績や受講状況を把握し、適切な指導を行うこと。</p>	<p>留意事項</p>	<p>・両資格取得には成績優秀者に限定し、2年進級時のコース所属への説明会で取得科目の多さ、実習スケジュールの厳しさを説明の上、面接において両資格取得の適正を図った上で可否を判断する。また、履修指導上においても定期的に成績や受講状況を把握し、実習担任のみならず所属教員全員による適切な指導体制をとることとした。(29)</p> <p>履行済</p>
認 可 時 (平成28年8月)	<p>・医療ソーシャルワーカーのための実習施設を追加しているが、医療ソーシャルワーカーは特殊な技能や実技を必要とするものであるため、ソーシャルワークの実習の科目の中での1施設として加えるのではなく、医療ソーシャルワークに特化した実習科目を設けて実習を実施すること。 (その際、短期間に集中して実施するのではなく、1年間をかけて長期的に病院での実習を行うことが望ましい。)</p>	<p>留意事項</p>	<p>・医療ソーシャルワークに特化した病院で行う通年の実習科目として、「医療ソーシャルワーク現場実習」(3年通年)を開設することとし、担当を予定する専任教員について、平成29年3月変更書提出済。(29)</p> <p>履行済</p>
認 可 時 (平成28年8月)	<p>・福祉生活総合コースは、コミュニティビジネスや起業をテーマにしているため、ソーシャルマーケティングやソーシャルビジネスに関する知識の修得が重要である。ビジネス系3科目を設定しているが、コミュニティビジネスの中核となるソーシャルマーケティングやソーシャルビジネスを扱う科目を開設するよう改善すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>・ソーシャルビジネスの概念やコミュニティビジネスについて解説する「ビジネスの基礎Ⅱ」(2年後期)及び「ソーシャルマーケティング論」(3年後期)の授業科目を開設する。 なお、当初科目の「ビジネスの基礎」を「ビジネスの基礎Ⅰ」(2年前期)に変更した。(29)</p> <p>履行済</p>

<p>認可時 (平成28年8月)</p>	<p>・教員の補充を必要とされた11授業科目については、科目開講時までに確実に専任教員を配置して教員を充足すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>・教員補充が必要とされた科目のうち、4科目については、平成28年11月教員審査済。(29)</p> <p>・教員補充が必要とされた科目のうち、更に4科目について、平成30年2月教員審査済(30)</p> <p>・開講時までに確実に専任教員を配置して教員を充足とされた3科目について、平成30年7月及び平成30年10月教員審査済(元)</p>	<p>履行済</p>	<p>・現時点で未補充である以下の7科目については、科目開講時までに確実に専任教員を配置・充足する。(29) 社会保障論Ⅰ (平成29年10月AC教員審査予定) 社会保障論Ⅱ (平成30年3月AC教員審査予定) 公的扶助論 (平成30年3月AC教員審査予定) 福祉行政と福祉計画 (平成31年3月AC教員審査予定) 社会福祉運営論 (平成29年10月AC教員審査予定) 就労支援 (平成30年10月AC教員審査予定) 就労支援 (平成30年10月AC教員審査予定)</p> <p>・現時点で未補充である以下の3科目については、科目開講時までに確実に専任教員を配置・充足する。(30) 福祉行政と福祉計画 (平成31年3月AC教員審査予定) 就労支援(オムニバス) (平成30年10月AC教員審査予定) 就労支援(オムニバス) (平成30年10月AC教員審査予定)</p>
<p>設置計画履行状況調査時 (平成30年2月)</p>	<p>・現代人間学部福祉生活デザイン学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>・平成30年度は、昨年度と比べて、入学生の増加はあったが、未だ定員充足率の平均が0.7倍未満である。今後も学科の特色を発信し続けることで、定員充足率の上昇が可能と思われるため、広報戦略を見直し学生確保に努める。(30)</p> <p>・平成31年度は、過去2カ年度と比べて、入学生の増加はあったが、未だ定員充足率の平均は0.7倍未満である。引き続き全学的に広報活動に力を入れるとともに、学科改革を進め、学生確保に努める。(元)</p>	<p>履行中</p>	<p>・引き続き、学生確保のため最大限の広報活動を行う。なお、完成年度までの入学者状況をみて、入学定員の見直しや学科の改革を行う。(30)</p> <p>・引き続き、学生確保のため最大限の広報活動を行うとともに、完成年度までの入学定員充足率、入学者状況をみて、教育内容の充実、入学定員の見直しや学科名称変更などを検討し、改善に努める。(元)</p>
<p>設置計画履行状況調査時 (平成30年2月)</p>	<p>・同一設置者が設置する既設学部等(人間文化学部人間文化学科)の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>・平成30年度における人間文化学部人間文化学科の4年間の定員充足率の平均は0.71倍となった。今後も一層、広報活動に力を入れ学生確保に努める。また、平成31年度から学びの特性をより明確に示す、国際日本文化学科に名称変更して学生確保に繋げる。(30)</p>	<p>履行済</p>	

設置計画履行状況 調査時 (平成31年3月)	・入学定員未充足の改善に努めること。(現代人間学部福祉生活デザイン学科)	改善意見	・入学生確保に努めた結果、毎年度入学定員充足率は上がっており、平成31年度の入学定員充足率は0.72倍となった。引き続き、大学一丸となって学生確保に努める。(元)	履行中	・引き続き、学生確保のため最大限の広報活動を行うとともに、完成年度までの入学定員充足率、入学者状況をみて、教育内容の充実、学科名称変更を行う。また、入学定員の見直しを検討する。(元)
------------------------------	--------------------------------------	------	---	-----	---

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<現代人間学部 福祉生活デザイン学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FD活動

- ・ 京都ノートルダム女子大学FD委員会を設置（別添2 参照）

SD活動

- ・ 学校法人または大学事務局において実施

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

FD活動

- ・ 毎月1回（8月及び12月を除く）年間10回開催
- ・ 委員は各学科から選出された教員と担当課長で構成し、開催は全員出席を原則としている。

c 委員会の審議事項等

FD活動

- ・ FD活動の企画立案
- ・ FD活動の実施計画の策定及び評価
- ・ FDに関する研修及び研究
- ・ FD報告書の作成
- ・ FDに関する情報の収集と提供
- ・ FD関係団体との連携に関すること 等

② 実施状況

a 実施内容

FD活動

- ・ FD研修会
- ・ 全学教員FD研修会
- ・ 大学コンソーシアム京都主催の「FDフォーラム」に委員として参画及び教職員の参加
- ・ オープンクラス開催

SD活動

- ・ ノートルダム三校合同研修会
- ・ 新任教職員研修会
- ・ 教職員研修会

b 実施方法

FD活動・・・複数の機会を提供し教員参加の機会を確保

- ・ 学内教員によるLMS（学習管理システム）
- ・ 全学教員FD研修会（授業方法等について）
平成30年度は学外講師による学朱評価についての講演
- ・ 大学コンソーシアム京都主催のFD研修会への参加
- ・ 平成30年度オープンクラス・・・教員相互の授業参観・コメント提出

SD活動

- ・ ノートルダム三校合同研修会・・・設立理念（ミッション・コミットメント）
- ・ 新任教職員研修・・・カトリック学校の使命、教育精神等
- ・ 教職員研修・・・①学生支援に関する研修「大学に求められる合理的配慮とは何か」
②ハラスメント防止に関する研修「アカデミックハラスメント防止を考える」
③LGBTに関する研修「セクシュアル・マイノリティを知る」

c 開催状況（教員の参加状況含む）

F D活動

- ・ F D研修会
参加者数 62名（教員72名のうち、56名参加、参加率77.8%）
- ・ 全学F D研修会
参加者数 56名（教員72名のうち、51名参加、参加率70.8%）
- ・ 大学コンソーシアム京都主催のF D研修会参加（F D研修会欠席者に対する措置）させた。
- ・ オープンクラス
ほぼ全科目について、前期2週間、後期3週間の「オープンクラス・ウィーク」を実施した。
授業参観者の「参観者コメントシート」は、それぞれ50件であった。

S D活動

- ・ ノートルダム三校合同研修会・・・参加者数 教員32名（事務系50名）
- ・ 新任教職員研修・・・新規採用教職員 教員7名（事務系3名）
- ・ 教職員研修 ①参加者数 教員38名（事務系31名）
②参加者数 教員46名（事務系29名）
③参加者数 教員46名（事務系30名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 研修会によって、大学教育の動向や考え方、LMS（学習管理システム）の活用法、学習評価の方法が教員間で共有され、授業改善に活かされている。
- ・ オープンクラスでは、教員間で授業について検討することにより、授業方法の知識や技能を共有し授業改善に反映されるよう意識共有を図っている。
- ・ 大学の設立理念や学部・学科の設置趣旨等を再確認することにより、教育・指導に活かしている。
- ・ S D活動によって、主に事務系職員が基本的な教育関係法令の高い業務手法が提供でき得ることで、質の高い教員サービスが提供でき、間接的に教育の改善に活かされている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

（4）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

今日、少子高齢化とともに人口減少時代を迎えて、これまでとは違う新たな社会の創造が求められている。このような社会状況を背景に、生活の質の観点から、個人や家族、高齢者や子ども、障がい者など、多様な立場の人にとっての望ましい生活を、衣、食、住、家族の諸点から多角的に追究する生活科学に対し、その生活科学が描く望ましい生活の実現と保障に向けて、高齢者や子ども、障がい者やひとり親世帯など、困難性の高い立場の人への支援のあり方やその実践について追究する社会福祉学の両者を内包し、現代社会における人間生活の目標とその実現への方策を総合的、包括的に教育、研究を行うことの意義は大きい。そして、意義を理解し、関連しあう生活科学、社会福祉学を包括的に学んだうえで、目標となる生活のあり方の追求、あるいはその実現を支える支援に取り組む人材を養成することが現代人間学部福祉生活デザイン学科設置の趣旨・目的である。

平成29年4月に入学した第1期生37名は、3年次より、専門ゼミに分属が決定し、卒業論文作成に向けて第1歩を踏み出し、平成30年4月に入学した第2期42名は、2年次より、生活デザインコース、社会福祉コース、福祉生活総合コースのいずれかに分属が決定し、ひとり一人が目指す専門の学びをスタートさせている。平成31年4月には、第3期51名の入学者を迎え、昨年同様に、新入生を対象として、オリエンテーションを実施し、本学の教育理念および学部・学科の教育目標、学位授与方針をはじめ、共通教育、学部共通教育、学科専門科目などのカリキュラム説明を含む履修ガイダンスを行い、きめ細やかな履修指導を実施した。1年間に取得できる単位の上限を46単位と定め、資格取得や2年次からのコース分属へ向けての十分な説明と共に、初年次教育の担当教員全員が履修登録時も個別の質問等に対応した。その後、フレッシュマンセミナーで、充実した学生生活が送れるように、学科独自の企画内容により、上級生、教員との交流を深めた。

以上のとおり、設置の趣旨・目的を達成するための初年次教育および専門教育を順調にスタートさせている。なお、今年度は、昨年度と比べて、志願者数、合格者数、入学者数ともに増加したが、定員充足には至らなかった。令和2年度の学生募集にあたっては、入試広報（オープンキャンパスでの特色ある企画、(大学ホームページ、学科オリジナルサイト、その他SNS（ブログ、ツイッター、インスタグラム）の利用や高等学校への学校訪問、個別説明会等）及び高等学校の模擬授業などを通じて、高校3年生だけでなく、2年生への情報発信を含めて、福祉生活デザイン学科の設置の目的や意義、教育課程の特色の周知を図り、さらなる志願者数の拡大に努めたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和元年11月末 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和4年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける予定。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 8 月 1 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ - ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人ノートルダム女学院

(2) 大学名

京都ノートルダム女子大学

(3) 大学の位置

〒606-0847
京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ワダ タマキ) 和田 環 (平成20年11月)		
学長	(セリタ ケンタロウ) 芹田 健太郎 (平成25年4月)	(サナダ マサコ) 眞田 雅子 (平成29年4月)	前任者は平成29年3月31日任期満了、平成29年4月に後任者が就任したため(29)
学部長	(ナカムラ クミ) 中村 久美 (平成29年4月)	(カトウ サチコ) 加藤 佐千子 (平成29年4月)	予定者は副学長に就任、平成29年4月に新たに就任したため(29)
学科主任	未定	(ヒロセ ナオヤ) (タカイ ナオミ) 廣瀬 直哉 高井 直美 (平成31年4月) (平成29年4月)	前任者は平成30年3月31日任期満了、後任者が平成31年4月に就任したため(元) 平成29年3月に決定したため (29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
現代人間学部 心理学科 学士（心理学）	文学関係	4年	100人	— 年次人	400人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	100 (-) [-]	(-) [-]	100 (-) [-]	(-) [-]	100 (-) [-]	(-) [-]	0.68倍	一倍	一部入試において学内2学科併願制を導入(元) 春季編入学、2年次2名、3年次1名(元)
志願者数	() []	() []	() []	() []	103 (-) [2]	— (-) [-]	120 (-) [4]	— (-) [-]	250 ((3)) [4]	— (-) [-]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	98 (-) [2]	— (-) [-]	114 (-) [4]	— (-) [-]	240 ((3)) [4]	— (-) [-]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	89 (-) [2]	— (-) [-]	111 (-) [4]	— (-) [-]	214 ((3)) [3]	— (-) [-]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	58 (-) [-]	— (-) [-]	65 (-) [2]	— (-) [-]	81 ((3)) [3]	— (-) [-]			
入学定員超過率 B/A					0.58		0.65		0.81				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	58 (-)	- (-)	65 (-)	- (-)	81 (-)	[3] (-)	
2年次			[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	63 (-)	[2] (-)	
3年次					[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	51 (-)	[-] (-)	
4年次							[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	
計	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	58 [-] (-)	- [-] (-)	120 [2] (-)	- [-] (-)	195 [5] (-)	[5] (-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
平成28年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	58 人	3 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	3 人	0 人	進路変更(就職)2名、除籍1名
平成30年度	120 人	6 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	4 人	0 人	他の教育機関への入学・転学2名、除籍1名、家庭の事情1名
			平成30年度	2 人	0 人	学生個人の心身に関する事情2名
令和元年度	195 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
合 計		9 人		9 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \text{ } \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \text{ } \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{58} = \text{ } \% \quad \boxed{5.17}$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{6}{120} = \text{ } \% \quad \boxed{5.00}$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{195} = \text{ } \% \quad \boxed{0}$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<現代人間学部 心理学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	日本文学	1前	2								兼1
	外国文学	1後	2								兼1
	日本近現代史	1前	2								兼1
	日本の宗教	1後	2								兼1
	東アジア近現代史	1前	2								兼1
	ヨーロッパ近現代史	1後	2								兼1
	歴史の中の女性	1後	2								兼1
	身近な心理学	1前	2			1					
	文化人類学	1後	2								兼1
	暮らしの法律学	1前	2								兼1
	憲法と人権	1後	2								兼1
	暮らしの経済学	1後	2								兼1
	国際関係論入門	1前	2								兼1
	社会学概論	1後	2								兼1
	ジェンダー論	1前	2								兼1
	ボランティア概論	1前	2								兼1
	子育てとワークライフバランス	2前	1								兼1
	こどもと子育ての生活環境学	2前	1								兼4
	海外研修(生活と社会)	1-2-3-4R	1								兼2
	身近な自然科学	1前	2								兼1
	暮らしの統計学	1後	2			1					
	地球と宇宙の科学	1前	2								兼1
	情報科学入門	1後	2								兼1
	環境学概論	1後	2								兼1
	身近な医学	1-2前	2			1					兼1
	生命倫理	1後	2								兼1
	こどもと自然	1通	2			1	1				兼2
小計(27科目)	-										
基礎科目	英語基礎Ⅰ	1前	1								兼5
	英語総合Ⅰ	1前	1								兼6
	英語基礎Ⅱ	1後	1								兼5
	英語総合Ⅱ	1後	1								兼6
	日常の英会話	2前・後	1								兼3
	旅行の英会話	2後	1								兼2
	留学の英会話	2後	1								兼2
	おもてなしの英会話	2前	1								兼2
	やさしいビジネス英会話	2前	1								兼1
	歌って覚える英語表現	2後	1								兼1
	英語リスニング初級	2前	1								兼1
	英語リスニング中級	2後	1								兼1
	読むための英語	2前	1								兼1
	実用英語基礎	2後	1								兼2
	身近な英文法	2前	1								兼2
	アカデミック英語	3前	1								兼1
	ドイツ語	1前	2								兼1
	フランス語	1後	2								兼1
	スペイン語	1前	2								兼1
	アラビア語	1後	2								兼1
中国語Ⅰ	1前・後	2								兼3	
中国語Ⅱ	1後	2								兼1	
中国語Ⅲ	2前	2								兼1	
コリア語Ⅰ	1前・後	2								兼1	
コリア語Ⅱ	1後	2								兼1	
コリア語Ⅲ	2前	2								兼1	
海外研修(語学)Ⅰ	1-2-3-4R	2								兼1	
海外研修(語学)Ⅱa	1-2-3R	2								兼1	
海外研修(語学)Ⅱb	1-2-3-4R	2								兼1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	日本文学	1前	2								兼1
	外国文学	1後	2								兼1
	日本近現代史	1前	2								兼1
	日本の宗教	1後	2								兼1
	東アジア近現代史	1前	2								兼1
	ヨーロッパ近現代史	1後	2								兼1
	歴史の中の女性	1後	2								兼1
	身近な心理学	1前	2			1					
	文化人類学	1後	2								兼1
	暮らしの法律学	1前	2								兼1
	憲法と人権	1後	2								兼1
	暮らしの経済学	1後	2								兼1
	国際関係論入門	1前	2								兼1
	社会学概論	1前	2								兼1
	ジェンダー論	1後	2								兼1
	ボランティア概論	1前	2								兼1
	子育てとワークライフバランス	2前	1								兼1
	こどもと子育ての生活環境学	2前	1								兼4
	海外研修(生活と社会)	1-2-3-4R	1								兼2
	身近な自然科学	1前	2								兼1
	暮らしの統計学	1後	2								兼1
	地球と宇宙の科学	1前	2								兼1
	情報科学入門	1後	2								兼1
	環境学概論	1後	2								兼1
	身近な医学	1-2前	2			1					兼1
	生命倫理	1後	2								兼1
	こどもと自然	1通	2			1	1				兼2
小計(27科目)	-										
基礎科目	英語基礎Ⅰ	1前	1								兼7
	英語総合Ⅰ	1前	1								兼8
	英語基礎Ⅱ	1後	1								兼7
	英語総合Ⅱ	1後	1								兼8
	日常の英会話	2前・後	1								兼3
	旅行の英会話	2後	1								兼2
	留学の英会話	2後	1								兼1
	おもてなしの英会話	2前	1								兼3
	やさしいビジネス英会話	2前	1								兼1
	歌って覚える英語表現	2後	1								兼1
	英語リスニング初級	2前	1								兼1
	英語リスニング中級	2後	1								兼1
	読むための英語	2前	1								兼1
	実用英語基礎	2後	1								兼2
	身近な英文法	2前	1								兼2
	アカデミック英語	3前	1								兼1
	英語実践(4技能)Ⅰ	1-2-3-4R	1								兼4
	英語実践(4技能)Ⅱ	1-2-3-4R	1								兼4
	ドイツ語	1前	2								兼1
	フランス語	1後	2								兼1
スペイン語	1前	2								兼1	
アラビア語	1後	2								兼1	
中国語Ⅰ	1前・後	2								兼4	
中国語Ⅱ	1後	2								兼1	
中国語Ⅲ	2前	2								兼1	
コリア語Ⅰ	1前・後	2								兼1	
コリア語Ⅱ	1後	2								兼1	
コリア語Ⅲ	2前	2								兼1	
海外研修(語学)Ⅰ	1-2-3-4R	2								兼1	
海外研修(語学)Ⅱa	1-2-3R	2								兼2	
海外研修(語学)Ⅱb	1-2-3-4R	2								兼2	

専門教育科目	展開科目		展開科目		専門教育科目		展開科目		展開科目		専門教育科目		展開科目		展開科目		
	科目名	単位数	履修年次	履修学期	科目名	単位数	履修年次	履修学期	科目名	単位数	履修年次	履修学期	科目名	単位数	履修年次	履修学期	
専門教育科目	知覚心理学	2	2	1	知覚・認知心理学	2	2	1	知覚・認知心理学	2	2	1	知覚・認知心理学	2	2	1	
	学習の心理学	2	2	1	学習の心理学	2	2	1	学習の心理学	2	2	1	学習の心理学	2	2	1	
	認知心理学	2	2	1	認知心理学	2	2	1	認知心理学	2	2	1	認知心理学	2	2	1	
	神経心理学	2	2	1	神経心理学	2	2	1	神経心理学	2	2	1	神経心理学	2	2	1	
	教育心理学概論	2	2	1	教育心理学概論	2	2	1	教育心理学概論	2	2	1	教育心理学概論	2	2	1	
	発達心理学概論	2	2	1	発達心理学概論	2	2	1	発達心理学概論	2	2	1	発達心理学概論	2	2	1	
	現代青年の心理学	2	2	1	現代青年の心理学	2	2	1	現代青年の心理学	2	2	1	現代青年の心理学	2	2	1	
	高齢者の心理学	2	2	1	高齢者の心理学	2	2	1	高齢者の心理学	2	2	1	高齢者の心理学	2	2	1	
	現代社会の心理学	2	2	1	現代社会の心理学	2	2	1	現代社会の心理学	2	2	1	現代社会の心理学	2	2	1	
	対人関係論	2	2	1	対人関係論	2	2	1	対人関係論	2	2	1	対人関係論	2	2	1	
	生活環境の心理学	2	2	1	生活環境の心理学	2	2	1	生活環境の心理学	2	2	1	生活環境の心理学	2	2	1	
	消費者行動の心理学	2	2	1	消費者行動の心理学	2	2	1	消費者行動の心理学	2	2	1	消費者行動の心理学	2	2	1	
	家族心理学	2	2	1	家族心理学	2	2	1	家族心理学	2	2	1	家族心理学	2	2	1	
	社会・ビジネス心理 フィールド研修	2	2	3	1	社会・集団・家族心理 学Ⅰ(社会・集 団)	2	2	1	社会・集団・家族心理 学Ⅱ(家族)	2	2	1	社会・ビジネス心理 フィールド研修	2	2	2
	服飾心理学	2	2	1	服飾心理学	2	2	1	服飾心理学	2	2	1	服飾心理学	2	2	1	
	産業心理学	2	2	1	産業心理学	2	2	1	産業心理学	2	2	1	産業心理学	2	2	1	
	心理カウンセリング概 論	2	2	1	心理カウンセリング概 論	2	2	1	心理カウンセリング概 論	2	2	1	心理カウンセリング概 論	2	2	1	
	心理テスト論	2	2	1	心理テスト論	2	2	1	心理テスト論	2	2	1	心理テスト論	2	2	1	
	臨床心理学概論	2	2	1	臨床心理学概論	2	2	1	臨床心理学概論	2	2	1	臨床心理学概論	2	2	1	
	精神保健学Ⅰ	2	2	1	精神保健学Ⅰ	2	2	1	精神保健学Ⅰ	2	2	1	精神保健学Ⅰ	2	2	1	
	精神保健学Ⅱ	2	2	1	精神保健学Ⅱ	2	2	1	精神保健学Ⅱ	2	2	1	精神保健学Ⅱ	2	2	1	
	パーソナリティ心理学	2	2	1	パーソナリティ心理学	2	2	1	パーソナリティ心理学	2	2	1	パーソナリティ心理学	2	2	1	
	障害児・者の心理学	2	2	1	障害児・者の心理学	2	2	1	障害児・者の心理学	2	2	1	障害児・者の心理学	2	2	1	
	臨床心理アセスメント	2	2	1	臨床心理アセスメント	2	2	1	臨床心理アセスメント	2	2	1	臨床心理アセスメント	2	2	1	
	無意識の心理学	2	2	1	無意識の心理学	2	2	1	無意識の心理学	2	2	1	無意識の心理学	2	2	1	
	スクールカウンセリング 論	2	2	1	スクールカウンセリング 論	2	2	1	スクールカウンセリング 論	2	2	1	スクールカウンセリング 論	2	2	1	
	心理療法論	2	2	1	心理療法論	2	2	1	心理療法論	2	2	1	心理療法論	2	2	1	
	心理関係法規論	2	2	1	心理関係法規論	2	2	1	心理関係法規論	2	2	1	心理関係法規論	2	2	1	
	精神医学Ⅰ	2	2	1	精神医学Ⅰ	2	2	1	精神医学Ⅰ	2	2	1	精神医学Ⅰ	2	2	1	
	精神医学Ⅱ	2	2	1	精神医学Ⅱ	2	2	1	精神医学Ⅱ	2	2	1	精神医学Ⅱ	2	2	1	
	犯罪心理学	2	2	1	犯罪心理学	2	2	1	犯罪心理学	2	2	1	犯罪心理学	2	2	1	
	認知行動療法概論	2	2	1	認知行動療法概論	2	2	1	認知行動療法概論	2	2	1	認知行動療法概論	2	2	1	
	心理カウンセリング実 践(アートセラピー)	2	2	2	心理カウンセリング実 践(アートセラピー)	2	2	2	心理カウンセリング実 践(アートセラピー)	2	2	2	心理カウンセリング実 践(アートセラピー)	2	2	2	
	心理カウンセリング フィールド研修	2	2	2	2	心理カウンセリング フィールド研修	2	2	2	2	2	2	心理カウンセリング フィールド研修	2	2	2	
小計(34科目)	-	-	-	-	小計(33科目)	-	-	-	-	-	-	小計(33科目)	-	-	-	-	
関連科目	現代ジャーナリズム論	2	2	1	現代ジャーナリズム論	2	2	1	現代ジャーナリズム論	2	2	1	現代ジャーナリズム論	2	2	1	
	福祉住環境デザイン	2	2	1	福祉住環境デザイン	2	2	1	福祉住環境デザイン	2	2	1	福祉住環境デザイン	2	2	1	
	食品流通論	2	2	1	食品流通論	2	2	1	食品流通論	2	2	1	食品流通論	2	2	1	
	消費者教育	2	2	1	消費者教育	2	2	1	消費者教育	2	2	1	消費者教育	2	2	1	
	衣生活情報論	2	2	1	衣生活情報論	2	2	1	衣生活情報論	2	2	1	衣生活情報論	2	2	1	
	ビジネスの基礎	2	2	1	ビジネスの基礎	2	2	1	ビジネスの基礎	2	2	1	ビジネスの基礎	2	2	1	
	マーケティング論	2	2	1	マーケティング論	2	2	1	マーケティング論	2	2	1	マーケティング論	2	2	1	
	女性起業論	2	2	1	女性起業論	2	2	1	女性起業論	2	2	1	女性起業論	2	2	1	
	現代社会と福祉Ⅰ	2	2	1	現代社会と福祉Ⅰ	2	2	1	現代社会と福祉Ⅰ	2	2	1	現代社会と福祉Ⅰ	2	2	1	
	現代社会と福祉Ⅱ	2	2	1	現代社会と福祉Ⅱ	2	2	1	現代社会と福祉Ⅱ	2	2	1	現代社会と福祉Ⅱ	2	2	1	
	地域福祉論Ⅰ	2	2	1	地域福祉論Ⅰ	2	2	1	地域福祉論Ⅰ	2	2	1	地域福祉論Ⅰ	2	2	1	
	地域福祉論Ⅱ	2	2	1	地域福祉論Ⅱ	2	2	1	地域福祉論Ⅱ	2	2	1	地域福祉論Ⅱ	2	2	1	
	医学一般	2	2	1	医学一般	2	2	1	医学一般	2	2	1	医学一般	2	2	1	
	社会保障Ⅰ	2	2	1	社会保障Ⅰ	2	2	1	社会保障Ⅰ	2	2	1	社会保障Ⅰ	2	2	1	
	社会保障Ⅱ	2	2	1	社会保障Ⅱ	2	2	1	社会保障Ⅱ	2	2	1	社会保障Ⅱ	2	2	1	
	障害者福祉論	2	2	1	障害者福祉論	2	2	1	障害者福祉論	2	2	1	障害者福祉論	2	2	1	
	保健医療サービス	2	2	1	保健医療サービス	2	2	1	保健医療サービス	2	2	1	保健医療サービス	2	2	1	
	公的扶助論	2	2	1	公的扶助論	2	2	1	公的扶助論	2	2	1	公的扶助論	2	2	1	
	福祉行財政と福祉計画	2	2	1	福祉行財政と福祉計画	2	2	1	福祉行財政と福祉計画	2	2	1	福祉行財政と福祉計画	2	2	1	
	権利擁護と成年後見制 度	2	2	1	権利擁護と成年後見制 度	2	2	1	権利擁護と成年後見制 度	2	2	1	権利擁護と成年後見制 度	2	2	1	
精神科リハビリテー ション学Ⅰ	2	2	1	精神科リハビリテー ション学Ⅰ	2	2	1	精神科リハビリテー ション学Ⅰ	2	2	1	精神科リハビリテー ション学Ⅰ	2	2	1		
精神科リハビリテー ション学Ⅱ	2	2	1	精神科リハビリテー ション学Ⅱ	2	2	1	精神科リハビリテー ション学Ⅱ	2	2	1	精神科リハビリテー ション学Ⅱ	2	2	1		
精神保健福祉論Ⅰ	2	2	1	精神保健福祉論Ⅰ	2	2	1	精神保健福祉論Ⅰ	2	2	1	精神保健福祉論Ⅰ	2	2	1		
精神保健福祉論Ⅱ	2	2	1	精神保健福祉論Ⅱ	2	2	1	精神保健福祉論Ⅱ	2	2	1	精神保健福祉論Ⅱ	2	2	1		

専門教育科目	関連科目	精神保健福祉論Ⅲ	4前		2															兼1	
		精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	1後		2																兼1
		精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	2前		2																兼1
		精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	3後		2																兼1
		精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	4前		2																兼1
		精神保健福祉援助演習（基礎）	3前			1	1														兼1
		精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ	3後			1	1														兼1
		精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ	4前			1	1														兼1
		精神保健福祉援助実習指導	3後			3		1													兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	3休			2		1													兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	3休			2		1													兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅲ	3休			3		1													兼1
		社会福祉特講Ⅱ	4通			2															兼1
		小計(37科目)	-																		
専門演習・卒業研究	心理学演習	3通	4			7	6														
	卒業研究	4通	4			7	6														
	卒業論文	4通		4		7	6														
	小計(3科目)	-																			
合計(183科目)	-																				
卒業要件及び履修方法																					
(1) 共通教育科目 必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあつては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることができる。																					
(2) 学部共通科目 選択科目の現代社会と子ども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。																					
(3) 専門教育科目 必修22単位、合計84単位以上修得すること。ただし、コースごとに必修と選択必修を定める(心理カウンセリングコースは、コース必修科目(心理テスト演習、質問紙調査法、心理カウンセリング実践(面接技法)、心理テスト論、臨床心理学概論、心理関係法規論、精神医学Ⅰ、心理カウンセリングフィールド研修)16単位、必修以外の専門基礎科目と専門展開科目から22単位以上修得する。社会・ビジネス心理コースは、コース必修科目(初級実験演習Ⅱ、現代社会調査入門、推測統計学Ⅰ、推測統計学Ⅱ、現代社会の心理学)10単位、必修以外の専門基礎科目と専門展開科目から28単位以上修得すること。)																					
(4) 学際教育科目 他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。																					
(5) (1)～(4)全体で124単位以上修得する。																					

専門教育科目	関連科目	精神保健福祉論Ⅲ	4前		2															兼1	
		精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	1後		2																兼1
		精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	2前		2																兼1
		精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	3後		2																兼1
		精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	4前		2																兼1
		精神保健福祉援助演習（基礎）	3前			1	1														兼1
		精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ	3後			1	1														兼1
		精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ	4前			1	1														兼1
		精神保健福祉援助実習指導	3後			3		1													兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	3休			2		1													兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	3休			2		1													兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅲ	3休			3		1													兼1
		社会福祉特講Ⅱ	4通			2															兼1
		小計(37科目)	-																		
専門演習・卒業研究	心理学演習	3通	4				6	7													
	卒業研究	4通	4				6	7													
	卒業論文	4通		4			6	7													
	小計(3科目)	-																			
合計(184科目)	-																				
卒業要件及び履修方法																					
(1) 共通教育科目 必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあつては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることができる。																					
(2) 学部共通科目 選択科目の現代社会と子ども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。																					
(3) 専門教育科目 必修22単位、合計84単位以上修得すること。ただし、コースごとに必修と選択必修を定める(心理カウンセリングコースは、コース必修科目(心理テスト演習、質問紙調査法、心理カウンセリング実践(面接技法)、心理テスト論、臨床心理学概論、心理関係法規論、 精神疾患とその治療Ⅰ 、心理カウンセリングフィールド研修)16単位、必修以外の専門基礎科目と専門展開科目から22単位以上修得する。社会・ビジネス心理コースは、コース必修科目(心理学実験演習Ⅱ 、現代社会調査入門、推測統計学Ⅰ、推測統計学Ⅱ、 社会・集団・家族心理学Ⅰ(社会・集団))10単位、必修以外の専門基礎科目と専門展開科目から28単位以上修得すること。)																					
(4) 学際教育科目 他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。																					
(5) (1)～(4)全体で124単位以上修得する。																					

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	日本文学	1前		2								兼1
	外国文学	1後		2								兼1
	日本近現代史	1前		2								兼1
	日本の宗教	1後		2								兼1
	東アジア近現代史	1前		2								兼1
	ヨーロッパ近現代史	1後		2								兼1
	歴史の中の女性	1後		2								兼1
	身近な心理学	1前		2		1						
	文化人類学	1後		2								兼1
	暮らしの法律学	1前		2								兼1
	憲法と人権	1後		2								兼1
	暮らしの経済学	1後		2								兼1
	国際関係論入門	1前		2								兼1
	社会学概論	1前		2								兼1
	ジェンダー論	1後		2								兼1
	ボランティア概論	1前		2								兼1
	子育てとワークライフバランス	2前		1								兼1
	子どもと子育ての生活環境学	2前		1								兼4
	海外研修(生活と社会)	1-2-3-4年		1								兼2
	身近な自然科学	1前		2								兼1
	暮らしの統計学	1後		2		1						
	地球と宇宙の科学	1前		2								兼1
	情報科学入門	1後		2								兼1
	環境学概論	1後		2								兼1
	身近な医学	1-2前		2		1						兼1
	生命倫理	1後		2								兼1
	子どもと自然	1通		2		1	1					兼2
小計(27科目)	-											
共通教育科目	英語基礎Ⅰ	1前	1									兼5
	英語総合Ⅰ	1前	1									兼7
	英語基礎Ⅱ	1後	1									兼5
	英語総合Ⅱ	1後	1									兼7
	日常の英会話	2前・後		1								兼3
	旅行の英会話	2後		1								兼2
	留学の英会話	2後		1								兼2
	おもてなしの英会話	2前		1								兼2
	やさしいビジネス英会話	2前		1								兼1
	歌って覚える英語表現	2後		1								兼1
	英語リスニング初級	2前		1								兼1
	英語リスニング中級	2後		1								兼1
	読むための英語	2前		1								兼1
	実用英語基礎	2後		1								兼1
	身近な英文法	2前		1								兼1
	アカデミック英語	3前		1								兼1
	ドイツ語	1前		2								兼1
	フランス語	1後		2								兼1
	スペイン語	1前		2								兼1
	アラビア語	1後		2								兼1
	中国語Ⅰ	1前・後		2								兼4
	中国語Ⅱ	1後		2								兼1
	中国語Ⅲ	2前		2								兼1
	コリア語Ⅰ	1前・後		2								兼1
	コリア語Ⅱ	1後		2								兼1
	コリア語Ⅲ	2前		2								兼1
	海外研修(語学)Ⅰ	1-2-3-4年		2								兼1
	海外研修(語学)Ⅱa	1-2-3年		2								兼1
	海外研修(語学)Ⅱb	1-2-3-4年		2								兼1
	日本語講読Ⅰ	1前		1								兼1
	日本語講読Ⅱ	1後		1								兼1
	日本語表現Ⅰ	1前		1								兼1
日本語表現Ⅱ	1後		1								兼1	
日本語特講Ⅰ	2前		1								兼1	
日本語特講Ⅱ	2後		1								兼1	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	日本文学	1前		2								兼1
	外国文学	1後		2								兼1
	日本近現代史	1前		2								兼1
	日本の宗教	1後		2								兼1
	東アジア近現代史	1前		2								兼1
	ヨーロッパ近現代史	1後		2								兼1
	歴史の中の女性	1後		2								兼1
	身近な心理学	1前		2		1						
	文化人類学	1後		2								兼1
	暮らしの法律学	1前		2								兼1
	憲法と人権	1後		2								兼1
	暮らしの経済学	1後		2								兼1
	国際関係論入門	1前		2								兼1
	社会学概論	1前		2								兼1
	ジェンダー論	1後		2								兼1
	ボランティア概論	1前		2								兼1
	子育てとワークライフバランス	2前		1								兼1
	子どもと子育ての生活環境学	2前		1								兼4
	海外研修(生活と社会)	1-2-3-4年		1								兼2
	身近な自然科学	1前		2								兼1
	暮らしの統計学	1後		2					1			
	地球と宇宙の科学	1前		2								兼1
	情報科学入門	1後		2								兼1
	環境学概論	1後		2								兼1
	身近な医学	1-2前		2		1						兼1
	生命倫理	1後		2								兼1
	子どもと自然	1通		2		1	1					兼2
小計(27科目)	-											
共通教育科目	英語基礎Ⅰ	1前	1									兼6
	英語総合Ⅰ	1前	1									兼7
	英語基礎Ⅱ	1後	1									兼6
	英語総合Ⅱ	1後	1									兼7
	日常の英会話	2前・後		1								兼3
	旅行の英会話	2後		1								兼2
	留学の英会話	2後		1								兼2
	おもてなしの英会話	2前		1								兼2
	やさしいビジネス英会話	2前		1								兼1
	歌って覚える英語表現	2後		1								兼1
	英語リスニング初級	2前		1								兼1
	英語リスニング中級	2後		1								兼1
	読むための英語	2前		1								兼1
	実用英語基礎	2後		1								兼2
	身近な英文法	2前		1								兼2
	アカデミック英語	3前		1								兼1
	ドイツ語	1前		2								兼1
	フランス語	1後		2								兼1
	スペイン語	1前		2								兼1
	アラビア語	1後		2								兼1
	中国語Ⅰ	1前・後		2								兼4
	中国語Ⅱ	1後		2								兼1
	中国語Ⅲ	2前		2								兼1
	コリア語Ⅰ	1前・後		2								兼1
	コリア語Ⅱ	1後		2								兼1
	コリア語Ⅲ	2前		2								兼1
	海外研修(語学)Ⅰ	1-2-3-4年		2								兼1
	海外研修(語学)Ⅱa	1-2-3年		2								兼2
	海外研修(語学)Ⅱb	1-2-3-4年		2								兼2
	日本語講読Ⅰ	1前		1								兼1
	日本語講読Ⅱ	1後		1								兼1
	日本語表現Ⅰ	1前		1								兼1
日本語表現Ⅱ	1後		1								兼1	
日本語特講Ⅰ	2前		1								兼1	
日本語特講Ⅱ	2後		1								兼1	

専門教育科目	関連科目	精神保健福祉援助演習(基礎)	3前			1	1										兼1		
		精神保健福祉援助演習(専門) I	3後			1	1											兼1	
		精神保健福祉援助演習(専門) II	4前			1	1											兼1	
		精神保健福祉援助実習指導	3後			3		1										兼1	
		精神保健福祉援助実習 I	3休			2		1										兼1	
		精神保健福祉援助実習 II	3休			2		1										兼1	
		精神保健福祉援助実習 III	3休			3		1										兼1	
		社会福祉特講 II	4通			2												兼1	
		小計(37科目)	-																
		専門演習・卒業研究	心理学演習	3通	4			7	7										
卒業研究	4通		4			7	7												
卒業論文	4通			4		7	7												
小計(3科目)	-																		
合計(183科目)		-																	
卒業要件及び履修方法																			
(1) 共通教育科目 必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることができる。																			
(2) 学部共通科目 選択科目の現代社会と子ども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。																			
(3) 専門教育科目 必修22単位、合計84単位以上修得すること。ただし、コースごとに必修と選択必修を定める(心理カウンセリングコースは、コース必修科目(心理テスト演習、質問紙調査法、心理カウンセリング実践(面接技法)、心理テスト論、臨床心理学概論、心理関係法規論、精神医学Ⅰ、心理カウンセリングフィールド研修)16単位、必修以外の専門基礎科目と専門展開科目から22単位以上修得する。社会・ビジネス心理コースは、コース必修科目(初級実験演習Ⅱ、現代社会調査入門、推測統計学Ⅰ、推測統計学Ⅱ、現代社会の心理学)10単位、必修以外の専門基礎科目と専門展開科目から28単位以上修得すること。)																			
(4) 学際教育科目 他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。																			
(5) (1)~(4)全体で124単位以上修得する。																			

専門教育科目	関連科目	精神保健福祉援助演習(基礎)	3前			1	1											兼1	
		精神保健福祉援助演習(専門) I	3後			1	1											兼1	
		精神保健福祉援助演習(専門) II	4前			1	1											兼1	
		精神保健福祉援助実習指導	3後			3		1											兼1
		精神保健福祉援助実習 I	3休			2		1											兼1
		精神保健福祉援助実習 II	3休			2		1											兼1
		精神保健福祉援助実習 III	3休			3		1											兼1
		社会福祉特講 II	4通			2													兼1
		小計(37科目)	-																
		専門演習・卒業研究	心理学演習	3通	4			6	7										
卒業研究	4通		4			6	7												
卒業論文	4通			4		6	7												
小計(3科目)	-																		
合計(183科目)		-																	
卒業要件及び履修方法																			
(1) 共通教育科目 必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることができる。																			
(2) 学部共通科目 選択科目の現代社会と子ども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。																			
(3) 専門教育科目 必修22単位、合計84単位以上修得すること。ただし、コースごとに必修と選択必修を定める(心理カウンセリングコースは、コース必修科目(心理テスト演習、質問紙調査法、心理カウンセリング実践(面接技法)、心理テスト論、臨床心理学概論、心理関係法規論、精神医学Ⅰ、心理カウンセリングフィールド研修)16単位、必修以外の専門基礎科目と専門展開科目から22単位以上修得する。社会・ビジネス心理コースは、コース必修科目(心理学実験演習Ⅱ、現代社会調査入門、推測統計学Ⅰ、推測統計学Ⅱ、 社会・集団・家族心理学Ⅰ(社会・集団))10単位、必修以外の専門基礎科目と専門展開科目から28単位以上修得すること。)																			
(4) 学際教育科目 他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。																			
(5) (1)~(4)全体で124単位以上修得する。																			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

【共通教育科目】

- ・開講期変更により、「社会学概論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・開講期変更により、「ジェンダー論」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。

【専門教育科目】

- ・専任教員の充実により、「心理学基礎演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」に変更。
- ・専任教員の充実により、「初級実験演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・専任教員の充実により、「心理テスト演習」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・専任教員の充実により、「心理療法論」の兼任教員等の配置を「兼1」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員の充実により、「心理学演習」の専任教員等の配置を「准教授6」から「准教授7」に変更。
- ・専任教員の充実により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「准教授6」から「准教授7」に変更。
- ・専任教員の充実により、「卒業論文」の専任教員等の配置を「准教授6」から「准教授7」に変更。

【平成30年度】

【共通教育科目】

- ・担当教員の交代の理由により、「暮らしの統計学」の専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。

【専門教育科目】

- ・資格指定科目の科目名指定により、授業科目の名称を「心理統計法Ⅰ」から「心理学統計法Ⅰ」に変更。
 - ・資格指定科目の科目名指定により、授業科目の名称を「心理統計法Ⅱ」から「心理学統計法Ⅱ」に変更。
 - ・専任教員辞任により、「心理学基礎演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
 - ・資格指定科目の科目名指定により、授業科目の名称を「初級実験演習Ⅱ」から「心理学実験演習Ⅱ」に変更及び専任教員等の配置を「准教授1」から「講師1」に変更。
 - ・担当教員の交代の理由により、「行動科学概論」の専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
 - ・資格指定科目の科目名指定により、授業科目の名称を「現代社会の心理学」から「社会・集団・家族心理学Ⅰ（社会・集団）」に変更及び専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
 - ・専任教員辞任により、「対人関係論」の専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
 - ・担当教員の担当授業科目数の見直しの理由により、「消費者行動の心理学」の専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
 - ・資格指定科目の科目名指定により、授業科目の名称を「家族心理学」から「社会・集団・家族心理学Ⅱ（家族）」に変更。
 - ・専任教員辞任により、「社会・ビジネス心理フィールド研修」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」に変更。
 - ・履修上の都合の理由により、「精神医学Ⅰ」の配当年次を「2・3前」から「2前」に変更。
 - ・履修上の都合の理由により、「精神医学Ⅱ」の配当年次を「2・3後」から「2後」に変更。
 - ・履修上の都合の理由により、「心理カウンセリングフィールド研修」の配当年次を「3通」から「2通」に変更及び専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授5」に変更。
 - ・履修上の都合の理由により、授業科目の名称を「ビジネスの基礎」から「ビジネスの基礎Ⅰ」及び配当年次を「4前」から「2前」に変更。
 - ・履修上の都合の理由により、「マーケティング論」の配当年次を「4前」から「3前」に変更。
 - ・資格指定科目の科目名指定により、授業科目の名称を「医学一般」から「人体の構造と機能及び疾病」に変更。
 - ・専任教員辞任により、「心理学演習」の専任教員等の配置を「教授7」から「教授6」に変更。
 - ・専任教員辞任により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「教授7」から「教授6」に変更。
 - ・専任教員辞任により、「卒業論文」の専任教員等の配置を「教授7」から「教授6」に変更。
- 【卒業要件及び履修方法】(3)専門教育科目
- ・科目名称変更の理由により、「初級実験演習Ⅱ」を「心理学実験演習Ⅱ」に、「現代社会の心理学」を「社会・集団家族心理学Ⅰ（社会・集団）」へ、それぞれ変更。

【令和元年度】

【共通教育科目】

- ・教育課程充実の理由により、「英語実践（4技能）Ⅰ」の追加。
- ・教育課程充実の理由により、「英語実践（4技能）Ⅱ」の追加。

【学部共通科目】

- ・履修上の都合により、「情報科学」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。

【専門教育科目】

- ・資格指定科目の科目名指定により、「初級実験演習Ⅰ」から「心理学実験演習Ⅰ」に変更及び専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授1」、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・教員の担当見直しにより、「心理テスト演習」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・担当教員の交代の理由により、「上級実験演習」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」、「講師0」「講師1」に変更。
- ・資格指定科目の科目名指定により、「知覚心理学」「認知心理学」を統合し、「知覚・認知心理学」に変更及び配当年次を「2・3前」から「2・3休」に変更。
- ・教育充実により、「社会・ビジネス心理フィールド研修」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・資格指定科目の科目名指定により、「パーソナリティ心理学」から「感情・人格心理学」に変更及び配当年次を「2・3前」から「2・3後」に変更。
- ・資格指定科目の科目名指定により、「障害児・者の心理学」から「障害者・障害児の心理学」に変更。
- ・資格指定科目の科目名指定により、「臨床心理アセスメント」から「心理的アセスメント」に変更。
- ・資格指定科目の科目名指定により、「精神医学Ⅰ」から「精神疾患とその治療Ⅰ」に変更。
- ・資格指定科目の科目名指定により、「精神医学Ⅱ」から「精神疾患とその治療Ⅱ」に変更。
- ・教育上及び履修上の都合の理由により、「現代ジャーナリズム論」から「現代ジャーナリズム入門」に変更及び配当年次を「1・2・3・4後」から「1・2後」に変更。

【卒業要件及び履修方法】(3)専門教育科目

- ・科目名称変更の理由により、「精神医学」を「精神疾患とその治療Ⅰ」に変更。

- (注) ・ 2 (1) 一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容 (配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など) を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度 (平成 2 9 年度開設であれば平成 2 8 年度) の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
17 科目	158 科目	8 科目	183 科目	17 科目 [0]	159 科目 [1]	8 科目 [0]	184 科目 [1]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	認知心理学	2	3前	専門	選択	公認心理師養成の指定科目名が「知覚・認知心理学」となったため、「認知心理学」を「知覚心理学」に統合し、あわせて科目名称を変更した。
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

平成30年度に公認心理師養成の指定科目として、「知覚・認知心理学」の科目名称が指定されたことに伴う、科目統合と科目名称変更である。「知覚心理学」は「認知心理学」とともに、主に公認心理師を目指す学生に提供する選択科目である。両科目の統合によって、知覚、認知の心理学が同時一体的に学ぶことができる効果もあり、学修面での影響はないと考えている。
学生への周知は、履修規程の変更の通知、学科内での履修指導及びシラバスに記載して周知を図った。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{183} = \boxed{0.54}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校舎敷地と運動場用地 1(300m,徒歩5分) 校舎敷地と運動場用地 2(3.5km,車で15分)			
	校舎敷地	17,206 m ²	0 m ²	0 m ²	17,206 m ²				
	運動場用地	19,625 m ²	0 m ²	0 m ²	19,625 m ²				
	小 計	25,966 m ²	0 m ²	0 m ²	25,966 m ²				
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²				
	合 計	36,831 m ²	0 m ²	0 m ²	36,831 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
		30,169 m ² (30,169 m ²)	12,670 m ² (12,670 m ²)	0 m ² (0 m ²)	30,169 m ² (30,169 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	41 室	6 室	14 室	4 室 (補助職員 2 人)	3 室 (補助職員 2 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			平成29年4月 専任教員1名を新規 採用のため(29)			
	現代人間学部 心理学科		14 13 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体での共用分を含む図書40,000冊 [35,000冊]	
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種	電子ジャーナル					点
	現代人間学部	128,000 [33,330] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	400 (340)	400 (400)	0 (0)		
	計	128,000 [33,330] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	400 (340)	400 (400)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			大学全体	
	3,625 m ²		198		278,111				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	2,004 m ²		トラック 1面 テニスコート 4面 トレーニングルーム 1室						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	「図書購入費」「設備購入費」を最新額に変更(29) 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		教員1人当たり研究費等	300千円	300千円	図書購入費	13,328千円 10,000千円	11,677千円 9,000千円	11,677千円 9,000千円	
		共同研究費等	3,200千円	3,200千円	設備購入費	19,000千円 15,223千円	5,000千円 1,500千円	5,000千円 1,500千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,410千円	1,130千円	1,130千円	1,163千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経営補助金、雑収入、その他							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	京都ノートルダム女子大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
国際言語文化学部	4	130	3年次 5	530	-	0.90	-	昭和36	-	平成31年4月名称変更
英語英文学科	4	80	3年次 5	330	学士 (文学)	0.94	-	昭和36	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	平成29年度定員変更 (△30)
国際日本文化学科	4	50	-	200	学士 (人間文 化)	0.82	-	平成12	同上	平成29年度定員変更 (△10) 平成31年4月名称変更
生活福祉文化学部	4	-	-	-	-	-	-	平成19	-	
生活福祉文化学科	4	-	-	-	学士 (生活福祉 文化)	-	-	平成19	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	平成29年度学生募 集停止
心理学部	4	-	-	-	-	-	-	平成17	-	
心理学科	4	-	-	-	学士 (心理)	-	-	平成17	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	平成29年度学生募 集停止
現代心理専攻	4	-	-	-	学士 (心理)	-	-	平成17	同上	
学校心理専攻	4	-	-	-	学士 (心理)	-	-	平成17	同上	
臨床心理専攻	4	-	-	-	学士 (心理)	-	-	平成17	同上	
現代人間学部	4	240	-	960	-	0.68	-	平成29	-	
福祉生活デザイン学科	4	70	-	280	学士 (福祉生活 デザイン)	0.61	-	平成29	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	
心理学科	4	100	-	400	学士 (心理学)	0.68	-	平成29	同上	
こども教育学科	4	70	-	280	学士 (こども教 育)	0.76	-	平成29	同上	
大学全体	4	370	5	1490	-	0.76	-	-	-	
大学 の 名 称	京都ノートルダム女子大学大学院									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
(修士課程) 人間文化研究科	2	17	-	34	-	0.20	-	平成14	-	
応用英語専攻	2	8	-	16	修士 (応用英 語)	0.00	-	平成14	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	
生活福祉文化専攻	2	6	-	12	修士 (生活福祉 文化)	0.24	-	平成16	同上	
人間文化専攻	2	3	-	6	修士 (人間文 化)	0.16	-	平成17	同上	

(博士前期課程)										
心理学研究科	2	15	-	30	-	0.60	-	平成17	-	
発達・学校心理学専攻	2	5	-	10	修士 (心理)	0.20	-	平成17	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	平成30年度定員変 更(Δ3)
臨床心理学専攻	2	10	-	20	修士 (心理)	1.00	-	平成17	同上	平成30年度定員変 更(3)
大学院(修士・前期)全体	2	32	-	64	-	0.40	-	-	-	
(博士後期課程)										
心理学研究科	3	4	-	12	博士 (心理)	0.08	-	平成17	-	
心理学専攻	3	4	-	12	博士 (心理)	0.08	-	平成17	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	
大学院(後期)全体	3	4	-	12	-	0.08	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<現代人間学部 心理学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】		【平成29年度】		【平成30年度】		【令和元年度】	
専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
専	伊藤 一美 (48) <平成29年4月> 修士(教育学)	専	伊藤 一美 (49) <平成29年4月> 修士(教育学)	専	伊藤 一美 (50) <平成29年4月> 修士(教育学)	専	伊藤 一美 (51) <平成29年4月> 修士(教育学)
	現代社会と高齢者※ 病気の発達と支援※ 心理学基礎演習Ⅰ 高齢者の心理学 心理テスト論 心理カウンセリング フィールド研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		現代社会と高齢者※ 病気の発達と支援※ 心理学基礎演習Ⅰ 高齢者の心理学 心理テスト論 心理カウンセリング フィールド研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		現代社会と高齢者※ 病気の発達と支援※ 心理学基礎演習Ⅰ 高齢者の心理学 心理テスト論		現代社会と高齢者※ 病気の発達と支援※ 心理学基礎演習Ⅰ 高齢者の心理学 心理テスト論
専	上田 恵津子 (58) <平成29年4月> 教育学修士	専	上田 恵津子 (58) <平成29年4月> 教育学修士				
	心理学概論 心理学基礎演習Ⅰ 初級実験演習Ⅰ 学習の心理学 現代社会の心理学 対人関係論 社会・ビジネス心理フィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学概論 心理学基礎演習Ⅰ 初級実験演習Ⅰ 現代社会の心理学 対人関係論 社会・ビジネス心理フィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文				
専	河瀬 雅紀 (37) <平成29年4月> 医学博士	専	河瀬 雅紀 (38) <平成29年4月> 医学博士	専	河瀬 雅紀 (39) <平成29年4月> 医学博士	専	河瀬 雅紀 (40) <平成29年4月> 医学博士
	身近な医学※ 現代社会と病者・障がい者※ 病気の発達と支援※ 心理学基礎演習Ⅱ 神経心理学 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ 心理カウンセリングフィールド 研修 精神保健福祉援助演習(基礎) 精神保健福祉援助演習(専門) Ⅰ 精神保健福祉援助演習(専門) Ⅱ 心理学演習 卒業研究 卒業論文		身近な医学※ 現代社会と病者・障がい者※ 病気の発達と支援※ 心理学基礎演習Ⅱ 神経心理学 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ 心理カウンセリングフィールド 研修 精神保健福祉援助演習(基礎) 精神保健福祉援助演習(専門) Ⅰ 精神保健福祉援助演習(専門) Ⅱ 心理学演習 卒業研究 卒業論文		身近な医学※ 現代社会と病者・障がい者※ 病気の発達と支援※ 心理学基礎演習Ⅱ 神経心理学 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ 心理学演習 卒業研究 卒業論文		身近な医学※ 現代社会と病者・障がい者※ 病気の発達と支援※ 心理学基礎演習Ⅱ 神経心理学 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ 精神保健福祉援助演習(基礎) 精神保健福祉援助演習(専門) Ⅰ 精神保健福祉援助演習(専門) Ⅱ 心理学演習 卒業研究 卒業論文
専	高井 直美 (58) <平成29年4月> 文学修士	専	高井 直美 (58) <平成29年4月> 文学修士	専	高井 直美 (59) <平成29年4月> 文学修士	専	高井 直美 (60) <平成29年4月> 文学修士
	身近な心理学 こどもと自然 現代社会とこども※ 心理統計法Ⅰ 心理統計法Ⅱ 心理学基礎演習Ⅰ 初級実験演習Ⅱ 発達心理学概論 心理学演習 卒業研究 卒業論文		身近な心理学 こどもと自然 現代社会とこども※ 心理統計法Ⅰ 心理統計法Ⅱ 心理学基礎演習Ⅰ 初級実験演習Ⅱ 発達心理学概論 心理学演習 卒業研究 卒業論文		身近な心理学 こどもと自然 現代社会とこども※ 心理統計法Ⅰ 心理統計法Ⅱ 心理学基礎演習Ⅰ 心理学基礎演習Ⅱ 心理学実験演習Ⅱ 発達心理学概論 心理カウンセリングフィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		こどもと自然 現代社会とこども※ 心理統計法Ⅰ 心理統計法Ⅱ 心理学基礎演習Ⅰ 心理学基礎演習Ⅱ 心理学実験演習Ⅱ 発達心理学概論 心理カウンセリングフィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文
専	廣瀬 直哉 (50) <平成29年4月> 修士(教育学)	専	廣瀬 直哉 (50) <平成29年4月> 修士(教育学)	専	廣瀬 直哉 (51) <平成29年4月> 修士(教育学)	専	廣瀬 直哉 (52) <平成29年4月> 修士(教育学)
	暮らしの統計学 心理学基礎演習Ⅰ 行動科学概論 上級実験演習 知覚心理学 生活環境の心理学 消費者行動の心理学 社会・ビジネス心理フィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		暮らしの統計学 心理学基礎演習Ⅰ 行動科学概論 上級実験演習 知覚心理学 生活環境の心理学 消費者行動の心理学 社会・ビジネス心理フィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学概論 心理学基礎演習Ⅰ 上級実験演習 知覚心理学 学習の心理学 生活環境の心理学		心理学概論 心理学基礎演習Ⅰ 上級実験演習 知覚心理学 生活環境の心理学
専	松島 るみ (41) <平成29年4月> 博士(学校教育学)	専	松島 るみ (42) <平成29年4月> 博士(学校教育学)	専	松島 るみ (43) <平成29年4月> 博士(学校教育学)	専	松島 るみ (44) <平成29年4月> 博士(学校教育学)
	心理学基礎演習Ⅱ 初級実験演習Ⅱ 現代社会調査入門 心理学情報処理 教育心理学概論 社会・ビジネス心理フィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅱ 初級実験演習Ⅱ 現代社会調査入門 心理学情報処理 教育心理学概論 社会・ビジネス心理フィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅱ 心理学実験演習Ⅱ 現代社会調査入門 心理学情報処理 教育心理学概論 社会・ビジネス心理フィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		身近な心理学 心理学基礎演習Ⅱ 心理学実験演習Ⅱ 現代社会調査入門 心理学情報処理 教育心理学概論 社会・ビジネス心理フィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文
専	向山 泰代 (54) <平成29年4月> 博士(人間科学)	専	向山 泰代 (54) <平成29年4月> 博士(人間科学)	専	向山 泰代 (55) <平成29年4月> 博士(人間科学)	専	向山 泰代 (56) <平成29年4月> 博士(人間科学)
	現代社会と女性・家族※ 心理学基礎演習Ⅱ 心理学研究法 心理テスト演習 臨床心理学概論 パーソナリティ心理学 心理学演習 卒業研究 卒業論文		現代社会と女性・家族※ 心理学基礎演習Ⅱ 心理学研究法 心理テスト演習 臨床心理学概論 パーソナリティ心理学 心理学演習 卒業研究 卒業論文		現代社会と女性・家族※ 心理学基礎演習Ⅱ 心理学研究法 心理テスト演習 臨床心理学概論 パーソナリティ心理学 心理カウンセリングフィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		現代社会と女性・家族※ 心理学基礎演習Ⅱ 心理学研究法 臨床心理学概論 感情・人格心理学 心理カウンセリングフィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文

		尾崎(湯川)仁美 (45) <平成29年4月> 博士(人間科学)		尾崎(湯川)仁美 (45) <平成29年4月> 博士(人間科学)		尾崎(湯川)仁美 (46) <平成29年4月> 博士(人間科学)		尾崎(湯川)仁美 (47) <平成29年4月> 博士(人間科学)
専	准教授	心理学基礎演習Ⅱ 初級実験演習Ⅰ 推測統計学Ⅰ 推測統計学Ⅱ 質問紙調査法 現代青年の心理学 社会・ビジネス心理フィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文	専	心理学基礎演習Ⅱ 初級実験演習Ⅰ 推測統計学Ⅰ 推測統計学Ⅱ 質問紙調査法 現代青年の心理学 社会・ビジネス心理フィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文	専	心理学基礎演習Ⅱ 初級実験演習Ⅰ 推測統計学Ⅰ 推測統計学Ⅱ 質問紙調査法 現代青年の心理学 社会・ビジネス心理フィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文	専	心理学基礎演習Ⅱ 初級実験演習Ⅰ 推測統計学Ⅰ 推測統計学Ⅱ 質問紙調査法 現代青年の心理学 社会・ビジネス心理フィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文
専	准教授	鹿田 未央 (46) <平成29年4月> 修士(教育学)	専	鹿田 未央 (46) <平成29年4月> 修士(教育学)	専	鹿田 未央 (47) <平成29年4月> 修士(教育学)	専	鹿田 未央 (48) <平成29年4月> 修士(教育学)
		こどもと自然 病児の発達と支援※ 心理学基礎演習Ⅱ 上級実験演習 障害児者の心理学 精神保健福祉援助 実習指導 精神保健福祉援助実習Ⅰ 精神保健福祉援助実習Ⅱ 精神保健福祉援助実習Ⅲ 心理学演習 卒業研究 卒業論文		こどもと自然 病児の発達と支援※ 心理学基礎演習Ⅱ 上級実験演習 障害児者の心理学 精神保健福祉援助 実習指導 精神保健福祉援助実習Ⅰ 精神保健福祉援助実習Ⅱ 精神保健福祉援助実習Ⅲ 心理学演習 卒業研究 卒業論文		こどもと自然 病児の発達と支援※ 心理学基礎演習Ⅱ 上級実験演習 障害児者の心理学 精神保健福祉援助 実習指導 精神保健福祉援助実習Ⅰ 精神保健福祉援助実習Ⅱ 精神保健福祉援助実習Ⅲ 心理学演習 卒業研究 卒業論文		こどもと自然 病児の発達と支援※ 心理学基礎演習Ⅱ 上級実験演習 障害児者の心理学 精神保健福祉援助 実習指導 精神保健福祉援助実習Ⅰ 精神保健福祉援助実習Ⅱ 精神保健福祉援助実習Ⅲ 心理学演習 卒業研究 卒業論文
専	准教授	佐藤 睦子 (55) <平成29年4月> 教育学修士	専	佐藤 睦子 (56) <平成29年4月> 教育学修士	専	佐藤 睦子 (57) <平成29年4月> 教育学修士	専	佐藤 睦子 (58) <平成29年4月> 教育学修士
		心理学基礎演習Ⅱ スクールカウンセリング論 心理カウンセリング実践(ア ートセラピー) 心理カウンセリングフィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅱ スクールカウンセリング論 心理カウンセリング実践(ア ートセラピー) 心理カウンセリングフィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅱ スクールカウンセリング論 心理カウンセリング実践(ア ートセラピー) 心理カウンセリングフィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅱ スクールカウンセリング論 心理カウンセリング実践(ア ートセラピー) 心理カウンセリングフィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文
専	准教授	田中 蒼樹 (54) <平成29年4月> 修士(社会学)	専	田中 蒼樹 (55) <平成29年4月> 修士(社会学)	専	田中 蒼樹 (56) <平成29年4月> 修士(社会学)	専	田中 蒼樹 (57) <平成29年4月> 修士(社会学)
		心理学基礎演習Ⅰ 心理テスト演習 臨床心理アセスメント 無意識の心理学 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅰ 心理テスト演習 臨床心理アセスメント 無意識の心理学 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅰ 心理テスト演習 臨床心理アセスメント 無意識の心理学 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅰ 心理テスト演習 臨床心理アセスメント 無意識の心理学 心理学演習 卒業研究 卒業論文
専	准教授	三好(鶴田)智子 (42) <平成29年4月> 博士(教育学)	専	三好(鶴田)智子 (43) <平成29年4月> 博士(教育学)	専	三好(鶴田)智子 (44) <平成29年4月> 博士(教育学)	専	三好(鶴田)智子 (45) <平成29年4月> 博士(教育学)
		心理学基礎演習Ⅱ 心理カウンセリング実践(面接 技法) 心理カウンセリング概論 心理カウンセリング実践(ア ートセラピー) 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅱ 心理カウンセリング実践(面接 技法) 心理カウンセリング概論 心理カウンセリング実践(ア ートセラピー) 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅱ 心理カウンセリング実践(面接 技法) 心理カウンセリング概論 心理カウンセリング実践(ア ートセラピー) 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅱ 心理カウンセリング実践(面接 技法) 心理カウンセリング概論 心理カウンセリング実践(ア ートセラピー) 心理学演習 卒業研究 卒業論文
専	准教授	空間(福富)美智子 (38) <平成29年4月> 博士(文学)	専	空間(福富)美智子 (39) <平成29年4月> 博士(文学)	専	空間(福富)美智子 (40) <平成29年4月> 博士(文学)	専	空間(福富)美智子 (41) <平成29年4月> 博士(文学)
		心理学基礎演習Ⅰ 心理カウンセリング実践(面接 技法) 認知行動療法概論 心理カウンセリングフィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅰ 心理カウンセリング実践(面接 技法) 認知行動療法概論 心理カウンセリングフィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅰ 心理カウンセリング実践(面接 技法) 認知行動療法概論 心理カウンセリングフィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅰ 心理カウンセリング実践(面接 技法) 認知行動療法概論 心理カウンセリングフィールド 研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文
専	准教授	村松 朋子 (43) <平成29年4月> 博士(小児発達学)	専	村松 朋子 (44) <平成29年4月> 博士(小児発達学)	専	村松 朋子 (45) <平成29年4月> 博士(小児発達学)	専	村松 朋子 (46) <平成29年4月> 博士(小児発達学)
		心理学基礎演習Ⅰ 初級実験演習Ⅰ 心理テスト演習 心理療法論 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅰ 初級実験演習Ⅰ 心理テスト演習 心理療法論 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅰ 初級実験演習Ⅰ 心理テスト演習 心理療法論 心理学演習 卒業研究 卒業論文		心理学基礎演習Ⅰ 初級実験演習Ⅰ 心理テスト演習 心理療法論 心理学演習 卒業研究 卒業論文
専	講師	後藤 伸彦 (33) <平成30年4月> 博士(心理学)	専	後藤 伸彦 (34) <平成30年4月> 博士(心理学)	専	後藤 伸彦 (35) <平成30年4月> 博士(心理学)	専	後藤 伸彦 (36) <平成30年4月> 博士(心理学)
		暮らしの統計学 上級実験演習 心理学実験演習Ⅰ 心理学実験演習Ⅱ 行動科学概論 社会・集団・家族心理学Ⅰ(社 会・集団) 対人関係論 社会・ビジネス心理フィールド 研修 消費者行動の心理学		暮らしの統計学 上級実験演習 心理学実験演習Ⅰ 心理学実験演習Ⅱ 行動科学概論 社会・集団・家族心理学Ⅰ(社 会・集団) 対人関係論 社会・ビジネス心理フィールド 研修 消費者行動の心理学		暮らしの統計学 上級実験演習 心理学実験演習Ⅰ 心理学実験演習Ⅱ 行動科学概論 社会・集団・家族心理学Ⅰ(社 会・集団) 対人関係論 社会・ビジネス心理フィールド 研修 消費者行動の心理学		暮らしの統計学 上級実験演習 心理学実験演習Ⅰ 心理学実験演習Ⅱ 行動科学概論 社会・集団・家族心理学Ⅰ(社 会・集団) 対人関係論 社会・ビジネス心理フィールド 研修 消費者行動の心理学
兼担	教授	岩崎(馬詰)れい (49) <平成29年4月> 修士(教育学)	兼担	岩崎(馬詰)れい (49) <平成29年4月> 修士(教育学)	兼担	岩崎(馬詰)れい (50) <平成29年4月> 修士(教育学)	兼担	岩崎(馬詰)れい (51) <平成29年4月> 修士(教育学)
		子育てとワークライフバランス 病児の発達と支援※		子育てとワークライフバランス 病児の発達と支援※		子育てとワークライフバランス 病児の発達と支援※		子育てとワークライフバランス 病児の発達と支援※
兼担	教授	牛田 好美 (57) <平成30年4月> 博士(社会学)	兼担	牛田 好美 (58) <平成30年4月> 博士(社会学)	兼担	牛田 好美 (59) <平成30年4月> 博士(社会学)	兼担	牛田 好美 (60) <平成30年4月> 博士(社会学)
		こどもと子育ての生活環境学※ 服飾心理学 衣生活情報論		こどもと子育ての生活環境学※ 服飾心理学 衣生活情報論		こどもと子育ての生活環境学※ 服飾心理学 衣生活情報論		こどもと子育ての生活環境学※ 服飾心理学 衣生活情報論

兼任	教授	加藤 佐千子 (59) <平成29年4月> 博士(老年学) 現代社会と高齢者※	兼任	教授	加藤 佐千子 (59) <平成29年4月> 博士(老年学) 現代社会と高齢者※	兼任	教授	加藤 佐千子 (60) <平成29年4月> 博士(老年学) 現代社会と高齢者※	兼任	教授	加藤 佐千子 (61) <平成29年4月> 博士(老年学) 現代社会と高齢者※
兼任	教授	小西 加保留 (65) <平成30年10月> 博士(社会福祉学) 保健医療サービス	兼任	教授	小西 加保留 (67) <平成30年10月> 博士(社会福祉学) 保健医療サービス	兼任	教授	小西 加保留 (68) <平成30年10月> 博士(社会福祉学) 保健医療サービス	兼任	教授	小西 加保留 (69) <平成30年10月> 博士(社会福祉学) 保健医療サービス
兼任	教授	工藤 哲夫 (59) <平成29年4月> 教育学修士 現代社会とこども※	兼任	教授	工藤 哲夫 (59) <平成29年4月> 教育学修士 現代社会とこども※						
兼任	教授	朱(佐藤) 鳳 (54) <平成29年4月> 博士(人間・環境学) 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 海外研修(語学)Ⅰ	兼任	教授	朱(佐藤) 鳳 (54) <平成29年4月> 博士(人間・環境学) 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 海外研修(語学)Ⅰ	兼任	教授	渡邊 香美 (67) <平成30年4月> 博士(教育学) 現代社会とこども※ 朱(佐藤) 鳳 (55) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)	兼任	教授	渡邊 香美 (68) <平成30年4月> 博士(教育学) 現代社会とこども※ 朱(佐藤) 鳳 (56) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)
兼任	教授	須川 いずみ (61) <平成29年4月> 文学修士 海外研修(語学)Ⅱa 海外研修(語学)Ⅱb	兼任	教授	須川 いずみ (62) <平成29年4月> 文学修士 海外研修(語学)Ⅱa 海外研修(語学)Ⅱb						
兼任	教授	鷺見 朗子 (53) <平成29年10月> Ph.D. in literature(米国) 外国文学 アラビア語	兼任	教授	鷺見 朗子 (54) <平成29年10月> Ph.D. in literature(米国) 外国文学 アラビア語	兼任	教授	鷺見 朗子 (55) <平成29年10月> Ph.D. in literature(米国) 外国文学 アラビア語	兼任	教授	鷺見 朗子 (56) <平成29年10月> Ph.D. in literature(米国) 外国文学 アラビア語
兼任	教授	竹原 広実 (52) <平成30年4月> 博士(学術) こどもと子育ての生活環境学※ 福祉住環境デザイン	兼任	教授	竹原 広実 (52) <平成30年4月> 博士(学術) こどもと子育ての生活環境学※ 福祉住環境デザイン	兼任	教授	竹原 広実 (54) <平成30年4月> 博士(学術) こどもと子育ての生活環境学※ 福祉住環境デザイン	兼任	教授	竹原 広実 (55) <平成30年4月> 博士(学術) こどもと子育ての生活環境学※ 福祉住環境デザイン
兼任	教授	中村 久美 (57) <平成30年4月> 博士(学術) こどもと子育ての生活環境学※	兼任	教授	中村 久美 (58) <平成30年4月> 博士(学術) こどもと子育ての生活環境学※	兼任	教授	中村 久美 (59) <平成30年4月> 博士(学術) こどもと子育ての生活環境学※	兼任	教授	中村 久美 (60) <平成30年4月> 博士(学術) こどもと子育ての生活環境学※
兼任	教授	萩原 暢子 (62) <平成29年4月> 医学博士 身近な医学※ 病児の発達と支援※ 医学一般	兼任	教授	萩原 暢子 (63) <平成29年4月> 医学博士 身近な医学※ 病児の発達と支援※ 医学一般	兼任	教授	萩原 暢子 (64) <平成29年4月> 医学博士 身近な医学※ 病児の発達と支援※	兼任	教授	萩原 暢子 (65) <平成29年4月> 医学博士 身近な医学※ 病児の発達と支援※
兼任	教授	藤原 智子 (54) <平成29年4月> 博士(学術) こどもと子育ての生活環境学※ 海外研修(生活と社会)	兼任	教授	藤原 智子 (55) <平成29年4月> 博士(学術) こどもと子育ての生活環境学※ 海外研修(生活と社会)	兼任	教授	藤原 智子 (56) <平成29年4月> 博士(学術) こどもと子育ての生活環境学※ 海外研修(生活と社会)	兼任	教授	藤原 智子 (57) <平成29年4月> 博士(学術) こどもと子育ての生活環境学※ 海外研修(生活と社会)
兼任	教授	三好 明夫 (53) <平成29年4月> 博士(社会福祉学) 現代社会と病者・障がい者※	兼任	教授	三好 明夫 (53) <平成29年4月> 博士(社会福祉学) 現代社会と病者・障がい者※	兼任	教授	三好 明夫 (60) <平成29年4月> 博士(社会福祉学) 現代社会と病者・障がい者※	兼任	教授	三好 明夫 (61) <平成29年4月> 博士(社会福祉学) 現代社会と病者・障がい者※
兼任	教授	吉田 智子 (54) <平成29年4月> 修士(社会学) 情報科学入門 情報演習Ⅰ 情報演習Ⅱ 情報処理	兼任	教授	吉田 智子 (55) <平成29年4月> 修士(社会学) 情報科学入門 情報演習Ⅰ 情報演習Ⅱ 情報処理	兼任	教授	吉田 智子 (56) <平成29年4月> 修士(社会学) 情報科学入門 情報演習Ⅰ 情報演習Ⅱ 情報処理 キャリア形成ゼミ 海外インターンシップ ノートルダム学	兼任	教授	吉田 智子 (57) <平成29年4月> 修士(社会学) 情報科学入門 情報演習Ⅰ 情報演習Ⅱ 情報処理 キャリア形成ゼミ 海外インターンシップ ノートルダム学
			兼任	教授	重田 保夫 (68) <平成29年4月> 博士(社会福祉学) 現代社会と福祉Ⅰ 現代社会と福祉Ⅱ	兼任	教授	重田 保夫 (69) <平成29年4月> 博士(社会福祉学) 現代社会と福祉Ⅰ 現代社会と福祉Ⅱ	兼任	教授	重田 保夫 (70) <平成29年4月> 博士(社会福祉学) 現代社会と福祉Ⅰ 現代社会と福祉Ⅱ
						兼任	教授	柴田 周二 (69) <平成30年4月> 博士(経済学) 社会保険論Ⅰ 社会保険論Ⅱ 公的扶助論 福祉行財政と福祉計画※	兼任	教授	柴田 周二 (70) <平成30年4月> 博士(経済学) 社会保険論Ⅰ 社会保険論Ⅱ 公的扶助論 福祉行財政と福祉計画※
兼任	准教授	石井 浩子 (46) <平成29年4月> 修士(教育学) 病児の発達と支援※	兼任	准教授	石井 浩子 (47) <平成29年4月> 修士(教育学) 病児の発達と支援※	兼任	准教授	石井 浩子 (48) <平成29年4月> 修士(教育学) 病児の発達と支援※	兼任	教授	石井 浩子 (49) <平成29年4月> 修士(教育学) 病児の発達と支援※
兼任	准教授	植田 恵理子 (55) <平成29年4月> 修士(児童教育学) 病児の発達と支援※	兼任	准教授	植田 恵理子 (56) <平成29年4月> 修士(児童教育学) 病児の発達と支援※	兼任	准教授	植田 恵理子 (57) <平成29年4月> 修士(児童教育学) 病児の発達と支援※	兼任	准教授	植田 恵理子 (58) <平成29年4月> 修士(児童教育学) 病児の発達と支援※
兼任	准教授	江川 正一 (61) <平成29年4月> 教育学士 現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※	兼任	准教授	江川 正一 (62) <平成29年4月> 教育学士 現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※	兼任	准教授	江川 正一 (63) <平成29年4月> 教育学士 現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※	兼任	准教授	江川 正一 (64) <平成29年4月> 教育学士 現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※

兼任 講師	青木(高柴)加奈子 (38) <平成29年4月> 博士(学術)	兼任 講師	青木(高柴)加奈子 (39) <平成29年4月> 博士(学術)	兼任 講師	青木(高柴)加奈子 (40) <平成29年4月> 博士(学術)	兼任 講師	青木(高柴)加奈子 (41) <平成29年4月> 博士(学術)
	女性とライフキャリア 現代社会と女性・家族※		女性とライフキャリア 現代社会と女性・家族※		女性とライフキャリア 現代社会と女性・家族※		女性とライフキャリア 現代社会と女性・家族※
兼任 講師	中里 郁子 (52) <平成29年4月> Doctorate of Sacred Theology (パチカン)	兼任 講師	中里 郁子 (52) <平成29年4月> Doctorate of Sacred Theology (パチカン)	兼任 准教授	中里 郁子 (53) <平成29年4月> Doctorate of Sacred Theology (パチカン)	兼任 准教授	中里 郁子 (54) <平成29年4月> Doctorate of Sacred Theology (パチカン)
	キリスト教入門 聖書と文化		キリスト教入門 聖書と文化		キリスト教入門 聖書と文化		キリスト教入門 聖書と文化
兼任 講師	矢島 雅子 (38) <平成30年10月> 修士(文学)	兼任 講師	矢島 雅子 (39) <平成30年10月> 修士(文学)	兼任 講師	矢島 雅子 (40) <平成30年10月> 修士(文学)	兼任 講師	矢島 雅子 (41) <平成30年10月> 修士(文学)
	障害者福祉論		障害者福祉論		障害者福祉論		障害者福祉論
兼任 講師	York Weatherford (49) <平成30年4月> M. A. (TESOL) (米国)	兼任 講師	York Weatherford (50) <平成30年4月> M. A. (TESOL) (米国)	兼任 講師	York Weatherford (51) <平成30年4月> M. A. (TESOL) (米国)	兼任 准教授	York Weatherford (52) <平成31年4月> M. A. (TESOL) (米国)
	読むための英語 アカデミック英語		読むための英語 アカデミック英語		読むための英語 アカデミック英語		読むための英語 アカデミック英語
兼任 助教	住本 純 (33) <平成30年4月> 修士(体育学)	兼任 助教	住本 純 (34) <平成30年4月> 修士(体育学)	兼任 講師	住本 純 (35) <平成30年4月> 修士(体育学)	兼任 講師	住本 純 (36) <平成30年4月> 修士(体育学)
	体育講義 健康スポーツ演習		体育講義 健康スポーツ演習		体育講義 健康スポーツ演習		体育講義 健康スポーツ演習
兼任 講師	青木 三陽 (40) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)	兼任 講師	青木 三陽 (41) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)	兼任 講師	青木 三陽 (42) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)	兼任 講師	青木 三陽 (43) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)
	ドイツ語		ドイツ語		ドイツ語		ドイツ語
兼任 講師	石川 真美 (56) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)	兼任 講師	石川 真美 (57) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)	兼任 講師	石川 真美 (58) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)	兼任 講師	石川 真美 (59) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)
	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ
兼任 講師	石田 正浩 (54) <令和元年10月> 修士(心理学)	兼任 講師	石田 正浩 (55) <令和元年10月> 修士(心理学)	兼任 講師	石田 正浩 (56) <令和元年10月> 修士(心理学)	兼任 講師	石田 正浩 (57) <令和元年10月> 修士(心理学)
	産業心理学		産業心理学		産業心理学		産業心理学
兼任 講師	伊藤 薫 (29) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	兼任 講師	伊藤 薫 (29) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	兼任 講師	伊藤 薫 (29) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)		
	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		
兼任 講師	伊藤 泰子 (51) <平成30年4月> 文学士	兼任 講師	伊藤 泰子 (51) <平成30年4月> 文学士	兼任 講師	伊藤 泰子 (52) <平成30年4月> 文学士	兼任 講師	伊藤 泰子 (53) <平成30年4月> 文学士
	情報処理		情報処理		情報処理		情報処理
兼任 講師	稲垣 顕子 (63) <平成29年4月> 修士(言語文化学)	兼任 講師	稲垣 顕子 (63) <平成29年4月> 修士(言語文化学)	兼任 講師	稲垣 顕子 (64) <平成29年4月> 修士(言語文化学)	兼任 講師	稲垣 顕子 (65) <平成29年4月> 修士(言語文化学)
	日本語講義Ⅰ 日本語講義Ⅱ		日本語講義Ⅰ 日本語講義Ⅱ		日本語講義Ⅰ 日本語講義Ⅱ		日本語講義Ⅰ 日本語講義Ⅱ
兼任 講師	伊村 大樹 (42) <平成29年4月> 修士(文学)	兼任 講師	伊村 大樹 (42) <平成29年4月> 修士(文学)	兼任 講師	伊村 大樹 (43) <平成29年4月> 修士(文学)	兼任 講師	伊村 大樹 (44) <平成29年4月> 修士(文学)
	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ 実用英語基礎 身近な英文法		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ 実用英語基礎 身近な英文法
兼任 講師	岩田 真理子 (62) <平成29年4月> 高校卒	兼任 講師	岩田 真理子 (62) <平成29年4月> 高校卒	兼任 講師	岩田 真理子 (63) <平成29年4月> 高校卒	兼任 講師	岩田 真理子 (64) <平成29年4月> 高校卒
	ホスピタリティ入門		ホスピタリティ入門		ホスピタリティ入門		ホスピタリティ入門
兼任 講師	翁 和美 (47) <平成29年10月> 博士(文学)	兼任 講師	翁 和美 (47) <平成29年4月> 博士(文学)	兼任 講師	翁 和美 (48) <平成29年4月> 博士(文学)	兼任 講師	翁 和美 (49) <平成29年4月> 博士(文学)
	社会学概論		社会学概論		社会学概論		社会学概論
兼任 講師	王 嵐 (60) <平成29年4月> 文学修士	兼任 講師	王 嵐 (61) <平成29年4月> 文学修士	兼任 講師	王 嵐 (62) <平成29年4月> 文学修士	兼任 講師	王 嵐 (63) <平成29年4月> 文学修士
	中国語Ⅰ		中国語Ⅰ		中国語Ⅰ		中国語Ⅰ
兼任 講師	大畑 好司 (65) <平成31年4月> 法学士	兼任 講師	大畑 好司 (66) <平成31年4月> 法学士	兼任 講師	大畑 好司 (67) <平成29年4月> 法学士	兼任 講師	大畑 好司 (68) <平成31年4月> 法学士
	心理関係法規論		心理関係法規論		心理関係法規論		心理関係法規論
兼任 講師	萩原 靖史 (57) <平成29年4月> 法学士	兼任 講師	萩原 靖史 (58) <平成29年4月> 法学士	兼任 講師	萩原 靖史 (59) <平成29年4月> 法学士	兼任 講師	萩原 靖史 (60) <平成29年4月> 法学士
	現代ジャーナリズム論		現代ジャーナリズム論		現代ジャーナリズム論		現代ジャーナリズム入門
兼任 講師	小都 晶子 (41) <平成29年4月> 博士(学術)	兼任 講師	小都 晶子 (41) <平成29年4月> 博士(学術)			兼任 講師	祖岸 智代 (56) <平成30年4月> 博士(学術)
	東アジア近現代史		東アジア近現代史		兼任 講師	兼任 講師	祖岸 智代 (56) <平成30年4月> 博士(学術)
							東アジア近現代史
兼任 講師	郭 南燕 (53) <平成30年10月> 博士(学術)	兼任 講師	郭 南燕 (54) <平成30年10月> 博士(学術)	兼任 講師	郭 南燕 (55) <平成30年10月> 博士(学術)	兼任 講師	郭 南燕 (56) <平成30年10月> 博士(学術)
	キリスト教と日本文化※		キリスト教と日本文化※		キリスト教と日本文化※		キリスト教と日本文化※

兼任 講師	梶山(十河)玉香 (50) <平成29年4月> 法学修士	兼任 講師	梶山(十河)玉香 (51) <平成29年4月> 法学修士	兼任 講師	梶山(十河)玉香 (52) <平成29年4月> 法学修士	兼任 講師	梶山(十河)玉香 (53) <平成29年4月> 法学修士
	暮らしの法律学		暮らしの法律学		暮らしの法律学		暮らしの法律学
兼任 講師	片山 裕 (67) <平成29年4月> 法学修士	兼任 講師	片山 裕 (67) <平成29年4月> 法学修士	兼任 講師	片山 裕 (68) <平成29年4月> 法学修士		
	国際関係論入門 ノートルダム学 海外インターンシップ		国際関係論入門 ノートルダム学 海外インターンシップ		国際関係論入門		
兼任 講師	金 美仙 (52) <平成29年4月> 修士(言語学)	兼任 講師	金 美仙 (52) <平成29年4月> 修士(言語学)	兼任 講師	金 美仙 (53) <平成29年4月> 修士(言語学)		
	コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語Ⅲ		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語Ⅲ		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語Ⅲ		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語Ⅲ
兼任 講師	工藤 春代 (41) <平成30年10月> 博士(農学)	兼任 講師	工藤 春代 (41) <平成30年10月> 博士(農学)				
	消費者教育 食品流通論		消費者教育 食品流通論				
兼任 講師	久保 圭 (32) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	兼任 講師	久保 圭 (33) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	兼任 講師	久保 圭 (34) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)		
	文章表現法		文章表現法		文章表現法		
兼任 講師	黒田 一平 (29) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	兼任 講師	黒田 一平 (29) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	兼任 講師	黒田 一平 (30) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)		
	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ 英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ 英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ 英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ
兼任 講師	小島 秀信 (38) <平成29年10月> 博士(経済学)	兼任 講師	小島 秀信 (39) <平成29年10月> 博士(経済学)				
	暮らしの経済学		暮らしの経済学				
兼任 講師	柴 礼敏 (62) <平成29年4月> 修士(文学)	兼任 講師	柴 礼敏 (62) <平成29年4月> 修士(文学)	兼任 講師	柴 礼敏 (63) <平成29年4月> 修士(文学)		
	中国語Ⅰ		中国語Ⅰ		中国語Ⅰ		中国語Ⅰ
		兼任 講師	陶 盈 (37) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	兼任 講師	陶 盈 (38) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)		
			中国語Ⅰ		中国語Ⅰ		中国語Ⅰ
兼任 講師	坂本 俊一郎 (45) <平成29年10月> 修士(文学)			兼任 講師	森本 慶太 (36) <平成29年10月> 博士(文学)		
	ヨーロッパ近現代史				ヨーロッパ近現代史		
兼任 講師	笹岡 隆甫 (41) <平成30年4月> 博士(工学)	兼任 講師	笹岡 隆甫 (42) <平成30年4月> 博士(工学)	兼任 講師	笹岡 隆甫 (43) <平成30年4月> 博士(工学)		
	ホスピタリティ京都		ホスピタリティ京都		ホスピタリティ京都		
兼任 講師	須藤 英幸 (49) <平成30年4月> 博士(文学)	兼任 講師	須藤 英幸 (50) <平成30年4月> 博士(文学)	兼任 講師	須藤 英幸 (51) <平成30年4月> 博士(文学)		
	キリスト教思想		キリスト教思想		キリスト教思想		
兼任 講師	高岸 雅子 (58) <平成29年4月> 修士(アメリカ研究)	兼任 講師	高岸 雅子 (59) <平成29年4月> 修士(アメリカ研究)	兼任 講師	高岸 雅子 (60) <平成29年4月> 修士(アメリカ研究)		
	日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ		日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ		日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ		日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ
兼任 講師	橋 健一 (51) <平成29年10月> 博士(学術)	兼任 講師	橋 健一 (52) <平成29年10月> 博士(学術)	兼任 講師	橋 健一 (53) <平成29年10月> 博士(学術)		
	文化人類学		文化人類学		文化人類学		文化人類学
						兼任 講師	北澤 謙之 (83) <平成31年4月> 国際学修士 国際関係論入門
						兼任 講師	鬼頭 弥生 (36) <平成30年10月> 博士(農学) 消費者教育 食品流通論
						兼任 講師	田丸 歩実 (28) <平成31年4月> 修士(人間・環境学) 文章表現法
						兼任 講師	黒田 一平 (31) <平成29年4月> 修士(人間・環境学) 英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ 英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ
						兼任 講師	百木 漢 (36) <平成30年10月> 博士(人間・環境学) 暮らしの経済学
						兼任 講師	柴 礼敏 (64) <平成29年4月> 修士(文学) 中国語Ⅰ
						兼任 講師	陶 盈 (39) <平成29年4月> 修士(人間・環境学) 中国語Ⅰ
						兼任 講師	上山 益己 (48) <平成30年10月> 修士(文学) ヨーロッパ近現代史

兼任 講師	中村 央希 (32) <平成29年4月> 修士 (応用英語)	兼任 講師	岡崎 央希 (33) <平成29年4月> 修士 (応用英語)	兼任 講師	岡崎 央希 (34) <平成29年4月> 修士 (応用英語)	兼任 講師	岡崎 央希 (35) <平成29年4月> 修士 (応用英語)
	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ
兼任 講師	中村 千珠 (39) <平成29年10月> 修士 (心理学)	兼任 講師	中村 千珠 (39) <平成29年10月> 修士 (心理学)	兼任 講師	中村 千珠 (40) <平成29年10月> 修士 (心理学)	兼任 講師	中村 千珠 (41) <平成29年10月> 修士 (心理学)
	初級実験演習Ⅰ 初級実験演習Ⅱ 心理学英文講読 (基礎) 心理学英文講読 (応用)		初級実験演習Ⅰ 初級実験演習Ⅱ 心理学英文講読 (基礎) 心理学英文講読 (応用)		初級実験演習Ⅰ 心理学実験演習Ⅱ 心理学英文講読 (基礎) 心理学英文講読 (応用)		初級実験演習Ⅰ 心理学実験演習Ⅱ 心理学英文講読 (基礎) 心理学英文講読 (応用)
兼任 講師	中村 亮太 (34) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)	兼任 講師	中村 亮太 (35) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)	兼任 講師	中村 亮太 (36) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)	兼任 講師	中村 亮太 (37) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)
	情報処理		情報処理		情報処理		情報処理
兼任 講師	新村 佳史 (56) <令和2年4月> 教育学士	兼任 講師	新村 佳史 (56) <令和2年4月> 教育学士	兼任 講師	新村 佳史 (57) <令和2年4月> 教育学士	兼任 講師	新村 佳史 (58) <令和2年4月> 教育学士
	ビジネスの基礎Ⅰ マーケティング論		ビジネスの基礎Ⅰ マーケティング論		ビジネスの基礎Ⅰ マーケティング論		ビジネスの基礎Ⅰ マーケティング論
兼任 講師	沼野 尚美 (59) <平成29年4月> M.A. in psychology (米國)						
	ボランティア概論						
		兼任 講師	志藤 修史 (53) <平成29年4月> 文学修士	兼任 講師	志藤 修史 (54) <平成29年4月> 文学修士	兼任 講師	志藤 修史 (55) <平成29年4月> 文学修士
			ボランティア概論		ボランティア概論		ボランティア概論
兼任 講師	野村 照夫 (58) <平成29年4月> 博士 (学術)	兼任 講師	野村 照夫 (59) <平成29年4月> 博士 (学術)	兼任 講師	野村 照夫 (60) <平成29年4月> 博士 (学術)	兼任 講師	野村 照夫 (61) <平成29年4月> 博士 (学術)
	健康スポーツ演習		健康スポーツ演習		健康スポーツ演習 体育実技		健康スポーツ演習 体育実技
兼任 講師	野村 晴美 (57) <平成29年4月> 体育学士	兼任 講師	野村 晴美 (58) <平成29年4月> 体育学士	兼任 講師	野村 晴美 (59) <平成29年4月> 体育学士	兼任 講師	野村 晴美 (60) <平成29年4月> 体育学士
	健康スポーツ演習 体育実技		健康スポーツ演習 体育実技		健康スポーツ演習 体育実技		健康スポーツ演習 体育実技
兼任 講師	橋本 史人 (44) <平成31年4月> 修士 (人間科学)	兼任 講師	橋本 史人 (45) <平成31年4月> 修士 (人間科学)	兼任 講師	橋本 史人 (46) <平成31年4月> 修士 (人間科学)	兼任 講師	橋本 史人 (46) <平成31年4月> 修士 (人間科学)
	精神科リハビリテーション学Ⅰ 精神科リハビリテーション学Ⅱ		精神科リハビリテーション学Ⅰ 精神科リハビリテーション学Ⅱ		精神科リハビリテーション学Ⅰ 精神科リハビリテーション学Ⅱ		精神科リハビリテーション学Ⅰ 精神科リハビリテーション学Ⅱ
						兼任 講師	勇川 昌史 (37) <平成31年4月> 修士 (福祉社会学)
							精神科リハビリテーション学Ⅰ
兼任 講師	日比 伊奈穂 (43) <平成30年10月> 修士 (言語文化学)	兼任 講師	日比 伊奈穂 (44) <平成30年10月> 修士 (言語文化学)	兼任 講師	日比 伊奈穂 (45) <平成30年10月> 修士 (言語文化学)	兼任 講師	日比 伊奈穂 (46) <平成30年10月> 修士 (言語文化学)
	日本語特講Ⅱ		日本語特講Ⅱ		日本語特講Ⅱ		日本語特講Ⅱ
兼任 講師	福山 幸子 (48) <平成30年4月> 修士 (社会学)	兼任 講師	福山 幸子 (49) <平成30年4月> 修士 (社会学)	兼任 講師	福山 幸子 (50) <平成30年4月> 修士 (社会学)	兼任 講師	福山 幸子 (51) <平成30年4月> 修士 (社会学)
	心理テスト演習 心理カウンセリング実践 (面接 技法) 家族心理学 心理カウンセリング実践 (ア ートセラピー)		心理テスト演習 心理カウンセリング実践 (面接 技法) 家族心理学 心理カウンセリング実践 (ア ートセラピー)		心理テスト演習 心理カウンセリング実践 (面接 技法) 社会・集団・家族心理学Ⅱ (家 族) 心理カウンセリング実践 (ア ートセラピー)		心理テスト演習 心理カウンセリング実践 (面接 技法) 社会・集団・家族心理学Ⅱ (家 族) 心理カウンセリング実践 (ア ートセラピー)
兼任 講師	藤川 洋子 (65) <令和元年10月> 文学士	兼任 講師	藤川 洋子 (66) <令和元年10月> 文学士	兼任 講師	藤川 洋子 (67) <令和元年10月> 文学士	兼任 講師	藤川 洋子 (68) <令和元年10月> 文学士
	犯罪心理学		犯罪心理学		犯罪心理学		犯罪心理学
兼任 講師	藤田 朋子 (55) <平成29年4月> 修士 (人間科学)	兼任 講師	藤田 朋子 (55) <平成29年10月> 修士 (人間科学)	兼任 講師	藤田 朋子 (56) <平成29年10月> 修士 (人間科学)	兼任 講師	藤田 朋子 (57) <平成29年10月> 修士 (人間科学)
	ジェンダー論		ジェンダー論		ジェンダー論		ジェンダー論
兼任 講師	藤本 幸治 (47) <平成29年4月> 修士 (文学)	兼任 講師	藤本 幸治 (47) <平成29年4月> 修士 (文学)	兼任 講師	藤本 幸治 (48) <平成29年4月> 修士 (文学)	兼任 講師	藤本 幸治 (49) <平成29年4月> 修士 (文学)
	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ
兼任 講師	松井 吉康 (54) <平成29年10月> 文学修士	兼任 講師	松井 吉康 (55) <平成29年10月> 文学修士	兼任 講師	松井 吉康 (56) <平成29年10月> 文学修士	兼任 講師	松井 吉康 (57) <平成29年10月> 文学修士
	生命倫理		生命倫理		生命倫理		生命倫理
兼任 講師	松本 ドロタ (44) <平成29年4月> 修士 (応用英語)						
	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ						
		兼任 講師	森 ユキエ (67) <平成29年4月> 修士 (英文学)	兼任 講師	森 ユキエ (68) <平成29年4月> 修士 (英文学)	兼任 講師	森 ユキエ (69) <平成29年4月> 修士 (英文学)
			英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ
兼任 講師	村上 裕美 (55) <平成29年4月> 文学修士	兼任 講師	村上 裕美 (56) <平成29年4月> 文学修士	兼任 講師	村上 裕美 (57) <平成29年4月> 文学修士	兼任 講師	村上 裕美 (58) <平成29年4月> 文学修士
	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ

兼任	講師	森下 正修 (43) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	森下 正修 (43) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	森下 正修 (44) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	森下 正修 (45) <平成31年4月> 修士(文学)					
		認知心理学			認知心理学			認知心理学			知覚・認知心理学					
兼任	講師	横山(須賀)真紀 (41) <平成29年10月> 博士(法学)	兼任	講師	横山(須賀)真紀 (42) <平成29年10月> 博士(法学)	兼任	講師	横山(須賀)真紀 (43) <平成29年10月> 博士(法学)								
		憲法と人権			憲法と人権			憲法と人権								
									兼任	講師	宮村 教平 (31) <令和元年10月> 博士(法学)					
											憲法と人権					
兼任	講師	吉村(竹内)恵 (60) <平成29年10月> 社会学修士	兼任	講師	吉村(竹内)恵 (61) <平成29年10月> 社会学修士	兼任	講師	吉村(竹内)恵 (62) <平成29年10月> 社会学修士	兼任	講師	吉村(竹内)恵 (63) <平成29年10月> 社会学修士					
		女性起業論			女性起業論			女性起業論			女性起業論					
兼任	講師	Eric Hail (45) <平成30年4月> M.A. in German literature (米国)	兼任	講師	Eric Hail (46) <平成30年4月> M.A. in German literature (米国)	兼任	講師	Eric Hail (47) <平成30年4月> M.A. in German literature (米国)	兼任	講師	Eric Hail (48) <平成30年4月> M.A. in German literature (米国)					
		日常の英会話 旅行の英会話 やさしいビジネス英会話			日常の英会話 旅行の英会話 やさしいビジネス英会話			日常の英会話 旅行の英会話 やさしいビジネス英会話			日常の英会話 旅行の英会話 やさしいビジネス英会話					
兼任	講師	Jacoba Akazawa (61) <平成30年4月> M.Ed- TESOL(オーストラリア)	兼任	講師	Jacoba Akazawa (62) <平成30年4月> M.Ed- TESOL(オーストラリア)											
		日常の英会話 旅行の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話			日常の英会話 旅行の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話											
								兼任	講師	Jacques Wilburn Hardy (45) <平成30年4月> 修士(人間・環境学)	兼任	講師	Jacques Wilburn Hardy (46) <平成30年4月> 修士(人間・環境学)			
										日常の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話			日常の英会話			
										英語基礎 I 英語基礎 II			英語基礎 I 英語基礎 II			
兼任	講師	Jodie Campbell (47) <平成30年4月> M.Ed. (TESL) (カナダ)	兼任	講師	Jodie Campbell (47) <平成30年4月> M.Ed. (TESL) (カナダ)	兼任	講師	Jodie Campbell (48) <平成30年4月> M.Ed. (TESL) (カナダ)								
		日常の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話 歌って覚える英語表現			日常の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話 歌って覚える英語表現			英語基礎 I 英語基礎 II								
													兼任	講師	Thomas Nishikawa (49) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (TESOL) (オーストラリア)	
															英語基礎 I 英語基礎 II 留学の英会話 おもてなしの英会話	
								兼任	講師	Katy Simpson (34) <平成30年4月> MA English Language (英国)	兼任	講師	Katy Simpson (34) <平成30年4月> MA English Language (英国)			
										日常の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話 やさしいビジネス英会話 歌って覚える英語表現			日常の英会話 旅行の英会話 おもてなしの英会話			英語基礎 I 英語基礎 II
兼任	講師	John Breen (61) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国)	兼任	講師	John Breen (61) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国)	兼任	講師	John Breen (62) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国)	兼任	講師	John Breen (63) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国)					
		キリスト教と日本文化※			キリスト教と日本文化※			キリスト教と日本文化※			キリスト教と日本文化※					
													兼任	講師	Rebecca Paterson (63) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国)	
															英語基礎 I 英語基礎 II 英語総合 I 英語総合 II	
兼任	講師	VALVERDE IBANEZ Maria del Pilar (36) <平成29年4月> Ph. D. in spanish linguistics (スペイン)														
		スペイン語														
			兼任	講師	安藤 幸治 (43) <平成29年4月> 博士(言語文化)											
					スペイン語											
								兼任	講師	平山 幸乃 (29) <平成30年4月> 博士(言語文化)	兼任	講師	平山 幸乃 (30) <平成30年4月> 博士(言語文化)			
										スペイン語			スペイン語			

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。

その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**

・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。

・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。

・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実))、兼担、兼任の順に記入してください。

・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・平成29年4月 村松朋子 准教授の就任。平成29年1月教員審査済
- ・室田保夫 兼任教授の補充。
- ・伊藤 薫 兼任講師の辞退により、黒田一平 兼任講師の補充。
- ・科目開講期の変更により、翁 和美 兼任講師の就任時期の変更。
- ・教育体制充実のため、陶 盈 兼任講師の補充
- ・坂本優一郎 兼任講師の辞退により、森本慶太 兼任講師の補充。
- ・教育体制充実のため、真田雅子 兼任講師の追加補充。
- ・田中美和子 兼任講師の科目辞退により、葛田和美 兼任講師の補充。
- ・中村央希 兼任講師の改姓により、岡崎央希 兼任講師に変更。
- ・沼野尚美 兼任講師の辞退により、志藤修史 兼任講師の補充。
- ・科目開講期の変更により、藤田朋子 兼任講師の就任時期の変更。
- ・松本ドロタ 兼任講師の辞退により、森ユキエ 兼任講師の補充。
- ・VALVERDE IBANEZ Maria Pilar 兼任講師の辞退により、安藤幸治 兼任講師の補充。

【平成30年度】

- ・平成30年3月 上田恵津子 教授の辞任。
- ・平成30年4月 後藤伸彦 講師の就任。平成30年1月教員資格審査済。
- ・工藤哲夫 兼任教授の辞任により、渡邊春美 兼任教授に変更。
- ・須川いずみ 兼任教授の辞退により、東郷多津 兼任准教授、York Weatherford 兼任講師に変更。
- ・萩原暢子 兼任教授の辞退により、寺谷愉利子 兼任講師に変更。
- ・柴田周二 兼任教授の補充。
- ・長沼光彦 兼任准教授の職名が、平成30年4月准教授から教授に変更。
- ・神月紀輔 兼任准教授の職名が、平成30年4月准教授から教授に変更。
- ・長沼光彦 兼任教授の辞退により、武田悠希 兼任講師の補充。
- ・平野美保 兼任准教授の辞退により、荒尾千春 兼任講師の補充。
- ・吉田(小野澤) 朋子 兼任准教授の改姓により、吉田朋子 兼任准教授に変更。
- ・中里郁子 兼任講師の職名が、平成30年4月講師から准教授に変更。
- ・住本 純 兼任助教の職名が、平成30年4月助教から講師に変更。
- ・小都晶子 兼任講師の辞任により、根岸智代 兼任講師の補充。
- ・工藤春代 兼任講師の辞任により、鬼頭弥生 兼任講師の補充。
- ・小島秀信 兼任講師の辞任により、百木 遼 兼任講師の補充。
- ・真田雅子 兼任講師の辞任により、Daniel Pearce 兼任講師の補充。
- ・田中美和子 兼任講師、葛田和美 兼任講師の辞任により、松岡真由子 兼任講師の補充。
- ・大喜直彦 兼任講師の辞任により、小林健太 兼任講師の補充。
- ・Jacoba Akazawa 兼任講師の辞任により、Jacques Wilburn 兼任講師の補充。
- ・Jodie Campbell 兼任講師の辞退により、Katy Simpson 兼任講師の補充。
- ・安藤幸治 兼任講師の辞任により、平山幸乃 兼任講師の補充。

【令和元年度】

- ・石井浩子 兼任准教授の職名が、平成31年4月准教授から教授に変更。
- ・久野将健 兼任准教授の職名が、平成31年4月准教授から教授に変更。
- ・東郷多津 兼任准教授の辞退及び荒尾千春 兼任講師の辞任により、濱中倫秀 兼任講師の補充。
- ・長沼光彦 兼任教授の辞任により、吉澤健吉 兼任講師の補充。
- ・York Weatherford 兼任講師の職名が、平成31年4月講師から准教授に変更。
- ・伊藤薫 兼任講師の辞任により、田中祐子 兼任講師の補充。
- ・片山裕 兼任講師の辞任により、北澤善之 兼任講師の補充。
- ・久保圭 兼任講師の辞任により、田丸歩実 兼任講師の補充。
- ・森本慶太 兼任講師の辞任により、上山益己 兼任講師の補充。
- ・教育充実(クラス増加)のため、田中美和子 兼任講師の補充。
- ・土井裕明 兼任講師の辞任により、高岡克行 兼任講師の補充。
- ・橋本史人 兼任講師の辞退により、栗川昌史 兼任講師の補充。
- ・横山(須賀)真紀 兼任講師の辞任により、宮村教平 兼任講師の補充。
- ・Jodie Campbell 兼任講師の辞任及び教育体制の見直し・充実のため、Thomas Nishikawa 兼任講師の補充。
- ・教育課程(科目増加)及び教育体制の見直し・充実のため、Rebecca Paterson 兼任講師の補充。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
7	6	0	0	13	6	7	1	0	14
(7)	(6)	(-)	(-)	(13)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)
6	7	1	0	14	6	7	1	0	14
[Δ1]	[1]	[1]	[-]	[1]	[Δ1]	[-]	[-]	[-]	[1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、**

完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65または70 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、

および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている

教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入

し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{14}{13} = \boxed{107.69} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{14} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
		該当なし							
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
0 人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
1	教授	上田 恵津子	H30.3	必修	心理学概論	①	H30.3.31付けで病気療養のため辞任（30）		
				選択	学習の心理学	①			
				選択	現代社会の心理学	①			
				選択	対人関係論	①			
				必修	卒業研究	①			
				選択	卒業論文	①			
				必修	心理学基礎演習 I	①			
				必修	心理学演習	①			
				選択	社会・ビジネス心理フィールド研修	①			
必修	初級実験演習 I	①							
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
1 人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目
	選択	5	科目	選択	5	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	10	科目	計	10	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
1 人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目
	選択	5	科目	選択	5	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	10	科目	計	10	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{1}{13} = 7.69 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし				
合計				後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0 人	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および() 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|--|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員(教授)の辞任については、同氏の専門分野から社会福祉の歴史・原論系学科での教育研究の希望があり、本学部・学科の設置趣旨・目的とは隔たりがあった。同氏の専門分野での活躍を期待し、辞任はやむを得ないと考えた。
 なお、既に後任の教員を補充しており、辞任教員の担当(予定)科目は、後任教員が担当するほか、他の適任専任教員が担当し、学生への教育および履修等への影響はない。
 科目担当教員の交代については、シラバスで担当教員を修正しているほか、年度当初に学生に対し周知を図っている。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画	
<p>認 可 時 (平成28年8月)</p>	<p>・「卒業研究」も「卒業論文」も4年次通年科目であるにもかかわらず、「『卒業研究』で個人による心理学的研究を行ったもの」を「卒業論文」の履修対象者との記載があるため、学生がどの時点で「卒業論文」の履修を決定するのか、口頭試問を行う主査・副査の選定方法等を明確にした上で、学生に対して適切な履修指導を行うことが望ましい。また、大学院進学者や認定心理士資格取得希望者以外でも、希望があれば「卒業論文」を選択履修できるよう配慮することが望ましい。</p>	<p>改善意見</p>	<p>・平成29年2月に心理学科において、「コース選択・ゼミ分け・卒業研究・卒業論文」検討ワーキング・グループ（以下「WG」）を設置した。本WGは、教務委員をリーダーとし、5名の専任教員で構成し、平成29年度入学生が2年次進級時にコースを選択する方法及び3年次進級時のゼミ選択と卒業研究・卒業論文に関する詳細な取り決めを検討している。検討の過程については、心理学科において共有し、最終的に心理学科の履修上の指導要領として取り決める。(29)</p> <p>・学科WGでの検討を経て、学科において、平成29年度入学生の2年次からのコース分属は学生の希望を基本として決定した。今後、3年次進級前にゼミ選択方法等の取り決め、3年次後期に、卒業研究・卒業論文に関する指導要領を作成して履修指導を行う。(30)</p> <p>・平成30年11月にゼミ選択方法等を決め、対象となる2年次学生全員に履修指導をした。また、平成31年3月（3年次進級前）に、卒業研究・卒業論文についての事前の履修指導を行った。(別添1 参照) (元)</p>	<p>履行中</p> <p>・平成31年度前半に卒業研究・卒業論文に関する指導要領に基づき履修指導を行う。また、「卒業論文」の口頭試問を行う主査・副査の選定方法等を示して、3年次後期に可能な限り学生の「卒業論文」の履修希望を尊重して履修決定をする。(30)</p> <p>・平成31年度前半に卒業研究・卒業論文に関する指導要領を作成し、履修指導を行う。また、「卒業論文」の口頭試問を行う主査・副査の選定方法等を示して、3年次後期に可能な限り学生の「卒業論文」の履修希望を尊重して履修決定をする。(元)</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年2月)</p>	<p>・現代人間学部心理学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>履行中</p> <p>・平成30年度は、昨年度と比べて、入学生の増加はあったが、未だ定員充足率の平均は0.7倍未満である。今後、他大学との差別化の観点も考慮した広報活動に力を入れ、学生確保に努める。(30)</p> <p>・平成31年度は、過去2ヵ年度と比べて、入学生の増加はあったが、未だ定員充足率の平均は0.7倍未満である。引き続き学生確保に努める。(元)</p>	<p>・引き続き、学生確保のため最大限の広報活動を行う。なお、完成年度までの入学者状況をみて、入学定員の見直しや学科の改革を行う。(30)</p> <p>・引き続き、学生確保のため最大限の広報活動を行うとともに、教育内容の充実、学科改革を進め、定員充足率の改善に努める。(元)</p>

設置計画履行状況 調査時 (平成30年2月)	・同一設置者が設置する既設学部等(人間文化学部人間文化学科)の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	改善意見	・平成30年度における人間文化学部人間文化学科の4年間の定員充足率の平均は0.71倍となった。今後も一層、広報活動に力を入れ学生確保に努める。また、平成31年度から学びの特性をより明確に示す、国際日本文化学科に名称変更して学生確保に繋げる。(30)	履行済	
設置計画履行状況 調査時 (平成31年3月)	・入学定員未充足の改善に努めること。(現代人間学部心理学科)	改善意見	・入学生確保に努めた結果、平成31年度の入学定員充足率は0.81倍となった。引き続き、全学一丸となって学生確保に努める。(元)	履行済	・引き続き、全学的な広報活動に力を入れるとともに、教育内容の充実を図り、学生確保に努める。(元)

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<現代人間学部 心理学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>FD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都ノートルダム女子大学FD委員会を設置（別添2 参照） <p>SD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校法人または大学事務局において実施 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>FD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回（8月及び12月を除く）年間10回開催 ・委員は各学科から選出された教員と担当課長で構成し、開催は全員出席を原則としている。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>FD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD活動の企画立案 ・FD活動の実施計画の策定及び評価 ・FDに関する研修及び研究 ・FD報告書の作成 ・FDに関する情報の収集と提供 ・FD関係団体との連携に関すること 等 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>FD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD研修会 ・全学教員FD研修会 ・大学コンソーシアム京都主催の「FDフォーラム」に委員として参画及び教職員の参加 ・オープンクラス開催 <p>SD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートルダム三校合同研修会 ・新任教職員研修会 ・教職員研修会 <p>b 実施方法</p> <p>FD活動・・・複数の機会を提供し教員参加の機会を確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内教員によるLMS（学習管理システム） ・全学教員FD研修会（授業方法等について） 平成30年度は学外講師による学朱評価についての講演 ・大学コンソーシアム京都主催のFD研修会への参加 ・平成30年度オープンクラス・・・教員相互の授業参観・コメント提出 <p>SD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートルダム三校合同研修会・・・設立理念（ミッション・コミットメント） ・新任教職員研修・・・カトリック学校の使命、教育精神等 ・教職員研修・・・①学生支援に関する研修「大学に求められる合理的配慮とは何か」 ②ハラスメント防止に関する研修「アカデミックハラスメント防止を考える」 ③LGBTに関する研修「セクシュアル・マイノリティを知る」
--

c 開催状況（教員の参加状況含む）

F D活動

- ・ F D研修会
参加者数 62名（教員72名のうち、56名参加、参加率77.8%）
- ・ 全学F D研修会
参加者数 56名（教員72名のうち、51名参加、参加率70.8%）
- ・ 大学コンソーシアム京都主催のF D研修会参加（F D研修会欠席者に対する措置）させた。
- ・ オープンクラス
ほぼ全科目について、前期2週間、後期3週間の「オープンクラス・ウィーク」を実施した。
授業参観者の「参観者コメントシート」は、それぞれ50件であった。

S D活動

- ・ ノートルダム三校合同研修会・・・参加者数 教員32名（事務系50名）
- ・ 新任教職員研修・・・新規採用教職員 教員7名（事務系3名）
- ・ 教職員研修 ①参加者数 教員38名（事務系31名）
②参加者数 教員46名（事務系29名）
③参加者数 教員46名（事務系30名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 研修会によって、大学教育の動向や考え方、LMS（学習管理システム）の活用法、学習評価の方法が教員間で共有され、授業改善に活かされている。
- ・ オープンクラスでは、教員間で授業について検討することにより、授業方法の知識や技能を共有し授業改善に反映されるよう意識共有を図っている。
- ・ 大学の設立理念や学部・学科の設置趣旨等を再確認することにより、教育・指導に活かしている。
- ・ S D活動によって、主に事務系職員が基本的な教育関係法令の高い業務手法が提供でき得ることで、質の高い教員サービスが提供でき、間接的に教育の改善に活かされている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

（4）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

現代人間学部心理学科の設置の趣旨・目的は、「現代社会の要請に応えるために、心理学の専門性を高度にしつつ生活科学や社会福祉学などの隣接分野を融合させ、急速に進展するグローバル化・情報化社会及び少子高齢化社会が抱える諸課題について広い視野から心理学教育及び研究を行うことにより、多様化・複雑化する現代社会が抱える諸問題を柔軟にかつ創造的に解決へと導くことのできる人材の養成をめざす。心理学科では、臨床心理領域、社会心理領域を主な領域に据え、認知心理学、学習心理学、教育心理学、発達心理学などの心理学諸領域を統合させ、さらには生活科学、社会福祉学などの隣接領域とも有機的に関連づけた教育・研究をめざす。これにより、社会のさまざまな現場で必要とされる心理学の実証的な理論と技法を身につけ、幅広くかつ多様な観点から「人間の行動・こころ」の理解を深化させ、心理学の実践的スキルを社会の安寧と人々の幸福の実現に向けて応用できる人材養成に向けた教育・研究を可能にする」とした。

これらの趣旨・目的を達成するため、新入生に対しては、1年次必修の「心理学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」において、2年次から分かれる2コース（臨床心理領域の心理カウンセリングコース、社会心理領域の社会・ビジネス心理コース）の専門性について、上級生による活動紹介も含めた、具体的な情報を提供し、将来の資格取得やキャリア形成について意識づけた。また、2年次の後期にゼミ選択とコースの確認を行ったが、学生たちは自ら学ぶコースや取得する資格などを理解しており、所属コースの確認とゼミ選択を円滑に行うことができた。これから始まる3年次ゼミや専門教育にもスムーズに入ることができ、教育成果に期待を寄せている。

また、平成29年に公認心理師法が施行されたことにより、平成29年度入学生には、公認心理師受験資格を得るための経過措置のカリキュラムを設定し、平成30年度以降入学生には、法令で定められた公認心理師カリキュラムを整備するためのカリキュラム改訂を行ったが、これらを確実に実施している。

以上から、設置の趣旨・目的を実現させるための取り組みを着実に展開していると評価できる。

学生の受け入れについて、入学者数の推移は平成29年度58名、平成30年度65名、平成31年度81名と着実に増加しているが、入学者定員である100名には達していない。ただし、オープンキャンパス参加者数や広報資料請求数などの指標をみると、本学科への興味・関心が増加していることがみてとれるので、さらなる広報活動を通じて、本学科の専門教育の充実した内容や学生への丁寧なサポートをアピールし、定員充足につなげる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和元年11月末 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和4年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける予定。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 8 月 1 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ - ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人ノートルダム女学院

(2) 大学名

京都ノートルダム女子大学

(3) 大学の位置

〒606-0847
京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ワダ タマキ) 和田 環 (平成20年11月)		
学長	(セリタ ケンタロウ) 芹田 健太郎 (平成25年4月)	(サナダ マサコ) 眞田 雅子 (平成29年4月)	前任者は平成29年3月31日任期満了、平成29年4月に後任者が就任したため(29)
学部長	(ナカムラ クミ) 中村 久美 (平成29年4月)	(カトウ サチコ) 加藤 佐千子 (平成29年4月)	予定者は副学長に就任、平成29年4月に新たに就任したため(29)
学科主任	未定	(タナカ ヒロキ) (クドウ テツオ) 田中 裕喜 工藤 哲夫 (平成30年4月) (平成29年4月)	前任者が退職のため、平成30年4月に後任者が就任したため(30) 平成29年3月に決定したため(29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
現代人間学部 こども教育学科 学士（こども教育）	教育学・保育学関係	4年	70人	— 年次人	280人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	70 (-) [-]	(-) [-]	70 (-) [-]	(-) [-]	70 (-) [-]	(-) [-]	0.76倍	一倍	一部入試において 学内2学科併願制を 導入 (元)
志願者数	() []	() []	() []	() []	83 (-) [-]	(-) [-]	106 (-) [-]	(-) [-]	136 (-) [-]	(-) [-]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	82 (-) [-]	(-) [-]	100 (-) [-]	(-) [-]	129 (-) [-]	(-) [-]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	68 (-) [-]	(-) [-]	98 (-) [-]	(-) [-]	123 (-) [-]	(-) [-]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	46 (-) [-]	(-) [-]	66 (-) [-]	(-) [-]	50 (-) [-]	(-) [-]			
入学定員超過率 B/A					0.65		0.94		0.71				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	46 (-)	- (-)	66 (-)	- (-)	50 (-)	[2] (-)	[-] (-)
2年次	/		[-] (-)	[-] (-)	- (-)	- (-)	45 (-)	- (-)	66 (-)	[-] (-)	[-] (-)
3年次			/		[-] (-)	[-] (-)	- (-)	- (-)	- (-)	45 (-)	[-] (-)
4年次	/				[-] (-)	[-] (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	[-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	46 [-] (-)	111 [-] (-)	161 [-] (-)				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
平成28年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	46 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	112 人	1 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	1 人	— 人	家庭の事情1名
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	161 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の数値を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の数値については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \text{ } \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \text{ } \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{46} = \text{ } \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{112} = \text{ } \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{161} = \text{ } \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<現代人間学部 こども教育学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	日本文学	1前	2								兼1
	外国文学	1後	2								兼1
	日本近現代史	1前	2								兼1
	日本の宗教	1後	2								兼1
	東アジア近現代史	1前	2								兼1
	ヨーロッパ近現代史	1後	2								兼1
	歴史の中の女性	1後	2								兼1
	身近な心理学	1前	2			1					
	文化人類学	1後	2								兼1
	暮らしの法律学	1前	2								兼1
	憲法と人権	1後	2								兼1
	暮らしの経済学	1後	2								兼1
	国際関係論入門	1前	2								兼1
	社会学概論	1前	2								兼1
	ジェンダー論	1前	2								兼1
	ボランティア概論	1前	2								兼1
	子育てとワークライフバランス	2前	1								兼1
	こどもと子育ての生活環境学	2前	1								兼4
	海外研修(生活と社会)	1・2・3・4年	1								兼2
	身近な自然科学	1前	2								兼1
	暮らしの統計学	1後	2			1					
	地球と宇宙の科学	1前	2								兼1
	情報科学入門	1後	2								兼1
	環境学概論	1後	2								兼1
	身近な医学	1・2前	2			1					兼1
	生命倫理	1後	2								兼1
	こどもと自然	1通	2			1	1				兼2
小計(27科目)	-	-									
共通教育科目	英語基礎Ⅰ	1前	1								兼5
	英語総合Ⅰ	1前	1								兼6
	英語基礎Ⅱ	1後	1								兼5
	英語総合Ⅱ	1後	1								兼6
	日常の英会話	2前・後	1								兼3
	旅行の英会話	2後	1								兼2
	留学の英会話	2後	1								兼2
	おもてなしの英会話	2前	1								兼2
	やさしいビジネス英会話	2前	1								兼1
	歌って覚える英語表現	2後	1								兼1
	英語リスニング初級	2前	1								兼1
	英語リスニング中級	2後	1								兼1
	読むための英語	2前	1								兼1
	実用英語基礎	2後	1								兼1
	身近な英文法	2前	1								兼1
	アカデミック英語	3前	1								兼1
	ドイツ語	1前	2								兼1
	フランス語	1後	2								兼1
	スペイン語	1前	2								兼1
	アラビア語	1後	2								兼1
中国語Ⅰ	1前・後	2								兼3	
中国語Ⅱ	1後	2								兼1	
中国語Ⅲ	2前	2								兼1	
ロシア語Ⅰ	1前・後	2								兼1	
ロシア語Ⅱ	1後	2								兼1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	日本文学	1前	2								兼1
	外国文学	1後	2								兼1
	日本近現代史	1前	2								兼1
	日本の宗教	1後	2								兼1
	東アジア近現代史	1前	2								兼1
	ヨーロッパ近現代史	1後	2								兼1
	歴史の中の女性	1後	2								兼1
	身近な心理学	1前	2					1			
	文化人類学	1後	2								兼1
	暮らしの法律学	1前	2								兼1
	憲法と人権	1後	2								兼1
	暮らしの経済学	1後	2								兼1
	国際関係論入門	1前	2								兼1
	社会学概論	1前	2								兼1
	ジェンダー論	1前	2								兼1
	ボランティア概論	1前	2								兼1
	子育てとワークライフバランス	2前	1								兼1
	こどもと子育ての生活環境学	2前	1								兼4
	海外研修(生活と社会)	1・2・3・4年	1								兼2
	身近な自然科学	1前	2								兼1
	暮らしの統計学	1後	2							1	
	地球と宇宙の科学	1前	2								兼1
	情報科学入門	1後	2								兼1
	環境学概論	1後	2								兼1
	身近な医学	1・2前	2					1			兼1
	生命倫理	1後	2							1	兼1
	こどもと自然	1通	2				1	1			兼2
小計(27科目)	-	-									
共通教育科目	英語基礎Ⅰ	1前	1								兼7
	英語総合Ⅰ	1前	1								兼8
	英語基礎Ⅱ	1後	1								兼7
	英語総合Ⅱ	1後	1								兼8
	日常の英会話	2前・後	1								兼3
	旅行の英会話	2後	1								兼2
	留学の英会話	2後	1								兼1
	おもてなしの英会話	2前	1								兼3
	やさしいビジネス英会話	2前	1								兼1
	歌って覚える英語表現	2後	1								兼1
	英語リスニング初級	2前	1								兼1
	英語リスニング中級	2後	1								兼1
	読むための英語	2前	1								兼1
	実用英語基礎	2後	1								兼2
	身近な英文法	2前	1								兼2
	アカデミック英語	3前	1								兼1
	英語実践(4技能)Ⅰ	1・2・3・4年	1								兼4
	英語実践(4技能)Ⅱ	1・2・3・4年	1								兼4
	ドイツ語	1前	2								兼1
	フランス語	1後	2								兼1
スペイン語	1前	2								兼1	
アラビア語	1後	2								兼1	
中国語Ⅰ	1前・後	2								兼4	
中国語Ⅱ	1後	2								兼1	
中国語Ⅲ	2前	2								兼1	
ロシア語Ⅰ	1前・後	2								兼1	
ロシア語Ⅱ	1後	2								兼1	

共通教育科目	基礎科目	コア語Ⅲ	2前	2															兼1	
		海外研修(語学)Ⅰ	1・2・3・4休	2																兼1
		海外研修(語学)Ⅱa	1・2・3休	2																兼1
		海外研修(語学)Ⅱb	1・2・3・4休	2																兼1
		日本語講読Ⅰ	1前	1																兼1
		日本語講読Ⅱ	1後	1																兼1
		日本語表現Ⅰ	1前	1																兼1
		日本語表現Ⅱ	1後	1																兼1
		日本語特講Ⅰ	2前	1																兼1
		日本語特講Ⅱ	2後	1																兼1
		文章表現法	1前・後	2																兼1
		情報演習Ⅰ	1前・後	1																兼1
		情報演習Ⅱ	2前・後	1																兼1
		情報処理	2前・後	2																兼3
	体育講義	1後	1																兼1	
	健康スポーツ演習	1前・後	2																兼3	
	体育実技	1前	1																兼1	
	小計(42科目)	-																		
	基礎科目	キリスト教入門	1前・後	2																兼1
		キリスト教音楽入門	1前・後	1																兼1
聖書と文化		2前	2																兼1	
キリスト教と日本文化		2後	2																兼2	
キリスト教思想		2前	2																兼1	
キリスト教美術		2後	2																兼1	
キリスト教音楽		2後	2																兼1	
ノートルダム学		1前	2																兼1	
女性とライフキャリア		1前・後	2																兼1	
ホスピタリティ入門		1前・後	2																兼1	
ホスピタリティ京都		2・3前	2																兼2	
キャリア形成		3前・後	2																兼1	
キャリア形成ゼミ		2通	2																兼1	
インターンシップ		2・3・4通	2																兼1	
海外インターンシップ	2・3・4休	2																兼1		
小計(15科目)	-																			
学部共通科目	現代社会とこども	1前	1		1														兼1	
	現代社会と女性・家族	1前	1																兼2	
	現代社会と高齢者	1前	1																兼2	
	現代社会と病者・障がい者	1前	1			1													兼3	
	病児の発達と支援	1休	2		1	5													兼4	
	情報科学	3前	2			1													兼4	
小計(6科目)	-																			
基礎科目	こども教育基礎演習	1前	1		4	10	1	1											兼1	
	こども教育フィールド研修	1前	1		3	10	1	1											兼1	
	教職論	1前	2			1													兼1	
	教育原理	1前	2			1													兼1	
	教育史	3後	2																兼1	
	こどもの教育心理学	1前	2			1													兼1	
	こどもの発達心理学	1後	2			1													兼1	
	教育と社会	2後	2			1													兼1	
	教育経営論	2後	2			1													兼1	
小計(9科目)	-																			
専門教育科目	基礎科目	教育課程論	2後	2		1														兼1
		教育の方法と技術	2後	2		1														兼1
		教育評価	3後	2			1													兼1
		教育相談の理論と方法	3前	2																兼1
		教育実習事前事後指導	3前	1		1	1													兼1
	展開科目	初等教育実習Ⅰa	3前	2		2	7	1	1											兼1
		初等教育実習Ⅱa	4前	2		2	7	1	1											兼1
		初等教育実習Ⅰb	3前	2		2	7	1	1											兼1
		初等教育実習Ⅱb	4前	2		2	7	1	1											兼1
		教職実践演習(幼・小)	4後	2		2	1													兼1
		国語	1後	2			1													兼1
		算数	1後	2			1													兼1
		小計(13科目)	-																	

共通教育科目	基礎科目	コア語Ⅲ	2前	2																兼1	
		海外研修(語学)Ⅰ	1・2・3・4休	2																兼1	
		海外研修(語学)Ⅱa	1・2・3休	2																兼2	
		海外研修(語学)Ⅱb	1・2・3・4休	2																兼2	
		日本語講読Ⅰ	1前	1																兼1	
		日本語講読Ⅱ	1後	1																兼1	
		日本語表現Ⅰ	1前	1																兼1	
		日本語表現Ⅱ	1後	1																兼1	
		日本語特講Ⅰ	2前	1																兼1	
		日本語特講Ⅱ	2後	1																兼1	
		文章表現法	1前・後	2																兼1	
		情報演習Ⅰ	1前・後	1																兼1	
		情報演習Ⅱ	2前・後	1																兼1	
		情報処理	2前・後	2																兼3	
	体育講義	1後	1																兼1		
	健康スポーツ演習	1前・後	2																兼3		
	体育実技	1前	1																兼2		
	小計(44科目)	-																			
	基礎科目	キリスト教入門	1前・後	2																	兼1
		キリスト教音楽入門	1前・後	1																	兼1
聖書と文化		2前	2																	兼1	
キリスト教と日本文化		2後	2																	兼2	
キリスト教思想		2前	2																	兼1	
キリスト教美術		2後	2																	兼1	
キリスト教音楽		2後	2																兼1		
ノートルダム学		1前	2																兼1		
女性とライフキャリア		1前・後	2																兼1		
ホスピタリティ入門		1前・後	2																兼1		
ホスピタリティ京都		2・3前	2																兼2		
キャリア形成		3前・後	2																兼1		
キャリア形成ゼミ		2通	2																兼1		
インターンシップ		2・3・4通	2																兼1		
海外インターンシップ	2・3・4休	2																兼1			
小計(15科目)	-																				
学部共通科目	現代社会とこども	1前	1		1															兼1	
	現代社会と女性・家族	1前	1																	兼2	
	現代社会と高齢者	1前	1																	兼2	
	現代社会と病者・障がい者	1前	1			1														兼3	
	病児の発達と支援	1休	2		1	5														兼4	
	情報科学	3前	2			1															

卒業要件及び履修方法

- (1) 共通教育科目
必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることができる。
- (2) 学部共通科目
選択科目の現代社会と子ども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。
- (3) 専門教育科目
基礎科目8単位、展開科目6単位及び専門演習・卒業研究8単位の必修科目計22単位、基礎科目の教育社会学及び教育経営論から選択必修2単位以上、展開科目の選択科目から46単位以上修得し、専門教育科目全体で合計84単位以上修得する。
ただし、所属する履修コースに応じ、以下のとおりコース必修科目を含めて修得しなければならない。
- ①幼稚園教員・保育士コース
コース必修科目＝展開科目のうち、保育課程論、保育内容総論、保育内容（健康）、保育内容（人間関係）、保育内容（環境）、保育内容（言葉）、保育内容（表現）、幼児理解の理論と方法（以上16単位）
コース適用除外科目＝展開科目の「小学校科目」群のうち、子ども情報リテラシーを除いた科目及び「特別支援科目」群のうち、視覚障害者の心理・生理・病理から特別支援教育実習までの科目
- ②幼稚園・小学校教員コース
コース必修科目＝教育課程論、国語科指導法、社会科指導法、算数科指導法、理科指導法、生活科指導法、音楽科指導法、図工科指導法、家庭科指導法、体育科指導法、道徳の指導法、特別活動の指導法、生徒指導・進路指導（以上26単位）
コース適用除外科目＝「幼保共通科目」群のうち、保育課程論から幼児理解の理論と方法までの科目及び児童福祉論を除いた科目
- ③小学校・特別支援教員コース
コース必修科目＝教育課程論、国語科指導法、社会科指導法、算数科指導法、理科指導法、生活科指導法、音楽科指導法、図工科指導法、家庭科指導法、体育科指導法、道徳の指導法、特別活動の指導法、生徒指導・進路指導（以上26単位）
コース適用除外科目＝「幼保共通科目」群のうち、児童福祉論を除いた科目及び「特別支援科目」群のうち、視覚障害者の心理・生理・病理から特別支援教育実習までの科目
- (4) 学際教育科目
他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。
- (5) (1)～(4)全体で124単位以上修得する。

卒業要件及び履修方法

- (1) 共通教育科目
必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることができる。
- (2) 学部共通科目
選択科目の現代社会と子ども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。
- (3) 専門教育科目
基礎科目8単位、展開科目6単位及び専門演習・卒業研究8単位の必修科目計22単位、基礎科目の教育社会学及び教育経営論から選択必修2単位以上、展開科目の選択科目から46単位以上修得し、専門教育科目全体で合計84単位以上修得する。
ただし、所属する履修コースに応じ、以下のとおりコース必修科目を含めて修得しなければならない。
- ①幼稚園教員・保育士コース
コース必修科目＝展開科目のうち、保育課程論、保育内容総論、保育内容（健康）、保育内容（人間関係）、保育内容（環境）、保育内容（言葉）、保育内容（表現）、幼児理解の理論と方法（以上16単位）
コース適用除外科目＝展開科目の「小学校科目」群のうち、子ども情報リテラシーを除いた科目及び「特別支援科目」群のうち、視覚障害者の心理・生理・病理から特別支援教育実習までの科目
- ②幼稚園・小学校教員コース
コース必修科目＝教育課程論、**特別支援教育基礎理論**、国語科指導法、社会科指導法、算数科指導法、理科指導法、生活科指導法、音楽科指導法、図工科指導法、家庭科指導法、体育科指導法、道徳の指導法、特別活動の指導法、生徒指導・進路指導（以上26単位）
コース適用除外科目＝「幼保共通科目」群のうち、保育課程論から幼児理解の理論と方法までの科目及び児童福祉論を除いた科目
- ③小学校・特別支援教員コース
コース必修科目＝教育課程論、国語科指導法、社会科指導法、算数科指導法、理科指導法、生活科指導法、音楽科指導法、図工科指導法、家庭科指導法、体育科指導法、道徳の指導法、特別活動の指導法、生徒指導・進路指導（以上26単位）
コース適用除外科目＝「幼保共通科目」群のうち、児童福祉論を除いた科目及び「特別支援科目」群のうち、視覚障害者の心理・生理・病理から特別支援教育実習までの科目
- (4) 学際教育科目
他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。
- (5) (1)～(4)全体で124単位以上修得する。

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	日本文学	1前	2								兼1
	外国文学	1後	2								兼1
	日本近現代史	1前	2								兼1
	日本の宗教	1後	2								兼1
	東アジア近現代史	1前	2								兼1
	ヨーロッパ近現代史	1後	2								兼1
	歴史の中の女性	1後	2								兼1
	身近な心理学	1前	2			1					
	文化人類学	1後	2								兼1
	暮らしの法学	1前	2								兼1
	憲法と人権	1後	2								兼1
	暮らしの経済学	1後	2								兼1
	国際関係論入門	1前	2								兼1
	社会学概論	1前	2								兼1
	ジェンダー論	1後	2								兼1
	ボランティア概論	1前	2								兼1
	子育てとワークライフバランス	2前	1								兼1
	こどもと子育ての生活環境学	2前	1								兼4
	海外研修（生活と社会）	1・2・3・4後	1								兼2
	身近な自然科学	1前	2								兼1
	暮らしの統計学	1後	2			1					
	地球と宇宙の科学	1前	2								兼1
	情報科学入門	1後	2								兼1
	環境学概論	1後	2								兼1
	身近な医学	1・2前	2			1					兼1
	生命倫理	1後	2								兼1
	こどもと自然	1通	2			1	1				兼2
小計(27科目)	—	—									
共通教育科目	英語基礎Ⅰ	1前	1								兼5
	英語総合Ⅰ	1前	1								兼7
	英語基礎Ⅱ	1後	1								兼5
	英語総合Ⅱ	1後	1								兼7
	日常の英会話	2前・後	1								兼3
	旅行の英会話	2後	1								兼2
	留学の英会話	2後	1								兼2
	おもてなしの英会話	2前	1								兼2
	やさしいビジネス英会話	2前	1								兼1
	歌って覚える英語表現	2後	1								兼1
	英語リスニング初級	2前	1								兼1
	英語リスニング中級	2後	1								兼1
	読むための英語	2前	1								兼1
	実用英語基礎	2後	1								兼1
	身近な英文法	2前	1								兼1
	アカデミック英語	3前	1								兼1
	ドイツ語	1前	2								兼1
	フランス語	1後	2								兼1
	スペイン語	1前	2								兼1
	アラビア語	1後	2								兼1
	中国語Ⅰ	1前・後	2								兼4
	中国語Ⅱ	1後	2								兼1
	中国語Ⅲ	2前	2								兼1
	コリア語Ⅰ	1前・後	2								兼1
	コリア語Ⅱ	1後	2								兼1
	コリア語Ⅲ	2前	2								兼1
	海外研修(語学)Ⅰ	1・2・3・4後	2								兼1
	海外研修(語学)Ⅱa	1・2・3後	2								兼1
	海外研修(語学)Ⅱb	1・2・3・4後	2								兼1
	日本語講読Ⅰ	1前	1								兼1
日本語講読Ⅱ	1後	1								兼1	
日本語表現Ⅰ	1前	1								兼1	
日本語表現Ⅱ	1後	1								兼1	
日本語特講Ⅰ	2前	1								兼1	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	日本文学	1前	2									兼1
	外国文学	1後	2									兼1
	日本近現代史	1前	2									兼1
	日本の宗教	1後	2									兼1
	東アジア近現代史	1前	2									兼1
	ヨーロッパ近現代史	1後	2									兼1
	歴史の中の女性	1後	2									兼1
	身近な心理学	1前	2				1					
	文化人類学	1後	2									兼1
	暮らしの法学	1前	2									兼1
	憲法と人権	1後	2									兼1
	暮らしの経済学	1後	2									兼1
	国際関係論入門	1前	2									兼1
	社会学概論	1前	2									兼1
	ジェンダー論	1後	2									兼1
	ボランティア概論	1前	2									兼1
	子育てとワークライフバランス	2前	1									兼1
	こどもと子育ての生活環境学	2前	1									兼4
	海外研修（生活と社会）	1・2・3・4後	1									兼2
	身近な自然科学	1前	2									兼1
	暮らしの統計学	1後	2						1			
	地球と宇宙の科学	1前	2									兼1
	情報科学入門	1後	2									兼1
	環境学概論	1後	2									兼1
	身近な医学	1・2前	2				1					兼1
	生命倫理	1後	2									兼1
	こどもと自然	1通	2				1	1				兼2
小計(27科目)	—	—										
共通教育科目	英語基礎Ⅰ	1前	1									兼6
	英語総合Ⅰ	1前	1									兼7
	英語基礎Ⅱ	1後	1									兼6
	英語総合Ⅱ	1後	1									兼7
	日常の英会話	2前・後	1									兼3
	旅行の英会話	2後	1									兼2
	留学の英会話	2後	1									兼2
	おもてなしの英会話	2前	1									兼2
	やさしいビジネス英会話	2前	1									兼1
	歌って覚える英語表現	2後	1									兼1
	英語リスニング初級	2前	1									兼1
	英語リスニング中級	2後	1									兼1
	読むための英語	2前	1									兼1
	実用英語基礎	2後	1									兼2
	身近な英文法	2前	1									兼2
	アカデミック英語	3前	1									兼1
	ドイツ語	1前	2									兼1
	フランス語	1後	2									兼1
	スペイン語	1前	2									兼1
	アラビア語	1後	2									兼1
	中国語Ⅰ	1前・後	2									兼4
	中国語Ⅱ	1後	2									兼1
	中国語Ⅲ	2前	2									兼1
	コリア語Ⅰ	1前・後	2									兼1
	コリア語Ⅱ	1後	2									兼1
	コリア語Ⅲ	2前	2									兼1
	海外研修(語学)Ⅰ	1・2・3・4後	2									兼1
	海外研修(語学)Ⅱa	1・2・3後	2									兼2
	海外研修(語学)Ⅱb	1・2・3・4後	2									兼2
	日本語講読Ⅰ	1前	1									兼1
日本語講読Ⅱ	1後	1									兼1	
日本語表現Ⅰ	1前	1									兼1	
日本語表現Ⅱ	1後	1									兼1	
日本語特講Ⅰ	2前	1									兼1	

共通教育科目	基礎科目	日本語特講Ⅱ	2後		1													兼1	
		文章表現法	1前・後		2														兼1
		情報演習Ⅰ	1前・後	1															兼1
		情報演習Ⅱ	2前・後		1														兼1
		情報処理	2前・後		2														兼3
		体育講義	1後		1														兼1
		健康スポーツ演習	1前・後		2														兼3
		体育実技	1前		1														兼1
		小計(42科目)	—																
	基礎科目	キリスト教入門	1前・後	2															兼1
		キリスト教音楽入門	1前・後	1															兼1
		聖書と文化	2前		2														兼1
		キリスト教と日本文化	2後		2														兼2
		キリスト教思想	2前		2														兼1
		キリスト教美術	2後		2														兼1
キリスト教音楽		2後		2														兼1	
ノートルダム学		1前	2															兼1	
女性とライフキャリア		1前・後		2														兼1	
ホスピタリティ入門		1前・後		2														兼1	
ホスピタリティ京都		2・3前		2														兼2	
キャリア形成	3前・後		2														兼1		
キャリア形成ゼミ	2通		2														兼1		
インターンシップ	2・3・4通		2														兼1		
海外インターンシップ	2・3・4休		2														兼1		
小計(15科目)	—																		
学部共通科目	現代社会とこども	1前		1		1												兼1	
	現代社会と女性・家族	1前		1														兼2	
	現代社会と高齢者	1前		1														兼2	
	現代社会と病者・障がい者	1前		1		1								1				兼3	
	病児の発達と支援	1休		2		1	5											兼4	
	情報科学	3前		2		1												兼4	
小計(6科目)	—																		
基礎科目	こども教育基礎演習	1前	1		4	10	1	1											
	こども教育フィールド研修	1前	1		3	10	1	1											
	教職論	1前	2			1													
	教育原理	1前	2			1													
	教育史	3後		2														兼1	
	こどもの教育心理学	1前	2			1													
	こどもの発達心理学	1後		2		1													
	教育と社会	2後		2		1													
	教育経営論	2後		2		1													
	小計(9科目)	—																	
専門教育科目	基礎科目	教育課程論	2後		2		1												
		教育の方法と技術	2後	2			1												
		教育評価	3後		2			1											
		教育相談の理論と方法	3前	2															兼1
		教育実習事前事後指導	3前		1		1	1											
		初等教育実習Ⅰa	3前		2		2	7	1	1									
		初等教育実習Ⅱa	4前		2		2	7	1	1									
		初等教育実習Ⅰb	3前		2		2	7	1	1									
		初等教育実習Ⅱb	4前		2		2	7	1	1									
		小計(10科目)	—																
	展開科目	教職実践演習(幼・小)	4後		2		2	1											
		国語	1後		2		1												
		算数	1後		2		1		1										
		生活	1後		2		1		1										
		障害児・者の心理学	2前		2		2												兼1
学習の心理学	2後		2		2												兼1		
スクールカウンセリング論	3前		2														兼1		
教職専門ゼミナール	3前		2			1													
保育課程論	3前		2			1													
保育内容総論	1後		2			1													
保育内容(健康)	2前		2			1													

共通教育科目	基礎科目	日本語特講Ⅱ	2後		1														兼1	
		文章表現法	1前・後		2															兼1
		情報演習Ⅰ	1前・後	1																兼1
		情報演習Ⅱ	2前・後		1															兼1
		情報処理	2前・後		2															兼3
		体育講義	1後		1															兼1
		健康スポーツ演習	1前・後		2															兼3
		体育実技	1前		1															兼2
		小計(42科目)	—																	
	基礎科目	キリスト教入門	1前・後	2																兼1
		キリスト教音楽入門	1前・後	1																兼1
		聖書と文化	2前		2															兼1
		キリスト教と日本文化	2後		2															兼2
		キリスト教思想	2前		2															兼1
		キリスト教美術	2後		2															兼1
キリスト教音楽		2後		2															兼1	
ノートルダム学		1前	2																兼1	
女性とライフキャリア		1前・後		2															兼1	
ホスピタリティ入門		1前・後		2															兼1	
ホスピタリティ京都		2・3前		2															兼2	
キャリア形成	3前・後		2															兼1		
キャリア形成ゼミ	2通		2															兼1		
インターンシップ	2・3・4通		2															兼1		
海外インターンシップ	2・3・4休		2															兼1		
小計(15科目)	—																			
学部共通科目	現代社会とこども	1前		1		1													兼1	
	現代社会と女性・家族	1前		1															兼2	
	現代社会と高齢者	1前		1															兼2	
	現代社会と病者・障がい者	1前		1		1								1					兼3	
	病児の発達と支援	1休		2		1	5							1	5				兼4	
	情報科学	3前		2		1													兼4	
小計(6科目)	—																			
基礎科目	こども教育基礎演習	1前	1									5	10	1						
	こども教育フィールド研修	1前	1									4	10	1						
	教職論	1前	2			1							1							
	教育原理	1前	2			1							1							
	教育史	3後		2															兼1	
	こどもの教育心理学	1前	2			1								1						
	こどもの発達心理学	1後		2		1								1						
	教育と社会	2後		2		1									1					
	教育経営論	2後		2		1									1					
	小計(9科目)	—																		
専門教育科目	基礎科目	教育課程論	2後		2		1						1							
		教育の方法と技術	2後	2			1							1						
		教育評価	3後		2	</														

卒業要件及び履修方法
<p>(1) 共通教育科目 必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることができる。</p> <p>(2) 学部共通科目 選択科目の現代社会と子ども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。</p> <p>(3) 専門教育科目 基礎科目8単位、展開科目6単位及び専門演習・卒業研究8単位の必修科目計22単位、基礎科目の教育社会学及び教育経営論から選択必修2単位以上、展開科目の選択科目から46単位以上修得し、専門教育科目全体で合計84単位以上修得する。 ただし、所属する履修コースに応じ、以下のとおりコース必修科目を含めて修得しなければならない。</p> <p>①幼稚園教員・保育士コース コース必修科目＝展開科目のうち、保育課程論、保育内容総論、保育内容（健康）、保育内容（人間関係）、保育内容（環境）、保育内容（言葉）、保育内容（表現）、幼児理解の理論と方法（以上16単位） コース適用除外科目＝展開科目の「小学校科目」群のうち、子ども情報リテラシーを除いた科目及び「特別支援科目」群のうち、視覚障害者の心理・生理・病理から特別支援教育実習までの科目</p> <p>②幼稚園・小学校教員コース コース必修科目＝教育課程論、国語科指導法、社会科指導法、算数科指導法、理科指導法、生活科指導法、音楽科指導法、図工科指導法、家庭科指導法、体育科指導法、道徳の指導法、特別活動の指導法、生徒指導・進路指導（以上26単位） コース適用除外科目＝「幼保共通科目」群のうち、保育課程論から幼児理解の理論と方法までの科目及び児童福祉論を除いた科目</p> <p>③小学校・特別支援教員コース コース必修科目＝教育課程論、国語科指導法、社会科指導法、算数科指導法、理科指導法、生活科指導法、音楽科指導法、図工科指導法、家庭科指導法、体育科指導法、道徳の指導法、特別活動の指導法、生徒指導・進路指導（以上26単位） コース適用除外科目＝「幼保共通科目」群のうち、児童福祉論を除いた科目及び「特別支援科目」群のうち、視覚障害者の心理・生理・病理から特別支援教育実習までの科目</p> <p>(4) 学際教育科目 他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。</p> <p>(5) (1)～(4)全体で124単位以上修得する。</p>

卒業要件及び履修方法
<p>(1) 共通教育科目 必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることができる。</p> <p>(2) 学部共通科目 選択科目の現代社会と子ども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。</p> <p>(3) 専門教育科目 基礎科目8単位、展開科目6単位及び専門演習・卒業研究8単位の必修科目計22単位、基礎科目の教育社会学及び教育経営論から選択必修2単位以上、展開科目の選択科目から46単位以上修得し、専門教育科目全体で合計84単位以上修得する。 ただし、所属する履修コースに応じ、以下のとおりコース必修科目を含めて修得しなければならない。</p> <p>①幼稚園教員・保育士コース コース必修科目＝展開科目のうち、保育課程論、保育内容総論、保育内容（健康）、保育内容（人間関係）、保育内容（環境）、保育内容（言葉）、保育内容（表現）、幼児理解の理論と方法（以上16単位） コース適用除外科目＝展開科目の「小学校科目」群のうち、子ども情報リテラシーを除いた科目及び「特別支援科目」群のうち、視覚障害者の心理・生理・病理から特別支援教育実習までの科目</p> <p>②幼稚園・小学校教員コース コース必修科目＝教育課程論、国語科指導法、社会科指導法、算数科指導法、理科指導法、生活科指導法、音楽科指導法、図工科指導法、家庭科指導法、体育科指導法、道徳の指導法、特別活動の指導法、生徒指導・進路指導（以上26単位） コース適用除外科目＝「幼保共通科目」群のうち、保育課程論から幼児理解の理論と方法までの科目及び児童福祉論を除いた科目</p> <p>③小学校・特別支援教員コース コース必修科目＝教育課程論、国語科指導法、社会科指導法、算数科指導法、理科指導法、生活科指導法、音楽科指導法、図工科指導法、家庭科指導法、体育科指導法、道徳の指導法、特別活動の指導法、生徒指導・進路指導（以上26単位） コース適用除外科目＝「幼保共通科目」群のうち、児童福祉論を除いた科目及び「特別支援科目」群のうち、視覚障害者の心理・生理・病理から特別支援教育実習までの科目</p> <p>(4) 学際教育科目 他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。</p> <p>(5) (1)～(4)全体で124単位以上修得する。</p>

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

【共通教育科目】

- ・開講期変更により、「社会学概論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・開講期変更により、「ジェンダー論」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。

【専門教育科目】

- ・オムニバス科目への変更により、「保育内容（表現）」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。

【平成30年度】

【共通教育科目】

- ・専任教員の昇任により、「体育講義」の専任教員等の配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「健康スポーツ演習」の専任教員等の配置を「助教1」から「講師1」に変更。

【学部共通科目】

- ・専任教員の昇任により、「情報科学」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。

【専門教育科目】

- ・専任教員の昇任により、「こども教育基礎演習」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授5」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「こども教育フィールド研修」専任教員等の配置を「教授3」から「教授4」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「教育実習事前事後指導」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「初等教育実習Ⅰa」専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「初等教育実習Ⅰb」専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「初等教育実習Ⅱa」専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「初等教育実習Ⅱb」専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「算数」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「生活」の専任教員等の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・開講期変更により、「地域福祉論Ⅰ」の配当年次を「2後」から「2前」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「体育Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「体育Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「情報教育」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「食と健康の教育」の兼任教員等の配置を「兼1」から「講師1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「社会科指導法」の専任教員等の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「算数科指導法」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「生活科指導法」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」、「講師1」から「講師0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「社会」の専任教員等の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「アクティブラーニングの指導法」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「学習デザイン論」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・履修上の都合により、授業科目の名称を「心理統計法Ⅰ」から「心理学統計法Ⅰ」に変更。
- ・履修上の都合により、授業科目の名称を「心理統計法Ⅱ」から「心理学統計法Ⅱ」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「こども教育演習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「卒業論文」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。

【令和元年度】

<p>【共通教育科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程充実の理由により、「英語実践（4技能）Ⅰ」の追加。 ・教育課程充実の理由により、「英語実践（4技能）Ⅱ」の追加。 ・課程認定上の理由により、授業科目の名称を「こども英語教育Ⅰ」から「こども英語指導法（理論編）」に変更。 ・課程認定上の理由により、授業科目の名称を「こども英語教育Ⅱ」から「こども英語指導法（実践編）」に変更。 <p>【学部共通科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員の昇任により、「病児の発達と支援」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」, 「准教授5」から「准教授4」に変更。 ・履修上の都合により、「情報科学」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。 <p>【専門教育科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員の昇任により、「こども教育基礎演習」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」, 「准教授10」から「准教授9」に変更。 ・専任教員の昇任により、「こども教育フィールド研修」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授5」, 「准教授10」から「准教授9」に変更。 ・専任教員の昇任により、「初等教育実習Ⅰa」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授4」, 「准教授7」から「准教授6」に変更。 ・専任教員の昇任により、「初等教育実習Ⅱa」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授4」, 「准教授7」から「准教授6」に変更。 ・専任教員の昇任により、「初等教育実習Ⅰb」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授4」, 「准教授7」から「准教授6」に変更。 ・専任教員の昇任により、「初等教育実習Ⅱb」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授4」, 「准教授7」から「准教授6」に変更。 ・専任教員の昇任により、「保育内容総論」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」, 「准教授1」から「准教授0」に変更。 ・専任教員の昇任により、「保育内容（健康）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」, 「准教授1」から「准教授0」に変更。 ・専任教員の昇任により、「幼理解の理論と方法」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」, 「准教授1」から「准教授0」に変更。 ・専任教員の昇任により、「保育・教職実践演習」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」, 「准教授3」から「准教授2」に変更。 ・専任教員の昇任により、「乳児保育」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」, 「准教授1」から「准教授0」に変更。 ・専任教員の昇任により、「保育表現演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」, 「准教授4」から「准教授3」に変更。 ・専任教員の昇任により、「保育表現演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」, 「准教授4」から「准教授3」に変更。 ・専任教員の昇任により、「保育原理」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」, 「准教授1」から「准教授0」に変更。 ・専任教員の昇任により、「保育実習指導Ⅰ-1」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」, 「准教授4」から「准教授3」に変更。 ・専任教員の昇任及び教育充実により、「保育実習指導Ⅰ-2」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」, 「准教授3」から「准教授2」に変更。 ・専任教員の昇任により、「保育実習指導Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」, 「准教授3」から「准教授2」に変更。 ・専任教員の昇任により、「保育実習Ⅰ-1」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」, 「准教授4」から「准教授3」に変更。 ・専任教員の昇任及び教育充実により、「保育実習Ⅰ-2」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」, 「准教授3」から「准教授2」に変更。 ・専任教員の昇任により、「保育実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」, 「准教授4」から「准教授3」に変更。 ・課程認定上の理由により、「特別支援教育論（初等）」の授業科目を追加し、「准教授1」の専任教員等を配置。 ・専任教員の昇任により、「こども教育演習」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授4」, 「准教授7」から「准教授6」に変更。 ・専任教員の昇任及び教育充実により、「卒業論文」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授4」, 「准教授7」から「准教授6」に変更。 <p>【卒業要件及び履修方法】(3)専門教育科目 ②幼稚園・小学校教員コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目増設の理由により、「特別支援教育基礎理論」を加える。
--

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
18 科目	201 科目	3 科目	222 科目	18 科目 [0]	203 科目 [3]	3 科目 [0]	225 科目 [3]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{222} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と運動場用地 1 (300m, 徒歩5分) 校舎敷地と運動場用地 2 (3.5km, 車で15分)		
	校 舎 敷 地	17,206 m ²	0 m ²	0 m ²	17,206 m ²			
	運 動 場 用 地	19,625 m ²	0 m ²	0 m ²	19,625 m ²			
	小 計	25,966 m ²	0 m ²	0 m ²	25,966 m ²			
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²			
	合 計	36,831 m ²	0 m ²	0 m ²	36,831 m ²			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
		30,169 m ² (30,169 m ²)	12,670 m ² (12,670 m ²)	0 m ² (0 m ²)	30,169 m ² (30,169 m ²)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	41 室	6 室	14 室	4 室 (補助職員 2 人)	3 室 (補助職員 2 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	現代人間学部 こども教育学科			16 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分を 含む図書40,000冊 [35,000冊]
	現代人間学部	128,000 [33,330] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	400 (340)	400 (400)	0 (0)	
	計	128,000 [33,330] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	400 (340)	400 (400)	0 (0)	
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	3,625 m ²	198		278,111				
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
	2,004 m ²	トラック 1面 テニスコート 4面 トレーニングルーム 1室						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	「図書購入費」「設備購入費」を最新額に変更 (29) 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費 (運用コスト含む)を含む。
	教員 1 人 当 り 研 究 費 等	300千円	300千円	図書購入費	13,328千円 10,000千円	11,677千円 9,000千円	11,677千円 9,000千円	
	共 同 研 究 費 等	3,200千円	3,200千円	設備購入費	19,000千円 15,223千円	5,000千円 1,500千円	5,000千円 1,500千円	
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	
	1,410千円	1,130千円	1,130千円	1,163千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経営補助金、雑収入、その他						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	京都ノートルダム女子大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
国際言語文化学部	4	130	3年次 5	530	-	0.90	-	昭和36	-	平成31年4月名称変更
英語英文学科	4	80	3年次 5	330	学士 (文学)	0.94	-	昭和36	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	平成29年度定員変更 (△30)
国際日本文化学科	4	50	-	200	学士 (人間文 化)	0.82	-	平成12	同上	平成29年度定員変更 (△10) 平成31年4月名称変更
生活福祉文化学部	4	-	-	-	-	-	-	平成19	-	
生活福祉文化学科	4	-	-	-	学士 (生活福祉 文化)	-	-	平成19	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	平成29年度学生募 集停止
心理学部	4	-	-	-	-	-	-	平成17	-	
心理学科	4	-	-	-	学士 (心理)	-	-	平成17	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	平成29年度学生募 集停止
現代心理専攻	4	-	-	-	学士 (心理)	-	-	平成17	同上	
学校心理専攻	4	-	-	-	学士 (心理)	-	-	平成17	同上	
臨床心理専攻	4	-	-	-	学士 (心理)	-	-	平成17	同上	
現代人間学部	4	240	-	960	-	0.68	-	平成29	-	
福祉生活デザイン学科	4	70	-	280	学士 (福祉生活 デザイン)	0.61	-	平成29	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	
心理学科	4	100	-	400	学士 (心理学)	0.68	-	平成29	同上	
こども教育学科	4	70	-	280	学士 (こども教 育)	0.76	-	平成29	同上	
大学全体	4	370	5	1490	-	0.76	-	-	-	
大学 の 名 称	京都ノートルダム女子大学大学院									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
(修士課程) 人間文化研究科	2	17	-	34	-	0.20	-	平成14	-	
応用英語専攻	2	8	-	16	修士 (応用英 語)	0.00	-	平成14	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	
生活福祉文化専攻	2	6	-	12	修士 (生活福祉 文化)	0.24	-	平成16	同上	
人間文化専攻	2	3	-	6	修士 (人間文 化)	0.16	-	平成17	同上	

(博士前期課程)											
心理学研究科	2	15	-	30	-	0.60	-	平成17	-		
発達・学校心理学専攻	2	5	-	10	修士 (心理)	0.20	-	平成17	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地	平成30年度定員変 更(Δ3)	
臨床心理学専攻	2	10	-	20	修士 (心理)	1.00	-	平成17	同上	平成30年度定員変 更(3)	
大学院(修士・前期)全体	2	32	-	64	-	0.40	-	-	-		
(博士後期課程)											
心理学研究科	3	4	-	12	博士 (心理)	0.08	-	平成17	-		
心理学専攻	3	4	-	12	博士 (心理)	0.08	-	平成17	京都府京都市左京区 下鴨南野々神町1番 地		
大学院(後期)全体	3	4	-	12	-	0.08	-	-	-		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<現代人間学部 こども教育学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成29年度】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	工藤 哲夫 (59) <平成29年4月> 教育学修士	現代社会とこども※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 教育の方法と技術 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 教職実践演習(幼・小) 国語 国語科指導法 アクティブラーニングの指導法 学習デザイン論 こども教育演習 卒業論文	専	教授	工藤 哲夫 (59) <平成29年4月> 教育学修士	現代社会とこども※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 教育の方法と技術 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 教職実践演習(幼・小) 国語 国語科指導法 アクティブラーニングの指導法 学習デザイン論 こども教育演習 卒業論文	専	教授	渡邊 寿典 (67) <平成30年4月> 博士(教育学)	現代社会とこども※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 教職実践演習(幼・小) 国語 国語科指導法
専	教授	萩原 暢子 (62) <平成29年4月> 医学博士	身近な医学※ 病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 こどもの保健Ⅰ こどもの保健Ⅱ こどもの保健演習 保育表現演習Ⅰ 保育表現演習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ-1 保育実習指導Ⅱ-1 保育実習指導Ⅱ-2 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ-1 保育実習Ⅰ-2 病弱者の心理・生理・病理※ こども教育演習 卒業論文	専	教授	萩原 暢子 (62) <平成29年4月> 医学博士	身近な医学※ 病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 こどもの保健Ⅰ こどもの保健Ⅱ こどもの保健演習 保育表現演習Ⅰ 保育表現演習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ-1 保育実習指導Ⅱ-1 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ-1 保育実習Ⅰ-2 病弱者の心理・生理・病理※ こども教育演習 卒業論文	専	教授	萩原 暢子 (65) <平成29年4月> 医学博士	身近な医学※ 病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 こどもの保健Ⅰ こどもの保健Ⅱ こどもの保健演習 保育表現演習Ⅰ 保育表現演習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ-1 保育実習指導Ⅱ-1 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ-1 保育実習Ⅰ-2 病弱者の心理・生理・病理※ こども教育演習 卒業論文
専	教授	田中 裕喜 (46) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 教育原理 教育と社会 教育課程論 教育実習事前事後指導 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 教職実践演習(幼・小) 保育課程論 保育内容(人間関係) 保育者論 こども教育演習 卒業論文	専	教授	田中 裕喜 (46) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 教育原理 教育と社会 教育課程論 教育実習事前事後指導 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 教職実践演習(幼・小) 保育課程論 保育内容(人間関係) 保育者論 こども教育演習 卒業論文	専	教授	田中 裕喜 (47) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 教育原理 教育と社会 教育課程論 教育実習事前事後指導 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 教職実践演習(幼・小) 保育課程論 保育内容(人間関係) 保育者論 こども教育演習 卒業論文
専	教授	東道 伸二郎 (67) <平成29年4月> 医学博士	こども教育基礎演習 知的障害者の心理・生理・病理※ 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理※ 聴覚障害者の心理・生理・病理※	専	教授	東道 伸二郎 (68) <平成29年4月> 医学博士	こども教育基礎演習 知的障害者の心理・生理・病理※ 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理※ 聴覚障害者の心理・生理・病理※	専	教授	東道 伸二郎 (69) <平成29年4月> 医学博士	こども教育基礎演習 知的障害者の心理・生理・病理※ 肢体不自由者の心理・生理・病理※ 病弱者の心理・生理・病理※ 聴覚障害者の心理・生理・病理※
専	准教授	神月 紀輔 (51) <平成29年4月> 修士(教育学)	情報科学 こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 教育実習事前事後指導 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 算数 情報教育 算教科指導法 こども情報リテラシー こども教育演習 卒業論文	専	准教授	神月 紀輔 (52) <平成29年4月> 修士(教育学)	情報科学 こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 教育実習事前事後指導 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 算数 情報教育 算教科指導法 こども情報リテラシー こども教育演習 卒業論文	専	教授	神月 紀輔 (53) <平成29年4月> 修士(教育学)	情報科学 こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 教育の方法と技術 教育実習事前事後指導 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 算数 情報教育 算教科指導法 こども情報リテラシー こども教育演習 卒業論文

		<p>品山 寛 (44) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 こどもの教育心理学 こどもの発達心理学 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 保育・教職実践演習 障害児保育 保育表現演習Ⅰ 保育表現演習Ⅱ 保育心理学演習 保育実習指導Ⅰ-1 保育実習指導Ⅰ-2 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ-1 保育実習Ⅰ-2 保育実習Ⅱ 基礎統計学 こども教育演習 卒業論文</p>			<p>品山 寛 (45) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 こどもの教育心理学 こどもの発達心理学 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 保育・教職実践演習 障害児保育 保育表現演習Ⅰ 保育表現演習Ⅱ 保育心理学演習 保育実習指導Ⅰ-1 保育実習指導Ⅰ-2 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ-1 保育実習Ⅰ-2 保育実習Ⅱ 基礎統計学 こども教育演習 卒業論文</p>		<p>品山 寛 (46) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 こどもの教育心理学 こどもの発達心理学 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 保育・教職実践演習 障害児保育 保育表現演習Ⅰ 保育表現演習Ⅱ 保育心理学演習 保育実習指導Ⅰ-1 保育実習指導Ⅰ-2 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ-1 保育実習Ⅰ-2 保育実習Ⅱ 基礎統計学 こども教育演習 卒業論文</p>		<p>品山 寛 (47) <平成29年4月> 博士(教育学)</p> <p>病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 こどもの教育心理学 こどもの発達心理学 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 保育・教職実践演習 障害児保育 保育表現演習Ⅰ 保育表現演習Ⅱ 保育心理学演習 保育実習指導Ⅰ-1 保育実習指導Ⅰ-2 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ-1 保育実習Ⅰ-2 保育実習Ⅱ 基礎統計学 こども教育演習 卒業論文</p>
		<p>藤本(下村)陽三 (62) <平成29年4月> 教育学士</p> <p>こどもと自然 こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 教職実践演習(幼・小) 教職専門ゼミナール 図工Ⅰ 図工Ⅱ 図工科指導法 小学校表現活動論</p>			<p>藤本(下村)陽三 (63) <平成29年4月> 教育学士</p> <p>こどもと自然 こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 教職実践演習(幼・小) 教職専門ゼミナール 保育内容(教職)※ 図工Ⅰ 図工Ⅱ 図工科指導法 小学校表現活動論</p>		<p>藤本(下村)陽三 (64) <平成29年4月> 教育学士</p> <p>こどもと自然 こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 教職実践演習(幼・小) 教職専門ゼミナール 保育内容(教職)※ 図工Ⅰ 図工Ⅱ 図工科指導法 小学校表現活動論</p>		<p>藤本(下村)陽三 (65) <平成29年4月> 教育学士</p> <p>こどもと自然 こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 教職実践演習(幼・小) 教職専門ゼミナール 保育内容(教職)※ 図工Ⅰ 図工Ⅱ 図工科指導法 小学校表現活動論</p>
		<p>太田 容次 (52) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 知的障害者教育論Ⅰ 知的障害者教育論Ⅱ 肢体不自由者教育論Ⅰ 肢体不自由者教育論Ⅱ 特別支援教育実習事前事後指導 特別支援教育実習 介護等体験 こども教育演習 卒業論文</p>			<p>太田 容次 (53) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 知的障害者教育論Ⅰ 知的障害者教育論Ⅱ 肢体不自由者教育論Ⅰ 肢体不自由者教育論Ⅱ 特別支援教育実習事前事後指導 特別支援教育実習 介護等体験 こども教育演習 卒業論文</p>		<p>太田 容次 (54) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 知的障害者教育論Ⅰ 知的障害者教育論Ⅱ 肢体不自由者教育論Ⅰ 肢体不自由者教育論Ⅱ 特別支援教育実習事前事後指導 特別支援教育実習 介護等体験 こども教育演習 卒業論文</p>		<p>太田 容次 (55) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 特別支援教育(初等) 知的障害者教育論Ⅰ 知的障害者教育論Ⅱ 肢体不自由者教育論Ⅰ 肢体不自由者教育論Ⅱ 特別支援教育実習事前事後指導 特別支援教育実習 介護等体験 こども教育演習 卒業論文</p>
		<p>大西 慎也 (44) <平成29年4月> 修士(学校教育学)</p> <p>こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 教育評価 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 生活※ 社会科指導法 生活科指導法※ 社会 総合的な学習の指導法 初等教材開発論 こども教育演習 卒業論文</p>			<p>大西 慎也 (44) <平成29年4月> 博士(学校教育学)</p> <p>こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 教育評価 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 生活※ 社会科指導法 生活科指導法※ 社会 総合的な学習の指導法 初等教材開発論 こども教育演習 卒業論文</p>		<p>大西 慎也 (45) <平成30年4月> 博士(学校教育学)</p> <p>こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 教育評価 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 生活※ 社会科指導法 生活科指導法※ 社会 総合的な学習の指導法 アクティブラーニングの指導法 学習デザイン論 初等教材開発論 こども教育演習 卒業論文</p>		<p>大西 慎也 (45) <平成30年4月> 博士(学校教育学)</p> <p>こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 教育評価 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 生活※ 社会科指導法 生活科指導法※ 社会 総合的な学習の指導法 アクティブラーニングの指導法 学習デザイン論 初等教材開発論 こども教育演習 卒業論文</p>
		<p>住本 純 (33) <平成29年4月> 修士(体育学)</p> <p>体育講義 健康スポーツ演習 こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 体育Ⅰ 体育Ⅱ 体育科指導法 小学校表現活動論 こども教育演習 卒業論文</p>			<p>住本 純 (34) <平成29年4月> 修士(体育学)</p> <p>体育講義 健康スポーツ演習 こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 体育Ⅰ 体育Ⅱ 体育科指導法 小学校表現活動論 こども教育演習 卒業論文</p>		<p>住本 純 (35) <平成30年4月> 修士(体育学)</p> <p>体育講義 健康スポーツ演習 こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 体育Ⅰ 体育Ⅱ 食と健康の教育 体育科指導法 小学校表現活動論 こども教育演習 卒業論文</p>		<p>住本 純 (36) <平成30年4月> 修士(体育学)</p> <p>体育講義 健康スポーツ演習 こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 体育Ⅰ 体育Ⅱ 食と健康の教育 体育科指導法 小学校表現活動論 こども教育演習 卒業論文</p>
		<p>伊藤 一美 (48) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>現代社会と高齢者※ 病児の発達と支援※</p>			<p>伊藤 一美 (49) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>現代社会と高齢者※ 病児の発達と支援※</p>		<p>伊藤 一美 (50) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>現代社会と高齢者※ 病児の発達と支援※</p>		<p>伊藤 一美 (51) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>現代社会と高齢者※ 病児の発達と支援※</p>
		<p>岩崎(馬詰)れい (49) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>子育てとワークライフバランス 病児の発達と支援※ 子どもの読書とメディア 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性</p>			<p>岩崎(馬詰)れい (49) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>子育てとワークライフバランス 病児の発達と支援※ 子どもの読書とメディア 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性</p>		<p>岩崎(馬詰)れい (50) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>子育てとワークライフバランス 病児の発達と支援※ 子どもの読書とメディア 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性</p>		<p>岩崎(馬詰)れい (51) <平成29年4月> 修士(教育学)</p> <p>子育てとワークライフバランス 病児の発達と支援※ 子どもの読書とメディア 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性</p>
		<p>上田 恵津子 (56) <平成30年10月> 教育学修士</p> <p>学習の心理学</p>			<p>上田 恵津子 (56) <平成30年10月> 教育学修士</p> <p>学習の心理学</p>		<p>上田 恵津子 (56) <平成30年10月> 教育学修士</p> <p>学習の心理学</p>		<p>上田 恵津子 (56) <平成30年10月> 教育学修士</p> <p>学習の心理学</p>
		<p>牛田 好美 (57) <平成30年4月> 博士(社会学)</p> <p>こどもと子育ての 生活環境学※</p>			<p>牛田 好美 (57) <平成30年4月> 博士(社会学)</p> <p>こどもと子育ての 生活環境学※</p>		<p>牛田 好美 (59) <平成30年4月> 博士(社会学)</p> <p>こどもと子育ての 生活環境学※</p>		<p>牛田 好美 (60) <平成30年4月> 博士(社会学)</p> <p>こどもと子育ての 生活環境学※</p>
		<p>加藤 佐千子 (59) <平成29年4月></p>			<p>加藤 佐千子 (59) <平成29年4月></p>		<p>加藤 佐千子 (60) <平成29年4月></p>		<p>加藤 佐千子 (61) <平成29年4月></p>

		博士(老年学) 現代社会と高齢者※			博士(老年学) 現代社会と高齢者※			博士(老年学) 現代社会と高齢者※			博士(老年学) 現代社会と高齢者※
兼任	教授	河瀬 雅紀 (57) <平成29年4月> 医学博士	兼任	教授	河瀬 雅紀 (58) <平成29年4月> 医学博士	兼任	教授	河瀬 雅紀 (59) <平成29年4月> 医学博士	兼任	教授	河瀬 雅紀 (60) <平成29年4月> 医学博士
		身近な医学※ 現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※			身近な医学※ 現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※			身近な医学※ 現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※			身近な医学※ 現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※
兼任	教授	朱(佐藤) 鳳 (54) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)	兼任	教授	朱(佐藤) 鳳 (54) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)	兼任	教授	朱(佐藤) 鳳 (55) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)	兼任	教授	朱(佐藤) 鳳 (56) <平成29年4月> 博士(人間・環境学)
		中国語 I 中国語 II 中国語 III 海外研修(語学) I			中国語 I 中国語 II 中国語 III 海外研修(語学) I			中国語 I 中国語 II 中国語 III 海外研修(語学) I			中国語 I 中国語 II 中国語 III 海外研修(語学) I
兼任	教授	須川 いずみ (61) <平成29年4月> 文学修士	兼任	教授	須川 いずみ (62) <平成29年4月> 文学修士						
		海外研修(語学) II a 海外研修(語学) II b			海外研修(語学) II a 海外研修(語学) II b						
兼任	教授	鷺見 朗子 (53) <平成29年10月> Ph. D. in literature(米国)	兼任	教授	鷺見 朗子 (54) <平成29年10月> Ph. D. in literature(米国)	兼任	教授	鷺見 朗子 (55) <平成29年10月> Ph. D. in literature(米国)	兼任	教授	鷺見 朗子 (56) <平成29年10月> Ph. D. in literature(米国)
		外国文学 アラビア語			外国文学 アラビア語			外国文学 アラビア語			外国文学 アラビア語
兼任	教授	高井 直美 (58) <平成29年4月> 文学修士	兼任	教授	高井 直美 (58) <平成29年4月> 文学修士	兼任	教授	高井 直美 (59) <平成29年4月> 文学修士	兼任	教授	高井 直美 (60) <平成29年4月> 文学修士
		身近な心理学 こどもと自然 現代社会とこども※ 保育相談支援			身近な心理学 こどもと自然 現代社会とこども※ 保育相談支援 幼児理解の理論と方法※			身近な心理学 こどもと自然 現代社会とこども※ 保育相談支援 心理学統計法 I 心理学統計法 II			こどもと自然 現代社会とこども※ 保育相談支援 心理学統計法 I 心理学統計法 II
兼任	教授	竹原 広美 (53) <平成30年4月> 博士(学術)	兼任	教授	竹原 広美 (53) <平成30年4月> 博士(学術)	兼任	教授	竹原 広美 (54) <平成30年4月> 博士(学術)	兼任	教授	竹原 広美 (55) <平成30年4月> 博士(学術)
		こどもと子育ての生活環境学※			こどもと子育ての生活環境学※			こどもと子育ての生活環境学※			こどもと子育ての生活環境学※
兼任	教授	中村 久美 (57) <平成30年4月> 博士(学術)	兼任	教授	中村 久美 (58) <平成30年4月> 博士(学術)	兼任	教授	中村 久美 (59) <平成30年4月> 博士(学術)	兼任	教授	中村 久美 (60) <平成30年4月> 博士(学術)
		こどもと子育ての生活環境学※			こどもと子育ての生活環境学※			こどもと子育ての生活環境学※			こどもと子育ての生活環境学※
兼任	教授	廣瀬 直哉 (50) <平成29年10月> 修士(教育学)	兼任	教授	廣瀬 直哉 (50) <平成29年10月> 修士(教育学)	兼任	教授	廣瀬 直哉 (51) <平成29年10月> 修士(教育学)	兼任	教授	廣瀬 直哉 (51) <平成29年10月> 修士(教育学)
		暮らしの統計学			暮らしの統計学			学習の心理学			学習の心理学
兼任	教授	藤原 智子 (54) <平成29年4月> 博士(学術)	兼任	教授	藤原 智子 (55) <平成29年4月> 博士(学術)	兼任	教授	藤原 智子 (56) <平成29年4月> 博士(学術)	兼任	教授	藤原 智子 (57) <平成29年4月> 博士(学術)
		こどもと子育ての生活環境学※ 海外研修(生活と社会)			こどもと子育ての生活環境学※ 海外研修(生活と社会)			こどもと子育ての生活環境学※ 海外研修(生活と社会)			こどもと子育ての生活環境学※ 海外研修(生活と社会)
兼任	教授	三好 明夫 (50) <平成29年4月> 博士(社会福祉学)	兼任	教授	三好 明夫 (50) <平成29年4月> 博士(社会福祉学)	兼任	教授	三好 明夫 (61) <平成29年4月> 博士(社会福祉学)	兼任	教授	三好 明夫 (61) <平成29年4月> 博士(社会福祉学)
		現代社会と病者・障がい者※			現代社会と病者・障がい者※			現代社会と病者・障がい者※			現代社会と病者・障がい者※
兼任	教授	向山 泰代 (54) <平成29年4月> 博士(人間科学)	兼任	教授	向山 泰代 (54) <平成29年4月> 博士(人間科学)	兼任	教授	向山 泰代 (55) <平成29年4月> 博士(人間科学)	兼任	教授	向山 泰代 (56) <平成29年4月> 博士(人間科学)
		現代社会と女性・家族※			現代社会と女性・家族※			現代社会と女性・家族※			現代社会と女性・家族※
兼任	教授	吉田 智子 (54) <平成29年4月> 博士(社会学)	兼任	教授	吉田 智子 (55) <平成29年4月> 博士(社会学)	兼任	教授	吉田 智子 (56) <平成29年4月> 博士(社会学)	兼任	教授	吉田 智子 (57) <平成29年4月> 博士(社会学)
		情報科学入門 情報演習 I 情報演習 II 情報処理			情報科学入門 情報演習 I 情報演習 II 情報処理	兼任	教授	情報科学入門 情報演習 I 情報演習 II 情報処理 キャリア形成ゼミ 海外インターンシップ ノートルダム学	兼任	教授	情報科学入門 情報演習 I 情報演習 II 情報処理 キャリア形成ゼミ 海外インターンシップ ノートルダム学
			兼任	教授	重田 保夫 (69) <平成29年4月> 博士(社会福祉学)	兼任	教授	重田 保夫 (69) <平成29年4月> 博士(社会福祉学)	兼任	教授	重田 保夫 (70) <平成29年4月> 博士(社会福祉学)
					現代社会と福祉 I 現代社会と福祉 II			現代社会と福祉 I 現代社会と福祉 II			現代社会と福祉 I 現代社会と福祉 II
兼任	准教授	尾崎(湯川)仁美 (45) <平成30年4月> 博士(人間科学)	兼任	准教授	尾崎(湯川)仁美 (46) <平成30年4月> 博士(人間科学)	兼任	准教授	尾崎(湯川)仁美 (47) <平成30年4月> 博士(人間科学)	兼任	准教授	尾崎(湯川)仁美 (47) <平成30年4月> 博士(人間科学)
		推測統計学 I 推測統計学 II			推測統計学 I 推測統計学 II			推測統計学 I 推測統計学 II			推測統計学 I 推測統計学 II
兼任	准教授	久野 将健 (51) <平成29年4月> 博士(芸術学)	兼任	准教授	久野 将健 (51) <平成29年4月> 博士(芸術学)	兼任	准教授	久野 将健 (52) <平成29年4月> 博士(芸術学)	兼任	教授	久野 将健 (53) <平成29年4月> 博士(芸術学)
		キリスト教音楽入門 キリスト教音楽			キリスト教音楽入門 キリスト教音楽			キリスト教音楽入門 キリスト教音楽			キリスト教音楽入門 キリスト教音楽

		<p>藤田 未央 (46) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）</p>			<p>藤田 未央 (46) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）</p>			<p>藤田 未央 (47) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）</p>			<p>藤田 未央 (48) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）</p>
兼任	准教授	<p>こどもと自然 病児の発達と支援※ 教育相談の理論と方法 障害児・者の心理学</p>	兼任	准教授	<p>こどもと自然 病児の発達と支援※ 教育相談の理論と方法 障害児・者の心理学 幼児理解の理論と方法※</p>	兼任	准教授	<p>こどもと自然 病児の発達と支援※ 教育相談の理論と方法 障害児・者の心理学 幼児理解の理論と方法※</p>	兼任	准教授	<p>こどもと自然 病児の発達と支援※ 教育相談の理論と方法 障害児・者の心理学 幼児理解の理論と方法※</p>
兼任	准教授	<p>酒井 久美子 (54) ＜平成29年4月＞ 修士（社会福祉学）</p>	兼任	准教授	<p>酒井 久美子 (54) ＜平成29年4月＞ 修士（社会福祉学）</p>	兼任	准教授	<p>酒井 久美子 (55) ＜平成29年4月＞ 修士（社会福祉学）</p>	兼任	准教授	<p>酒井 久美子 (56) ＜平成29年4月＞ 修士（社会福祉学）</p>
		<p>海外研修（生活と社会） 現代社会と病者・障がい者※ 地域福祉論Ⅰ</p>			<p>海外研修（生活と社会） 現代社会と病者・障がい者※ 地域福祉論Ⅰ</p>			<p>海外研修（生活と社会） 現代社会と病者・障がい者※ 地域福祉論Ⅰ</p>			<p>海外研修（生活と社会） 現代社会と病者・障がい者※ 地域福祉論Ⅰ</p>
兼任	准教授	<p>佐藤 睦子 (55) ＜平成31年4月＞ 教育学修士</p>	兼任	准教授	<p>佐藤 睦子 (56) ＜平成31年4月＞ 教育学修士</p>	兼任	准教授	<p>佐藤 睦子 (57) ＜平成31年4月＞ 教育学修士</p>	兼任	准教授	<p>佐藤 睦子 (58) ＜平成31年4月＞ 教育学修士</p>
		<p>スクールカウンセリング論</p>			<p>スクールカウンセリング論</p>			<p>スクールカウンセリング論</p>			<p>スクールカウンセリング論</p>
兼任	准教授	<p>東郷 多津 (53) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）</p>	兼任	准教授	<p>東郷 多津 (54) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）</p>	兼任	准教授	<p>東郷 多津 (54) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）</p>	兼任	准教授	<p>東郷 多津 (55) ＜平成29年4月＞ 修士（教育学）</p>
		<p>英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ</p>			<p>英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ</p>			<p>英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ 海外研修（語学）Ⅱa 海外研修（語学）Ⅱb</p>			<p>英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ 海外研修（語学）Ⅱa 海外研修（語学）Ⅱb</p>
		<p>英語リスニング初級 英語リスニング中級 インターンシップ 教育の方法及び技術 教職実践演習（中・高）</p>			<p>英語リスニング初級 英語リスニング中級 インターンシップ 教育の方法及び技術 教職実践演習（中・高）</p>			<p>英語リスニング初級 英語リスニング中級 インターンシップ 教育の方法及び技術 教職実践演習（中・高）</p>			<p>英語リスニング初級 英語リスニング中級 インターンシップ 教育の方法及び技術 教職実践演習（中・高）</p>
											<p>濱中 俊秀 (43) ＜平成31年4月＞ 学士（経済）</p>
											<p>兼任 講師</p>
											<p>インターンシップ キャリア形成</p>
兼任	准教授	<p>長沼 光彦 (53) ＜平成29年4月＞ 博士（文学）</p>	兼任	准教授	<p>長沼 光彦 (54) ＜平成29年4月＞ 博士（文学）</p>	兼任	教授	<p>長沼 光彦 (55) ＜平成29年4月＞ 博士（文学）</p>			
		<p>日本文学 ホスピタリティ京都</p>			<p>日本文学 ホスピタリティ京都</p>			<p>ホスピタリティ京都</p>			
											<p>兼任 講師</p>
											<p>吉澤 健吉 (70) ＜平成31年4月＞ 文学士</p>
											<p>ホスピタリティ京都</p>
											<p>兼任 講師</p>
											<p>武田 悠希 (32) ＜平成30年4月＞ 博士（文学）</p>
											<p>兼任 講師</p>
											<p>日本文学</p>
兼任	准教授	<p>平野 美保 (45) ＜平成30年4月＞ 博士（教育）</p>	兼任	准教授	<p>平野 美保 (50) ＜平成30年4月＞ 博士（教育）</p>						
		<p>キャリア形成 キャリア形成ゼミ</p>			<p>キャリア形成 キャリア形成ゼミ</p>						
											<p>兼任 講師</p>
											<p>荒尾 千寿 (61) ＜平成30年4月＞ 修士（政策科学）</p>
											<p>兼任 講師</p>
											<p>キャリア形成</p>
兼任	准教授	<p>吉田(小野澤) 朋子 (45) ＜平成30年10月＞ 修士（文学）</p>	兼任	准教授	<p>吉田(小野澤) 朋子 (45) ＜平成30年10月＞ 修士（文学）</p>	兼任	准教授	<p>吉田 朋子 (46) ＜平成30年10月＞ 修士（文学）</p>	兼任	准教授	<p>吉田 朋子 (47) ＜平成30年10月＞ 修士（文学）</p>
		<p>キリスト教美術</p>			<p>キリスト教美術</p>			<p>キリスト教美術</p>			<p>キリスト教美術</p>
兼任	講師	<p>青木(高柴) 加奈子 (38) ＜平成29年4月＞ 博士（学術）</p>	兼任	講師	<p>青木(高柴) 加奈子 (39) ＜平成29年4月＞ 博士（学術）</p>	兼任	講師	<p>青木(高柴) 加奈子 (40) ＜平成29年4月＞ 博士（学術）</p>	兼任	講師	<p>青木(高柴) 加奈子 (41) ＜平成29年4月＞ 博士（学術）</p>
		<p>女性とライフキャリア 現代社会と女性・家族※</p>			<p>女性とライフキャリア 現代社会と女性・家族※</p>			<p>女性とライフキャリア 現代社会と女性・家族※</p>			<p>女性とライフキャリア 現代社会と女性・家族※</p>
兼任	講師	<p>辻 敦子 (41) ＜平成31年10月＞ 修士（教育学）</p>	兼任	講師	<p>辻 敦子 (42) ＜平成31年10月＞ 修士（教育学）</p>	兼任	講師	<p>辻 敦子 (43) ＜平成31年10月＞ 修士（教育学）</p>	兼任	講師	<p>辻 敦子 (44) ＜平成31年10月＞ 修士（教育学）</p>
		<p>教育史</p>			<p>教育史</p>			<p>教育史</p>			<p>教育史</p>
兼任	講師	<p>中里 郁子 (52) ＜平成29年4月＞ Doctorate of Sacred Theology (パチカン)</p>	兼任	講師	<p>中里 郁子 (52) ＜平成29年4月＞ Doctorate of Sacred Theology (パチカン)</p>	兼任	准教授	<p>中里 郁子 (53) ＜平成29年4月＞ Doctorate of Sacred Theology (パチカン)</p>	兼任	准教授	<p>中里 郁子 (54) ＜平成29年4月＞ Doctorate of Sacred Theology (パチカン)</p>
		<p>キリスト教入門 聖書と文化</p>			<p>キリスト教入門 聖書と文化</p>			<p>キリスト教入門 聖書と文化</p>			<p>キリスト教入門 聖書と文化</p>
兼任	講師	<p>矢島 雅子 (38) ＜平成30年10月＞ 修士（文学）</p>	兼任	講師	<p>矢島 雅子 (39) ＜平成30年10月＞ 修士（文学）</p>	兼任	講師	<p>矢島 雅子 (40) ＜平成30年10月＞ 修士（文学）</p>	兼任	講師	<p>矢島 雅子 (41) ＜平成30年10月＞ 修士（文学）</p>
		<p>家族援助論 相談援助演習 介護等体験</p>			<p>家族援助論 相談援助演習 介護等体験</p>			<p>家族援助論 相談援助演習 介護等体験</p>			<p>家族援助論 相談援助演習 介護等体験</p>
兼任	講師	<p>York Weatherford (49) ＜平成30年4月＞ M. A. (TESOL) (米園)</p>	兼任	講師	<p>York Weatherford (50) ＜平成30年4月＞ M. A. (TESOL) (米園)</p>	兼任	講師	<p>York Weatherford (51) ＜平成30年4月＞ M. A. (TESOL) (米園)</p>	兼任	准教授	<p>York Weatherford (52) ＜平成30年4月＞ M. A. (TESOL) (米園)</p>
		<p>読むための英語 アカデミック英語</p>			<p>読むための英語 アカデミック英語</p>			<p>読むための英語 アカデミック英語</p>			<p>読むための英語 アカデミック英語</p>
											<p>兼任 講師</p>
											<p>相澤 雅文 (56) ＜平成29年4月＞ 博士（教育学）</p>
											<p>兼任 講師</p>
											<p>特別支援教育基礎理論※ LD等教育総論※</p>
											<p>兼任 講師</p>
											<p>相澤 雅文 (57) ＜平成29年4月＞ 博士（教育学）</p>
											<p>兼任 講師</p>
											<p>特別支援教育基礎理論※ LD等教育総論※</p>
											<p>兼任 講師</p>
											<p>相澤 雅文 (58) ＜平成29年4月＞ 博士（教育学）</p>
											<p>兼任 講師</p>
											<p>特別支援教育基礎理論※ LD等教育総論※</p>

兼任 講師	工藤 春代 (41) <平成31年4月> 博士(農学)	兼任 講師	工藤 春代 (41) <平成31年4月> 博士(農学)				
	消費者教育		消費者教育				
兼任 講師	久保 圭 (32) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	兼任 講師	久保 圭 (33) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	兼任 講師	鬼頭 弥生 (35) <平成31年4月> 博士(農学)	兼任 講師	鬼頭 弥生 (36) <平成31年4月> 博士(農学)
	文章表現法		文章表現法		消費者教育		消費者教育
兼任 講師	黒田 一平 (29) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	兼任 講師	黒田 一平 (29) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	兼任 講師	久保 圭 (34) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	兼任 講師	田丸 歩実 (28) <平成31年4月> 修士(人間・環境学)
	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ		英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ 英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ		文章表現法		文章表現法
兼任 講師	小島 秀信 (39) <平成29年10月> 博士(経済学)	兼任 講師	小島 秀信 (39) <平成29年10月> 博士(経済学)				
	暮らしの経済学		暮らしの経済学				
兼任 講師	柴 礼敬 (62) <平成29年4月> 修士(文学)	兼任 講師	柴 礼敬 (62) <平成29年4月> 修士(文学)	兼任 講師	百木 瑛 (35) <平成30年10月> 博士(人間・環境学)	兼任 講師	百木 瑛 (36) <平成30年10月> 博士(人間・環境学)
	中国語Ⅰ		中国語Ⅰ		暮らしの経済学		暮らしの経済学
兼任 講師	坂本 優一郎 (46) <平成29年10月> 修士(文学)	兼任 講師	陶 益 (37) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)	兼任 講師	柴 礼敬 (64) <平成29年4月> 修士(文学)	兼任 講師	柴 礼敬 (64) <平成29年4月> 修士(文学)
	ヨーロッパ近現代史		中国語Ⅰ		中国語Ⅰ		中国語Ⅰ
兼任 講師	菅岡 隆甫 (42) <平成30年4月> 修士(工学)	兼任 講師	森本 慶太 (36) <平成29年10月> 博士(文学)	兼任 講師	陶 益 (37) <平成29年4月> 修士(工学)	兼任 講師	陶 益 (38) <平成29年4月> 修士(人間・環境学)
	ホスピタリティ京都		ヨーロッパ近現代史		中国語Ⅰ		中国語Ⅰ
兼任 講師	須藤 英幸 (50) <平成30年4月> 博士(文学)	兼任 講師	菅岡 隆甫 (42) <平成30年4月> 修士(工学)	兼任 講師	須藤 英幸 (51) <平成30年4月> 博士(文学)	兼任 講師	上山 恭己 (48) <平成30年10月> 修士(文学)
	キリスト教思想		ホスピタリティ京都		キリスト教思想		ヨーロッパ近現代史
兼任 講師	芹澤 出 (55) <平成30年10月> 社会学士	兼任 講師	須藤 英幸 (50) <平成30年4月> 博士(文学)	兼任 講師	芹澤 出 (56) <平成30年10月> 社会学士	兼任 講師	菅岡 隆甫 (44) <平成30年4月> 修士(工学)
	社会的養護		キリスト教思想		社会的養護		ホスピタリティ京都
兼任 講師	高岸 雅子 (58) <平成29年4月> 修士(アメリカ研究)	兼任 講師	芹澤 出 (55) <平成30年10月> 社会学士	兼任 講師	高岸 雅子 (60) <平成29年4月> 修士(アメリカ研究)	兼任 講師	須藤 英幸 (52) <平成30年4月> 博士(文学)
	日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ		社会的養護		日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ		キリスト教思想
兼任 講師	橋 健一 (52) <平成29年10月> 博士(学術)	兼任 講師	高岸 雅子 (59) <平成29年4月> 修士(アメリカ研究)	兼任 講師	高岸 雅子 (61) <平成29年4月> 修士(アメリカ研究)	兼任 講師	芹澤 出 (57) <平成30年10月> 社会学士
	文化人類学		日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ		日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ		社会的養護
兼任 講師	田中 貴子 (61) <平成30年4月> 修士(外国語教育学)	兼任 講師	橋 健一 (52) <平成29年10月> 博士(学術)	兼任 講師	田中 貴子 (62) <平成30年4月> 修士(外国語教育学)	兼任 講師	高岸 雅子 (61) <平成29年4月> 修士(アメリカ研究)
	日本語特講Ⅰ		文化人類学		日本語特講Ⅰ		日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ
兼任 講師	田中 敏彦 (64) <平成29年10月> 文学修士	兼任 講師	田中 貴子 (61) <平成30年4月> 修士(外国語教育学)	兼任 講師	田中 敏彦 (65) <平成29年10月> 文学修士	兼任 講師	橋 健一 (54) <平成29年10月> 博士(学術)
	フランス語		日本語特講Ⅰ		フランス語		文化人類学
兼任 講師	田中 文昭 (47) <平成30年4月> 修士(学校教育学)	兼任 講師	田中 敏彦 (64) <平成29年10月> 文学修士	兼任 講師	田中 文昭 (48) <平成30年4月> 修士(学校教育学)	兼任 講師	田中 貴子 (63) <平成30年4月> 修士(外国語教育学)
	保育内容(環境) 保育内容(言葉)		フランス語		保育内容(環境) 保育内容(言葉)		日本語特講Ⅰ
兼任 講師	田中 文昭 (47) <平成30年4月> 修士(学校教育学)	兼任 講師	田中 文昭 (47) <平成30年4月> 修士(学校教育学)	兼任 講師	田中 文昭 (49) <平成30年4月> 修士(学校教育学)	兼任 講師	田中 敏彦 (66) <平成29年10月> 文学修士
	保育内容(環境) 保育内容(言葉)		保育内容(環境) 保育内容(言葉)		保育内容(環境) 保育内容(言葉)		フランス語
兼任 講師	田中 祐子 (37) <平成31年4月> 博士(文学)						田中 文昭 (49) <平成30年4月> 修士(学校教育学)
	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ						田中 祐子 (37) <平成31年4月> 博士(文学)

兼任 講師	田中 美和子 (55) <平成29年4月> 博士 (英語学)					兼任 講師	田中 美和子 (58) <平成31年4月> 博士 (英語学)
	英語総合 I 英語総合 II 実用英語基礎 身近な英文法						英語総合 I 英語総合 II
		兼任 学長	眞田 雅子 (74) <平成29年4月> 言語学博士				
			英語総合 I 英語総合 II				
				兼任 講師	Daniel Pearce (31) <平成30年4月> 修士 (人間・環境学)	兼任 講師	Daniel Pearce (32) <平成30年4月> 修士 (人間・環境学)
					英語総合 I 英語総合 II		英語実態 (4技能) I 英語実態 (4技能) II 歌って覚える英語表現 おもてなしの英会話
		兼任 講師	高田 和美 (68) <平成29年4月> 博士 (言語文化学)				
			英語総合 I 英語総合 II				
				兼任 講師	松岡 真由子 (34) <平成30年4月> 修士 (人間・環境学)	兼任 講師	松岡 真由子 (35) <平成30年4月> 修士 (人間・環境学)
					英語総合 I 英語総合 II 実用英語基礎 身近な英文法		英語総合 I 英語総合 II 実用英語基礎 身近な英文法
兼任 講師	田中 良広 (57) <平成31年10月> 修士 (教育学)	兼任 講師	田中 良広 (57) <平成31年10月> 修士 (教育学)	兼任 講師	田中 良広 (58) <平成31年10月> 修士 (教育学)	兼任 講師	田中 良広 (59) <平成31年10月> 修士 (教育学)
	視覚障害者の心理・生理・病理 視覚障害者教育論		視覚障害者の心理・生理・病理 視覚障害者教育論		視覚障害者の心理・生理・病理 視覚障害者教育論		視覚障害者の心理・生理・病理 視覚障害者教育論
兼任 講師	玉井 雅人 (47) <平成29年4月> 博士 (理学)	兼任 講師	玉井 雅人 (47) <平成29年4月> 博士 (理学)	兼任 講師	玉井 雅人 (48) <平成29年4月> 博士 (理学)	兼任 講師	玉井 雅人 (49) <平成29年4月> 博士 (理学)
	地球と宇宙の科学		地球と宇宙の科学		地球と宇宙の科学		地球と宇宙の科学
兼任 講師	大喜 直彦 (56) <平成29年4月> 博士 (文学)	兼任 講師	大喜 直彦 (56) <平成29年4月> 博士 (文学)				
	日本近現代史 日本の宗教		日本近現代史 日本の宗教				
				兼任 講師	小林 龍太 (29) <平成30年4月> 博士 (文学)	兼任 講師	小林 龍太 (30) <平成30年4月> 博士 (文学)
					日本近現代史 日本の宗教		日本近現代史 日本の宗教
兼任 講師	寺西 みどり (63) <平成29年4月> 博士 (教育学)	兼任 講師	寺西 みどり (63) <平成29年4月> 博士 (教育学)	兼任 講師	寺西 みどり (64) <平成29年4月> 博士 (教育学)	兼任 講師	寺西 みどり (65) <平成29年4月> 博士 (教育学)
	歴史の中の女性 英語基礎 I 英語基礎 II		歴史の中の女性 英語基礎 I 英語基礎 II		歴史の中の女性 英語基礎 I 英語基礎 II		歴史の中の女性 英語基礎 I 英語基礎 II
兼任 講師	徳岡 博巳 (64) <平成30年10月> 文学士	兼任 講師	徳岡 博巳 (64) <平成30年10月> 文学士	兼任 講師	徳岡 博巳 (65) <平成30年10月> 文学士	兼任 講師	徳岡 博巳 (66) <平成30年10月> 文学士
	社会的養護内容		社会的養護内容		社会的養護内容		社会的養護内容
兼任 講師	豊田 陽介 (39) <平成29年10月> 修士 (社会学)	兼任 講師	豊田 陽介 (39) <平成29年10月> 修士 (社会学)	兼任 講師	豊田 陽介 (40) <平成29年10月> 修士 (社会学)	兼任 講師	豊田 陽介 (41) <平成29年10月> 修士 (社会学)
	環境学概論		環境学概論		環境学概論		環境学概論
				兼任 講師	鳥越 隆志 (61) <平成29年10月> 博士 (心理学)	兼任 講師	鳥越 隆志 (62) <平成29年10月> 博士 (心理学)
					聴覚障害者教育論※		聴覚障害者教育論※
兼任 講師	中村 央希 (33) <平成29年4月> 修士 (応用英語)	兼任 講師	岡崎 央希 (33) <平成29年4月> 修士 (応用英語)	兼任 講師	岡崎 央希 (34) <平成29年4月> 修士 (応用英語)	兼任 講師	岡崎 央希 (35) <平成29年4月> 修士 (応用英語)
	英語総合 I 英語総合 II		英語総合 I 英語総合 II		英語総合 I 英語総合 II		英語総合 I 英語総合 II
兼任 講師	中村 亮太 (35) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)	兼任 講師	中村 亮太 (35) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)	兼任 講師	中村 亮太 (36) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)	兼任 講師	中村 亮太 (37) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)
	情報処理		情報処理		情報処理		情報処理
兼任 講師	西尾 純子 (55) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)	兼任 講師	西尾 純子 (55) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)	兼任 講師	西尾 純子 (56) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)	兼任 講師	西尾 純子 (57) <平成30年4月> 修士 (都市情報学)
	学校経営と学校図書館 情報メディアの活用		学校経営と学校図書館 情報メディアの活用		学校経営と学校図書館 情報メディアの活用		学校経営と学校図書館 情報メディアの活用
兼任 講師	丹羽 登 (57) <平成30年4月> 修士 (学校教育学)	兼任 講師	丹羽 登 (57) <平成30年4月> 修士 (学校教育学)	兼任 講師	丹羽 登 (58) <平成30年4月> 修士 (学校教育学)	兼任 講師	丹羽 登 (59) <平成30年4月> 修士 (学校教育学)
	知的障害者の心理・生理・病理 ※		知的障害者の心理・生理・病理 ※		知的障害者の心理・生理・病理 ※ 肢体不自由者の心理・生理・病理 ※		知的障害者の心理・生理・病理 ※ 肢体不自由者の心理・生理・病理 ※

兼任	講師	渡辺 智美 (48) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	渡辺 智美 (48) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	渡辺 智美 (49) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	渡辺 智美 (50) <令和2年4月> 修士(教育学)
		国際理解教育			国際理解教育			国際理解教育			国際理解教育
兼任	講師	Eric Hail (45) <平成30年4月> M.A. in German literature (米国)	兼任	講師	Eric Hail (46) <平成30年4月> M.A. in German literature (米国)	兼任	講師	Eric Hail (47) <平成30年4月> M.A. in German literature (米国)	兼任	講師	Eric Hail (48) <平成30年4月> M.A. in German literature (米国)
		日常の英会話 旅行の英会話 やさしいビジネス英会話			日常の英会話 旅行の英会話 やさしいビジネス英会話			日常の英会話 旅行の英会話 やさしいビジネス英会話			日常の英会話 旅行の英会話 やさしいビジネス英会話
兼任	講師	Jacoba Akazawa (61) <平成30年4月> M.Ed- TESOL(オーストラリア)	兼任	講師	Jacoba Akazawa (62) <平成30年4月> M.Ed- TESOL(オーストラリア)						
		日常の英会話 旅行の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話			日常の英会話 旅行の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話						
						兼任	講師	Jacques Wilburn Hardy (45) <平成30年4月> 修士(人間・環境学)	兼任	講師	Jacques Wilburn Hardy (46) <平成30年4月> 修士(人間・環境学)
								日常の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話			日常の英会話 英語実務(4技能) I 英語実務(4技能) II
兼任	講師	Jodie Campbell (47) <平成30年4月> M. Ed. (TESL) (オーストラリア)	兼任	講師	Jodie Campbell (47) <平成30年4月> M. Ed. (TESL) (オーストラリア)	兼任	講師	Jodie Campbell (48) <平成30年4月> M. Ed. (TESL) (オーストラリア)			
		日常の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話 歌って覚える英語表現			日常の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話 歌って覚える英語表現			英語基礎 I 英語基礎 II			
									兼任	講師	Thomas Nishikawa (49) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (TESOL) (オーストラリア)
											英語基礎 I 英語基礎 II 留学の英会話 おもてなしの英会話
						兼任	講師	Katy Simpson (34) <平成30年4月> MA English Language (英国)	兼任	講師	Katy Simpson (34) <平成30年4月> MA English Language (英国)
								日常の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話 やさしいビジネス英会話 歌って覚える英語表現			日常の英会話 旅行の英会話 おもてなしの英会話 英語実務(4技能) I 英語実務(4技能) II
兼任	講師	John Breen (61) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国)	兼任	講師	John Breen (61) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国)	兼任	講師	John Breen (62) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国)	兼任	講師	John Breen (63) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国)
		キリスト教と日本文化※			キリスト教と日本文化※			キリスト教と日本文化※			キリスト教と日本文化※
									兼任	講師	Rebecca Paterson (63) <平成30年10月> Ph. D. in oriental studies (英国)
											英語実務(4技能) I 英語実務(4技能) II 英語総合 I 英語総合 II
兼任	講師	VALVERDE IBANEZ Maria del Pilar (36) <平成29年4月> Ph. D. in spanish linguistics (スペイン)		兼任	安藤 幸治 (43) <平成29年4月> 博士(言語文化)						
		スペイン語			スペイン語						
									兼任	講師	平山 幸乃 (29) <平成30年4月> 博士(言語文化)
											スペイン語

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。
 - ・ その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実))、兼担、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・室田保夫 兼任教授の補充。
- ・相澤雅文 兼任講師の補充。
- ・伊藤 薫 兼任講師の辞退により、黒田一平 兼任講師の補充。
- ・科目開講期の変更により、翁 和美 兼任講師の就任時期の変更。
- ・教育体制充実のため、陶 盈 兼任講師の補充。
- ・坂本優一郎 兼任講師の辞退により、森本慶太 兼任講師の補充。
- ・教育体制充実のため、真田雅子 兼任講師の追加補充。
- ・田中美和子 兼任講師の辞退により、高田和美 兼任講師の補充。
- ・中村央希 兼任講師の改姓により、岡崎央希 兼任講師に変更。
- ・沼野尚美 兼任講師の辞退により、志藤修史 兼任講師の補充。
- ・平野江美 兼任講師の辞退により、村元由香利 兼任講師の補充。
- ・科目開講期の変更により、藤田朋子 兼任講師の就任時期の補充。
- ・松本ドロタ 兼任講師の辞退により、森ユキエ 兼任講師の補充。
- ・VALVERDE IBANEZ Maria Pilar 兼任講師の辞退により、安藤幸治 兼任講師の補充。

【平成30年度】

- ・平成30年3月 工藤哲夫 教授辞任
- ・平成30年4月 渡邊春美 教授就任。平成29年11月教員審査済。
- ・平成30年4月 神月紀輔の職名を准教授から教授に昇任。平成30年1月教員審査済。
- ・平成30年4月 大西慎也の職名を講師から准教授に昇任。平成29年7月教員審査済。
- ・平成30年4月 住本 純の職名を助教から講師に昇任。平成29年7月教員審査済。
- ・上田恵津子 兼任教授の辞任により、廣瀬直哉 兼任教授に変更。
- ・須川いずみ 兼任教授の辞退により、東郷多津 兼任准教授、York Weatherford 兼任講師に変更。
- ・廣瀬直哉 兼任教授の辞退により、後藤伸彦 兼任講師に変更。
- ・長沼光彦 兼任准教授の職名が、平成30年4月准教授から教授に変更。
- ・長沼光彦 兼任教授の辞退により、武田悠希 兼任講師の補充。
- ・平野美保 兼任准教授の辞退により、荒尾千春 兼任講師の補充。
- ・吉田（小野澤）朋子 兼任准教授の改姓により、吉田朋子 兼任准教授に変更。
- ・中里郁子 兼任講師の職名が、平成30年4月講師から准教授に変更。
- ・小都晶子 兼任講師の辞任により、根岸智代 兼任講師の補充。
- ・工藤春代 兼任講師の辞任により、鬼頭弥生 兼任講師の補充。
- ・小島秀信 兼任講師の辞任により、百木 漢 兼任講師の補充。
- ・真田雅子 兼任講師の辞任により、Daniel Pearce 兼任講師の補充。
- ・田中美和子 兼任講師、高田和美 兼任講師の辞任により、松岡真由子 兼任講師の補充。
- ・大喜直彦 兼任講師の辞任により、小林健太 兼任講師に変更。
- ・オムニバス科目に変更により、鳥越隆志 兼任講師の補充。
- ・教育充実のため、日笠みどり 兼任講師の補充。
- ・村元由香利 兼任講師の辞任により、住本 純 専任講師に変更。平成29年7月教員審査済。
- ・オムニバス科目に変更のため、廣田陽代 兼任講師の補充。
- ・Jacoba Akazawa 兼任講師の辞任により、Jacques Wilburn 兼任講師の補充。
- ・教育充実のため、Katy Simpson 兼任講師の補充。
- ・安藤幸治 兼任講師の辞任により、平山幸乃 兼任講師の補充。

【令和元年度】

- ・石井浩子 准教授の職名が准教授から教授に昇任。平成31年1月教員審査済。
- ・高井直美 兼任教授の辞退により、松島るみ兼任教授に変更。
- ・久野将健 兼任准教授の職名が、平成31年4月准教授から教授に変更。
- ・東郷多津 兼任准教授の辞退及び荒尾千春 兼任講師の辞任により、濱中倫秀 兼任講師の補充。
- ・長沼光彦 兼任教授の辞任により、吉澤健吉 兼任講師の補充。
- ・York Weatherford 兼任講師の職名が、平成31年4月講師から准教授に変更。
- ・伊藤薫 兼任講師の辞任により、田中祐子 兼任講師の補充。
- ・今井里佳 兼任講師の辞任により、石見恵子 兼任講師の補充。
- ・片山裕 兼任講師の辞任により、北澤義之 兼任講師の補充。
- ・北村友美子 兼任講師の辞退により、田線真弓 兼任講師の補充。
- ・久保 圭 兼任教師の辞任により、田丸歩美 兼任講師の補充。
- ・森本慶太 兼任講師の辞任により、上山益己 兼任講師の補充。
- ・教育充実（クラス増加）のため、田中美和子 兼任講師の補充。
- ・横山（須賀）真紀 兼任講師の辞任により、宮村教平 兼任講師の補充。
- ・Jodie Campbell 兼任講師の辞任及び教育体勢の見直し・充実のため、Thomas Nishikawa 兼任講師の補充。
- ・教育課程（科目増加）及び教育体勢の見直し・充実のため、Rebecca Paterson 兼任講師の補充。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
4	10	1	1	16	6	9	1	0	16
(4)	(10)	(1)	(1)	(16)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)
6	9	1	0	16	6	9	1	0	16
[2]	[Δ1]	[-]	[Δ1]	[-]	[2]	[Δ1]	[-]	[Δ1]	[-]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、**

完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65または70	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、

および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている

教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入

し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{16}{16} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{16} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
		該当なし							
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
0 人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
1	教授	工藤哲夫	H30.3	選択	現代社会とこども	①	H30.3.31付けで一身上の都合（家族同居、母の介護支援）のため辞任（30）		
				必修	こども教育フィールド研修	①			
				必修	こども教育基礎演習	①			
				選択	アクティブラーニングの指導法	①			
				選択	学習デザイン論	①			
				選択	初等教育実習 I a	①			
				選択	初等教育実習 II a	①			
				選択	初等教育実習 I b	①			
				選択	初等教育実習 II b	①			
				選択	国語	①			
				選択	国語科指導法	①			
				必修	こども教育演習	①			
				必修	教育の方法と技術	①			
				選択	教職実践演習(幼保)	①			
必修	卒業論文	①							
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
1 人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目
	選択	10	科目	選択	10	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	15	科目	計	15	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
1 人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目
	選択	10	科目	選択	10	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	15	科目	計	15	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{1}{16} = \boxed{6.25} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし						
合計					後任補充状況の集計			
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員(教授)の辞任については、単身赴任で、かつ母の居所と離れていたため、家族同居及び母の介護支援のためという事情であり、近隣大学への転出はやむを得ないと考えている。
既に後任の教員を補充しており、辞任教員の担当(予定)科目は後任教員が担当するほか、他の適任専任教員が担当し、学生への教育および履修等の影響はない。
科目担当教員の交代については、シラバスで担当教員を修正しているほか、年度当初に学生に対し周知を図っている。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画	
認 可 時 (平成28年8月)	・「LD等教育総論」と「LD教育総論」が混在して使われているが、科目内容から「LD教育総論」ではなく「LD等教育総論」と統一して使用すること。また、シラバスにLDと重度重複障害を混同していると思われる箇所があるため、適切に改めるとともに、重度重複障害に関する内容を充実すること。	留意事項	・設置認可補正申請の資料中に「LD等教育総論」とすべきところを誤って「LD教育総論」と記載していた箇所があった。精査の上「LD等教育総論」に統一した。シラバスの内容を精査し、混同していると思われかねない箇所を改めたほか、重度重複障害に関する内容を充実した。(別添2 参照)(29)	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年2月)	・現代人間学部こども教育学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	改善意見	・平成30年度における入学定員充足率は0.94倍であり、定員充足率の平均は0.8倍となった。今後も一層、広報活動に力を入れ、学生確保に努める。(30)	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年2月)	・同一設置者が設置する既設学部等(人間文化学部人間文化学科)の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	改善意見	・平成30年度における人間文化学部人間文化学科の4年間の定員充足率の平均は0.71倍となった。今後も一層、広報活動に力を入れ学生確保に努める。また、平成31年度から学びの特性をより明確に示す、国際日本文化学科に名称変更して学生確保に繋げる。(30)	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (平成31年3月)	該当なし			

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。

・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。

・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。

・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<現代人間学部 こども教育学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>FD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都ノートルダム女子大学FD委員会を設置（別添2 参照） <p>SD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校法人または大学事務局において実施 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>FD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回（8月及び12月を除く）年間10回開催 ・委員は各学科から選出された教員と担当課長で構成し、開催は全員出席を原則としている。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>FD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD活動の企画立案 ・FD活動の実施計画の策定及び評価 ・FDに関する研修及び研究 ・FD報告書の作成 ・FDに関する情報の収集と提供 ・FD関係団体との連携に関すること 等 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>FD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD研修会 ・全学教員FD研修会 ・大学コンソーシアム京都主催の「FDフォーラム」に委員として参画及び教職員の参加 ・オープンクラス開催 <p>SD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートルダム三校合同研修会 ・新任教職員研修会 ・教職員研修会 <p>b 実施方法</p> <p>FD活動・・・複数の機会を提供し教員参加の機会を確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内教員によるLMS（学習管理システム） ・全学教員FD研修会（授業方法等について） 平成30年度は学外講師による学朱評価についての講演 ・大学コンソーシアム京都主催のFD研修会への参加 ・平成30年度オープンクラス・・・教員相互の授業参観・コメント提出 <p>SD活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートルダム三校合同研修会・・・設立理念（ミッション・コミットメント） ・新任教職員研修・・・カトリック学校の使命、教育精神等 ・教職員研修・・・①学生支援に関する研修「大学に求められる合理的配慮とは何か」 ②ハラスメント防止に関する研修「アカデミックハラスメント防止を考える」 ③LGBTに関する研修「セクシュアル・マイノリティを知る」
--

c 開催状況（教員の参加状況含む）

F D活動

- ・ F D研修会
参加者数 62名（教員 72名のうち、56名参加、参加率 77.8%）
- ・ 全学 F D研修会
参加者数 56名（教員 72名のうち、51名参加、参加率 70.8%）
- ・ 大学コンソーシアム京都主催の F D研修会参加（F D研修会欠席者に対する措置）させた。
- ・ オープンクラス
ほぼ全科目について、前期 2週間、後期 3週間の「オープンクラス・ウィーク」を実施した。
授業参観者の「参観者コメントシート」は、それぞれ 50件であった。

S D活動

- ・ ノートルダム三校合同研修会・・・参加者数 教員 32名（事務系 50名）
- ・ 新任教職員研修・・・新規採用教職員 教員 7名（事務系 3名）
- ・ 教職員研修 ①参加者数 教員 38名（事務系 31名）
②参加者数 教員 46名（事務系 29名）
③参加者数 教員 46名（事務系 30名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 研修会によって、大学教育の動向や考え方、LMS（学習管理システム）の活用法、学習評価の方法が教員間で共有され、授業改善に活かされている。
- ・ オープンクラスでは、教員間で授業について検討することにより、授業方法の知識や技能を共有し授業改善に反映されるよう意識共有を図っている。
- ・ 大学の設立理念や学部・学科の設置趣旨等を再確認することにより、教育・指導に活かしている。
- ・ S D活動によって、主に事務系職員が基本的な教育関係法令の高い業務手法が提供でき得ることで、質の高い教員サービスが提供でき、間接的に教育の改善に活かされている。

（注）・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

（4）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

2007(平成19)年4月から「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、すべての学校において障害のある幼児児童生徒の教育のさらなる充実が求められるようになった。また、2015(平成27)年4月からの「子ども・子育て新制度」により、幼保連携型認定こども園に大きな期待が寄せられるようになった。現代人間学部こども教育学科は、このような社会的要請に応じて、保育士、幼稚園教員、小学校教員、特別支援学校教員の養成を1つの学科で総合的・専門的に行うことを設置の趣旨・目的としている。この趣旨・目的を達成するために、3つの教育課程、すなわち幼稚園1種免許状と保育士資格の取得をめざす教育課程（幼稚園教員・保育士コース）、幼稚園教諭1種免許状と小学校教諭1種免許状の取得をめざす教育課程（幼稚園・小学校教員コース）、小学校教諭1種免許状と特別支援学校教諭1種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）の取得をめざす教育課程（小学校・特別支援学校教員コース）を設定して、教員と保育士の養成に励んでいる。

こども教育学科の1年次生に対しては、保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校の観察実習を含む授業「こども教育基礎演習」「こども教育フィールド研修」を行い、その学びを踏まえて1年次前期の終了時にコースの選択を行わせている。それぞれの保育・教育現場の特性を自らの体験を通して理解した上で納得のいくコース選択ができることから、これらの授業は、学生たちからも好評であり、本学科の設置の趣旨・目的を達成するための初年次教育の中心的な機能を果たしている。また、コースへの分属後も、定期的に学生と面談する機会を設けて、課題の設定と自己省察を促すなどして、学習支援とキャリア支援を継続的に行っている。

学生入学状況については、初年度から、入試広報（大学ホームページ、高等学校への学校訪問、オープンキャンパス等）及び高等学校の模擬授業などを通じて、こども教育学科の設置の目的や意義、教育課程の特徴の周知を図ることで志願者数の拡大に懸命に努め、入学者は、平成29年度46名、平成30年度66名で、平成31年度には定員充足を見込んでいたが、結果は50名となった。競合他大学も同様に入学者減少となっているようであるが、次年度の募集にあたって、平成31年度結果を細かに分析し、学生から選ばれる学科と目指して、いっそう力を尽くしたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和元年11月末 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和4年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける予定。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 8 月 1 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ - ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。